

社 会  
(歷史的分野)

社会の目標等について
<p><b>【教科の目標】</b></p> <p>第1 目標</p> <p>広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。</p>
<p><b>【学年・分野・領域等の目標など】</b></p> <p>[歴史的分野]</p> <p>(1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。</p> <p>(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。</p> <p>(3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。</p> <p>(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。</p>

**【参考】**

- 社会科、地理歴史科、公民科においては、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。
- 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。
- 標準授業時数 130単位時間

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・729	新しい社会 歴史
取扱内容 各学年の目標、 内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物や文化財を時代毎に表にまとめたり、テーマの決め方、考察やまとめ方のポイントを基に身近な地域を調べたりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明について共通する特色を整理したり、旧石器時代と新石器時代について道具、食べ物、生活の観点から違いをまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、平氏の政治と摂関政治を比較して共通点や違いについて整理したり、室町時代の文化財を取り上げ、その文化財から分かる室町文化の特色を説明したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について戦国大名の政策と比較してまとめたり、化政文化の特色について学問、文芸、絵画の分野毎に説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について日本にとって不利な点をまとめたり、第一次世界大戦の前後で欧米を中心としたどのような変化があったかを説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長の影響についてプラス面とマイナス面から説明したり、冷戦後の国際社会の動きについて対立と協調の二つの側面から説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「この時代の特色をとらえよう」において、時代を大きく動かした出来事を比較表や新聞、年表を用いてまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを短文で表現したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の 排列、 構成・ 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、歴史のとらえ方において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に、時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史のとらえ方」は14ページ、「古代までの日本」は44ページ、「中世の日本」は34ページ、「近世の日本」は44ページ、「近代の日本と世界」は98ページ、「現代の日本と世界」は37ページであり、総ページ数は271ページで、前回より約9%増となっている。</p>			
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「蝦夷錦を着たアイヌの首長」の図版を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵による開拓」の写真を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史スキル・アップ」において、様々な歴史の学習の仕方を提示している。</li> <li>・「えんぴつマーク」において、具体的な作業や活動の仕方を提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるように、朝鮮、中国、欧米の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「日本の国宝・重要文化財」、巻末に「各地の主な史跡」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、振り仮名をゴシック体にするなど工夫されている。</li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・730	中学社会 歴史 未来をひらく
取扱内容 各学年の目標、内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物の情報をまとめたカードをテーマ毎に整理したり、時代の分け方や年表の見方について確認したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明について共通する特色を整理したり、旧石器時代と新石器時代について暮らしの共通点や違いをまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、平氏の政治と摂関政治を比較して似ている点について整理したり、室町文化の中から現代に伝わるものを取り上げ室町文化の特色を説明したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された観点でまとめたり、元禄文化と化政文化の共通点や時代背景の違いについて説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について日本にとって不利な点をまとめたり、第一次世界大戦後に国際社会で起きた大きな動きをあげて大戦前との違いを説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長による産業構造の変化について説明したり、冷戦終結による国際社会の変化について対立と紛争の用語を使って説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習のまとめと表現」において、時代を大きく動かした出来事を年表や地図、図表にまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを説明したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の 排列、 構成・ 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、歴史のとらえ方において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に、時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史のとらえ方」は9ページ、「古代までの日本」は38ページ、「中世の日本」は34ページ、「近世の日本」は44ページ、「近代の日本と世界」は104ページ、「現代の日本と世界」は32ページであり、総ページ数は261ページで、前回より約2%増となっている。(B5判からA B判に変更)</p>			
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「シャクシャインの像」の写真を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵による開拓」の写真を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時代の変化に着目しよう」において、学習を広げ深める課題を提示している。</li> <li>・「読み解こう」において、資料の読み取りや考察の仕方を提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるよう、朝鮮、中国の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「歴史のなかの言葉」、巻末に「各地の遺跡・史跡・できごと」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい配色にするなど工夫されている。</li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	35・清水	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・731	新中学校 歴史 日本の歴史と世界
取扱内容 各学年の目標、 学習指導要領の 総則及び各教科、 内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物や出来事、時代毎の特色をYチャートを用いて考えたり、各時代の特色を示すキャッチコピーを作成し発表したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明についてそれぞれの特徴を整理したり、旧石器時代と新石器時代について衣食住や文化等の内容をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代と奈良時代の人々の生活の様子を比較して違いについて整理したり、室町文化の中から、日本の伝統文化として現代にまで至るものをまとめたりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された語句を使ってまとめたり、化政文化の特色を文学、演劇、絵画、和歌・俳句の分野毎に説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について内容をまとめたり、第一次世界大戦後の世界の国際関係がどのように変わったのかを説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長の陰で発生した問題について説明したり、冷戦後も続いている対立や、新たに起きた問題について説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「各章をまとめてみよう」において、時代の流れや文化の特色、世界との関係について年表で整理したり、それぞれの時代の特色について考えたことを説明したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の 排列、 構成・ 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、歴史のとらえ方において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に、時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できる工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史のとらえ方」は9ページ、「古代までの日本」は52ページ、「中世の日本」は32ページ、「近世の日本」は56ページ、「近代の日本と世界」は102ページ、「現代の日本と世界」は29ページであり、総ページ数は280ページで、前回より約1%増となっている。</p>			
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「シャクシャインの像」の写真を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「札幌農学校」の写真を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「付箋マーク」において、図版などを読み取るためのヒントを提示している。</li> <li>・「深めよう」において、まとめ方や考え方のポイントを提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるように、中国、朝鮮、西洋の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「世界の地図」、巻末に「日本の歴史的遺産」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、読み取りやすい活字にするなど工夫されている。</li> </ul>			

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	46・帝国	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・732	社会科 中学生の歴史
取扱内容 各学年の目標、 学習指導要領の 総則及び各教科、 内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、身近な地域の歴史について小学校で学習した歴史上の人物や遺跡・遺物、行事・風習等のテーマを設定し調査したり、調査結果をまとめて発表したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明について共通する特色を整理したり、旧石器時代と新石器時代について人々の生活の変化の様子をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代と奈良時代の人々の生活の様子を比較して共通点や違いについて整理したり、室町文化や当時の習慣の中で現在でも身近なものをまとめたりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された観点でまとめたり、化政文化の特色を幕末に文字を読める人の割合から説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について内容をまとめたり、第一次世界大戦後に国際連盟が強い力をもてなかった理由を説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長によって現れてきた問題について説明したり、現代の時代の特色や冷戦終結による国際社会の変化について説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習をふりかえろう」において、時代を大きく動かした出来事を年表や地図、図表にまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを説明したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の 排列、 構成・ 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、歴史のとらえ方において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に、時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史のとらえ方」は11ページ、「古代までの日本」は38ページ、「中世の日本」は36ページ、「近世の日本」は52ページ、「近代の日本と世界」は98ページ、「現代の日本と世界」は28ページであり、総ページ数は263ページで、前回より約5%増となっている。(B5判からA B判に変更)</p>			
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「アイヌオムシャ」の図版を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵の出身地」の資料を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「技能をみがく」において、レポートのまとめ方や発表の仕方を提示している。</li> <li>・「資料活用」において、資料を読み解く課題を提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるように、朝鮮、中国の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「日本各地の伝統行事と祭り」、巻末に「日本地図の歴史」等を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、読み取りやすい活字にするなど工夫されている。</li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
<p>取扱内容</p> <p>各学年の目標、 学習指導要領の総則及び各教科、 内容等</p>	116・日文	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・733	中学社会 歴史的分野
<p>内容の 排列、 構成・ 分量等</p>	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物や出来事から代表的なものを選びワークシートにまとめたり、調べ方のポイントを基に調べてまとめたことを発表したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明について共通点や異なる点を整理したりする活動や、旧石器時代と新石器時代について人々の生活の特徴をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、平氏の政治と摂関政治を比較して共通点と違いについて整理したり、室町文化が現在の生活にどのような形で残っているかを説明したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された観点でまとめたり、元禄文化と化政文化の違いを時代背景を踏まえて説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について内容をまとめたり、第一次世界大戦後のヨーロッパとアジアの動きを比較し、世界の変化について説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長による国民生活の変化について説明したり、現代の時代の特色について、冷戦後の国際社会の動きと日本のかかわりを説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習の活用」において、時代を大きく動かした出来事を年表や地図、図表にまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを説明したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「シャクシャインの戦いの関係図」の図版を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵による開拓」の図版を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読み取ろう」において、図版の内容を読み取る視点を提示している。</li> <li>・「スキルup」において、系図の見方や発表の仕方を提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるように、朝鮮、中国の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「国県対照と五畿七道」、巻末に「教科書に出てくる主なできごと・史跡・関係地」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、振り仮名をゴシック体にするなど工夫されている。</li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
<p>取扱内容</p> <p>各学年の目標、内容等</p>	225・自由社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・737	中学社会 新しい歴史教科書
<p>内容の 排列、 構成・ 分量等</p>	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物についてカードや伝記にまとめたり、身近な地域の歴史の調べ方のポイントを基に調べ学習の結果を発表したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明についてそれぞれの特徴を整理したり、旧石器時代と新石器時代について人々の生活の変化の様子をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、平氏の政治と摂関政治を比較して共通点について整理したり、室町時代の文化財を取り上げ、そこから分かる室町文化の特色を説明したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った改革や政策を発表したり、化政文化の特徴を大衆が広く様々な情報を受け取った手段を視点として説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について問題点をまとめたり、ベルサイユ条約による第一次世界大戦後の処理の問題点を説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長について指定されたキーワードを入れて説明したり、共産主義が崩壊した理由と冷戦終結の過程について説明したりする活動</li> </ul> <p>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「章のまとめ」において、時代の特色を「ひとこと」作文にまとめたり、それぞれの時代の特徴的な出来事背景等についての意見交換をしたりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</p>			
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「松前藩とアイヌの人々との交易の儀式を復元した模型」の写真を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵による開拓」の図版を取り上げている。</li> </ul> <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史を学んで」において、様々な歴史の学習方法を提示している。</li> <li>・「もっと知りたい」において、単元の学習を広げ深める課題を提示している。</li> </ul> <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるように、朝鮮、中国の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「日本の伝統的工芸品」、巻末に「年号と西暦の早見表」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、振り仮名をゴシック体にするなど工夫されている。</li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
取扱内容 各学年の目標、内容等	227・育鵬社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・735	中学社会 新しい日本の歴史
内容の 排列、 構成・ 分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物について情報をカードにまとめて整理したり、身近な地域についてテーマを設けて調査したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明について共通する特色を整理したり、旧石器時代と新石器時代について人々の生活の変化の様子をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉幕府の仕組みと古代の律令政治の仕組みを比較して違いについて整理したり、室町文化の中で現在の暮らしに生きているものをまとめたりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された語句を使ってまとめたり、化政文化の特色を文学、俳諧、芸術、美術の代表的な人物をあげて説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について内容をまとめたり、第一次世界大戦後にロシア、ヨーロッパ、アメリカの様子から世界はどのように変わったのかを説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長による日本の経済や国民生活の変化について説明したり、冷戦後の地域紛争の様子とグローバル化の進展について説明したりする活動</li> </ul> </li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習のまとめ」において、時代を大きく動かした出来事を年表や地図、キャッチフレーズにまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを話し合ったりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</li> </ul>			
使用上の 配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「アイヌ・オムジャ」の図版を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「屯田兵による開拓」の図版を取り上げている。</li> </ul> </li> <li>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題学習」において、調査の仕方やまとめ方を提示している。</li> <li>・「歴史にズームイン」において、学習を広げ深める課題を提示している。</li> </ul> </li> <li>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を世界の動きと関連付けて学習できるよう、中国、朝鮮、西洋の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「日本の美」、巻末に「各地の主な遺跡・史跡」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、振り仮名をゴシック体にするなど工夫されている。</li> </ul> </li> </ul>			

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	229・学び舎	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・738	中学社会 ともに学ぶ人間の歴史
取扱内容  各学年の目標、 学習指導要領の 総則及び各教科、 内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史のとらえ方」において、小学校で学習した歴史上の人物や出来事から代表的なものを選びカードにまとめたり、年代の表し方、時代の区切り方について確認したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、世界の古代文明についてそれぞれの特徴を整理したり、旧石器時代と新石器時代について人々の生活の変化の様子をまとめたりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代と奈良時代の人々の生活の様子を比較して違いについて整理したり、室町文化の中から、日本の伝統文化として現代にまで至るものをまとめたりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田信長と豊臣秀吉が行った政治について指定された観点でまとめたり、化政文化の特色を文学、美術の代表的な人物をあげて説明したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、ペリー来航後、アメリカとの間で結ばれた条約について内容をまとめたり、第一次世界大戦後にロシア、アメリカ、ヨーロッパなどがどのように変化したのかを説明したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、高度経済成長による国民生活の変化について説明したり、冷戦終結による国際社会の変化について冷戦後の紛争・戦争を取り上げ説明したりする活動</li> </ul> </li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「部のまとめ」において、時代を大きく動かした出来事を年表や地図、表にまとめたり、それぞれの時代の特色について考えたことを説明したりするなど、知識・技能を活用する学習活動が取り上げられている。</li> </ul>			
内容の 排列、 構成・ 分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列については、歴史のとらえ方において、歴史の学び方を学習した後に、時代区分毎に、時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされている。</li> <li>○ 内容の分量については、「歴史のとらえ方」は6ページ、「古代までの日本」は46ページ、「中世の日本」は32ページ、「近世の日本」は56ページ、「近代の日本と世界」は112ページ、「現代の日本と世界」は38ページであり、総ページ数は290ページとなっている。(判型はA4判)</li> </ul>			
使用上の 配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌの人たちの歴史や文化について、「アイヌの首長・ツキノエ」の図版を取り上げている。</li> <li>・江戸末期から明治初期の北海道の様子について、「松浦武四郎がつくった蝦夷地の地図」の写真を取り上げている。</li> </ul> </li> <li>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習課題」において、課題設定の仕方を提示している。</li> <li>・「歴史を体験する」において、具体的な作業や活動の仕方を提示している。</li> </ul> </li> <li>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を、世界の動きと関連付けて学習できるよう、中国、朝鮮の時代区分の項目を位置付けた年表を掲載している。</li> <li>・学習を深めることができるよう、巻頭に「世界の歴史地図」、巻末に「日本の歴史地図」を掲載している。</li> <li>・全ての生徒が学習しやすいよう、振り仮名をゴシック体にするなど工夫されている。</li> </ul> </li> </ul>			

＜歴史的分野の具体的な調査項目＞

◎調査研究の対象とした事項

- ① 大項目ごとのページ数及び総ページ数
- ② 大項目ごとに取り上げている歴史上の人物の数
- ③ 大項目ごとに取り上げている歴史的事象等の数
- ④ 伝統や文化に関する内容を取り上げているページ数
- ⑤ 我が国の領土に関する内容を取り上げているページ数
- ⑥ 自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数
- ⑦ 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野に関連し、現代の社会的事象を取り上げているページ数
- ⑧ 社会的事象の意味、意義を解釈する学習及び事象の特色や事象間の関連を説明するなどの学習方法を取り上げているページ数
- ⑨ 北海道とかかわりのある内容(北海道に関する歴史的事象)を取り上げている箇所数
  - (1)アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げている箇所数
  - (2)道内の市町村等を取り上げている箇所数
- ⑩ 自ら進んで学習したり、調べたりするなど主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数
- ⑪ 補充的な学習や発展的な学習に関する内容を取り上げているページ数

◎調査対象項目にした理由

- ① 学習指導要領に示されている歴史的分野の内容を適切に指導することが求められていることから、大項目ごとや全体としての分量を把握する必要があるため。
- ② 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物を取り上げ、主体的に社会を変革し、歴史の形成に果たした役割について学ぶことが求められていることから、取り上げられている歴史上の人物の取扱いについて把握する必要があるため。
- ③ 我が国の歴史の大きな流れを理解させ、歴史について考察する力や説明する力を育てることが求められていることから、取り上げられている歴史的事象の取扱いについて把握する必要があるため。
- ④ 伝統や文化についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくむことが求められていることから、伝統や文化に関する内容の取扱いについて把握する必要があるため。
- ⑤ 明治初期におけるロシアとの領土の画定や明治期に我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯に触れること、沖縄返還などを取り扱うことが求められていることから、我が国の領土に関する内容について把握する必要があるため。
- ⑥ 自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実が求められていることから、自然災害及び防災に関する内容について把握する必要があるため。
- ⑦ 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培うことが求められていることから、各分野間の有機的な関連を図る必要がある社会的事象の取扱いについて把握する必要があるため。
- ⑧ 基礎的・基本的な知識、概念を活用し、思考力・判断力・表現力等を確実に育むことが求められていることから、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの学習方法の取扱いについて把握する必要があるため。
- ⑨ 生徒が興味・関心をもって学習することができるよう地域の実態などを生かした指導計画を作成することが求められていることから、北海道にかかわる内容等について把握する必要があるため。
- ⑩ 生徒の学ぶ意欲を高め、探究する力を育むことが求められていることから、実生活や実社会と関連付け、主体的な学習を促す学習内容の取扱いについて把握する必要があるため。
- ⑪ 個々の生徒の理解に応じ、きめ細かな指導をすることが求められていることから、補充的な学習や発展的な学習に関する内容の取扱いについて把握する必要があるため。

様式 4

※調査項目の数字が網掛けになっている項目は、別記にデータを掲載していることを示す。

調査項目			発行者		東	教	清	帝	日	自由	育	学
			書	出	水	国	文	社	鵬	舎		
①	大項目ごとのページ数	歴史のとらえ方	ページ数	14	9	9	11	8	18	8	6	
			割合	5%	3%	3%	4%	3%	7%	3%	2%	
	古代までの日本	ページ数	44	38	52	38	44	56	52	46		
		割合	16%	15%	19%	14%	16%	21%	19%	16%		
	中世の日本	ページ数	34	34	32	36	38	28	32	32		
		割合	13%	13%	11%	14%	14%	10%	12%	11%		
	近世の日本	ページ数	44	44	56	52	50	44	54	56		
		割合	16%	17%	20%	20%	18%	16%	19%	19%		
	近代の日本と世界	ページ数	98	104	102	98	98	98	98	112		
		割合	36%	40%	36%	37%	36%	36%	35%	39%		
現代の日本と世界	ページ数	37	32	29	28	36	29	33	38			
	割合	14%	12%	10%	11%	13%	11%	12%	13%			
総ページ数				271	261	280	263	274	273	277	290	
前回の総ページ数				249	257	278	250	264	263	250		(※6)
増減				9%	2%	1%	5%	4%	4%	11%		
②	取り上げている歴史上の人物の数 (※1)	古代までの日本		39	40	39	34	35	50	51	43	
		中世の日本		66	56	39	55	43	40	58	47	
		近世の日本		79	82	73	53	50	74	125	68	
		近代の日本と世界		128	158	85	132	111	82	171	107	
		現代の日本と世界		46	25	8	32	13	31	57	27	
		合計		358	361	244	306	252	277	462	292	
③	取り上げている歴史的 事象等の数 (※2)	古代までの日本		229	181	235	153	141	241	211	221	
		中世の日本		185	159	147	162	105	140	164	179	
		近世の日本		253	191	221	187	111	217	226	264	
		近代の日本と世界		388	339	325	282	213	355	299	416	
		現代の日本と世界		153	141	135	116	88	95	116	179	
		合計		1208	1011	1063	900	658	1048	1016	1259	
④	伝統や文化に関する内容を取り上げているページ数			45	46	43	63	49	44	66	38	
⑤	我が国の領土に関する内容を取り 上げているページ数	北方領土		9	11	4	6	5	7	8	6	
		竹島		4	2	1	4	2	2	2	1	
		尖閣諸島		4	2	1	4	2	1	2	1	
		領土		4	6	6	10	6	8	4	5	
⑥	自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページ数			8	4	3	5	5	2	1	4	
⑦	地理的、歴史的、公的的分野の三分野に関連し、現代の社会的 事象を取り上げているページ数			15	18	16	12	17	12	13	20	
⑧	社会的事象の意味、意義を解釈する学習及び事象の特色 や事象間の関連を説明するなどの学習方法を取り上げて いるページ数 (※3)			101	115	114	101	106	103	99	26	
⑨	北海道に関する歴 史的な事象を取り上 げている箇所数	アイヌの人たちの歴史・文化等		21	25	13	31	22	6	8	26	
		道内の市町村等		30	35	21	59	25	19	25	25	
⑩	主体的な学習を促す内容を取り上げているページ数 (※4)			49	68	122	76	93	37	35	18	
⑪	補充的な学習や発展的な学習に関する内容を取り上げて いるページ数 (※5)			0	0	0	0	0	0	0	0	

(※1) 調査項目②の「歴史上の人物」については、索引に記載されているものを対象とした。

(※2) 調査項目③の「歴史的な事象等」については、索引に記載されているものを対象とした。

(※3) 調査項目⑧の「社会的な事象の意味、意義を解釈する学習及び事象の特色や事象間の関連を説明するなどの学習方法」については、東書は「確認・机マーク」「この時代の歴史の学習を確認しよう」「この時代の特色をとらえよう」、教出は「ふりかえる」「学習のまとめと表現」、清水は「まとめてみよう」「各章をまとめてみよう」、帝国は「確認しよう」「説明しよう」「学習をふりかえろう」、日本文は「とらえよう！時代の転換」「学習の活用」「学習の確認と活用」、自由社は「まとめにチャレンジ」「章のまとめ」、育鵬社は「鉛筆マーク」「学習のまとめ」「歴史学習のまとめ」、学び舎は「指しマーク」「部のまとめ」「章をふりかえる」が掲載されているページを対象とした。

(※4) 調査項目⑩の「主体的な学習を促す内容」については、東書は「深めよう」「歴史・スキルアップ」「えんぴつマーク」「調査の達人」、教出は「読み解こう」「時代の変化に着目しよう」「歴史を探ろう」、清水は「付箋マーク」「もっと知りたい歴史」「深めよう」、帝国は「技能をみがく」「資料活用」「歴史を探ろう」「タイムトラベル」、日本文は「スキルアップ」「読み取ろう」「考えよう」「伝えよう」「歴史を掘り下げる」、自由社は「もっと知りたい」「歴史を学んで」、育鵬社は「課題学習」「歴史にズームイン」、学び舎は「学習課題」「歴史を体験する」が掲載されているページを対象とした。

(※5) 調査項目⑪の「補充的な学習や発展的な学習に関する内容」については、発展的な学習を示すマークが付いている学習が掲載されているページを対象とした。

(※6) 学び舎については、前回は調査研究していないため、増減の比較については割愛する。

別記 1

様式 4 の調査項目②「取り上げている歴史上の人物」の具体的な内容

東 書					
古代までの日本	<p>【古代文明のおこりと発展】 ハンムラビ王</p> <p>【中国文明の発展】 孔子 始皇帝</p> <p>【ギリシャ・ローマの文明】 アレクサンドロス大王</p> <p>【宗教のおこりと三大宗教】 イエス シャカ ムハンマド</p>	<p>【弥生文化と邪馬台国】 卑弥呼</p> <p>【大王の時代】 武</p> <p>【聖徳太子の政治改革】 持統天皇 聖徳太子 推古天皇 蘇我馬子 天武天皇 小野妹子</p>	<p>【大化の改新】 蘇我入鹿 蘇我蝦夷 中臣(藤原)鎌足 中大兄皇子(天智天皇) 大友皇子</p> <p>【奈良時代の人々のくらし】 長屋王</p>	<p>【天平文化】 阿倍仲麻呂 鑑真 光明皇后 聖武天皇 大伴家持 行基</p> <p>【平安京と東アジアの文化】 桓武天皇 空海 最澄 坂上田村麻呂 アテルイ 菅原道真</p>	<p>【摂関政治と文化の国風化】 藤原道長 藤原頼通 紀貫之 清少納言 紫式部</p> <p>【現代に受けつがれる神話】 知里幸恵</p>
中世の日本	<p>【武士の成長】 平将門 藤原純友 源義家</p> <p>【武士の政権の成立】 後三条天皇 後白河天皇 白河天皇 崇徳上皇 平清盛 平重盛 平忠正 鳥羽上皇 藤原忠通 藤原信頼 藤原通憲 藤原頼長 源為朝 源為義 源義朝 源義平 源頼朝</p>	<p>【鎌倉幕府の成立と執権政治】 源義経 源頼家 後鳥羽上皇 北条時政 北条政子 北条泰時 源実朝</p>	<p>【鎌倉時代の文化と宗教】 運慶 鴨長明 兼好法師 西行 藤原定家 一遍 栄西 親鸞 道元 日蓮 法然</p>	<p>【モンゴルの襲来と日本】 チンギス・ハン フビライ・ハン 北条時宗 足利尊氏 楠木正成 後醍醐天皇 マルコ・ポーロ</p> <p>【南北朝の動乱と室町幕府】 足利義満</p> <p>【東アジアとの交流】 李成桂 コシヤマイン</p>	<p>【応仁の乱と戦国大名】 足利義教 足利義尚 足利義政 足利義視 細川勝元 山名持豊 今川義元 上杉謙信 島津貴久 武田信玄 毛利元就</p> <p>【室町文化とその広がり】 観阿弥 世阿弥 雪舟 善阿弥</p> <p>【戦国時代の城下町・一乗谷】 明智光秀 織田信長 足利義昭</p>
近世の日本	<p>【キリスト教世界とルネサンス】 カルバン ザビエル ミケランジェロ ルター レオナルド・ダ・ビンチ</p> <p>【ヨーロッパと外の世界】 コロンブス バスコ・ダ・ガマ マゼラン</p> <p>【ヨーロッパ人との出会い】 伊東マンショ 大友宗麟 千々石ミゲル 中浦ジュリアン 原マルチノ</p> <p>【織田信長、豊臣秀吉による統一事業】 明智光秀(再掲) 足利義昭(再掲) 今川義元(再掲) 織田信長(再掲) 武田勝頼 豊臣秀吉</p>	<p>【兵農分離と朝鮮侵略】 李參平 李舜臣</p> <p>【桃山文化】 狩野永徳 狩野山楽 千利休 阿国</p> <p>【江戸幕府の成立と支配のしくみ】 石田三成 徳川家康 豊臣秀頼 毛利輝元 徳川家光</p> <p>【貿易の振興から鎖国へ】 山田長政 天草四郎(益田時貞) 徳川秀忠</p> <p>【鎖国下の対外関係】 シャクシャイン</p> <p>【交通路の整備と都市の繁栄】 河村瑞賢 三井高利</p>	<p>【幕府政治の安定と元禄文化】 新井白石 尾形光琳 徳川綱吉 徳川光圀 市川団十郎 井原西鶴 坂田藤十郎 俵屋宗達 近松門左衛門 菱川師宣 松尾芭蕉</p> <p>【享保の改革と社会の変化】 徳川吉宗</p> <p>【田沼の政治と寛政の改革】 田沼意次 松平定信 近藤重蔵 大黒屋光太夫 細川重賢 間宮林蔵 最上徳内 ラクスマン レザノフ</p>	<p>【新しい学問と化政文化】 伊能忠敬 杉田玄白 徳川家斉 本居宣長 歌川広重 緒方洪庵 葛飾北斎 喜多川歌麿 小林一茶 シーボルト 十返舎一九 鈴木春信 滝沢馬琴 東洲斎写楽 与謝蕪村</p>	<p>【外国船の出現と天保の改革】 大塩平八郎 高野長英 ペリー 水野忠邦 渡辺崋山</p> <p>【浮世絵にえがかれた風景から】 ゴッホ</p> <p>【歴史の中のイスラム文化】 ムハンマド(再掲)</p>
近代の日本と世界	<p>【近代革命の時代】 クロムウェル ニュートン モンテスキュー ルソー ロック ワシントン ルイ 14 世 ナポレオン</p> <p>【産業革命と 19 世紀の</p>	<p>【新政府の成立】 三条実美 明治天皇 板垣退助 大隈重信</p> <p>【富国強兵と文明開化】 渋沢栄一 中江兆民 福沢諭吉</p> <p>【近代的な国際関係】</p>	<p>【韓国と中国】 石川啄木 寺内正毅 梅屋庄吉 袁世凱 孫文 宮崎滔天</p> <p>【近代文化の形成】 岡倉天心 荻原守衛</p>	<p>【ロシア革命】 ニコライ 2 世 レーニン スターリン</p> <p>【国際協調の高まり】 ウイルソン 新渡戸稲造</p> <p>【アジアの民族運動】 ガンディー</p> <p>【大正デモクラシーと政</p>	<p>【欧米の情勢とファシズム】 ヒトラー ムッソリーニ</p> <p>【昭和恐慌と政党内閣の危機】 蒋介石 張作霖 浜口雄幸</p> <p>【満州事変と軍部の台</p>

	<p>ヨーロッパ】 ビスマルク マルクス 【ロシアとアメリカの発展】 ピョートル1世 ペリー(再掲) リンカン 【開国と不平等条約】 井伊直弼 ハリス 【尊王攘夷運動と開国の影響】 徳川家茂 吉田松陰 【江戸幕府の滅亡】 大久保利通 木戸孝允 近藤勇 西郷隆盛 高杉晋作 徳川慶喜 岩倉具視 勝海舟 坂本龍馬</p>	<p>伊藤博文 津田梅子 山口尚芳 【国境と領土の確定】 尚泰 【自由民権運動の高まり】 江藤新平 植木枝盛 【立憲制国家の成立】 黒田清隆 【欧米列強の侵略と条約改正】 井上馨 小村寿太郎 セシル・ローズ 陸奥宗光 【日清戦争】 ビゴ 八田與一 【日露戦争】 内村鑑三 幸徳秋水 与謝野晶子 東郷平八郎</p>	<p>狩野芳崖 黒田清輝 高村光雲 滝廉太郎 フェノロサ 二葉亭四迷 横山大観 歌川広重(再掲) 大森房吉 北里柴三郎 木村栄 ゴッホ(再掲) 志賀潔 鈴木梅太郎 高峰譲吉 長岡半太郎 夏目漱石 野口英世 樋口一葉 森鷗外 【「解放令」から水平社へ】 松方正義 島崎藤村 【足尾銅山と田中正造】 古河市兵衛 田中正造</p>	<p>党内閣の成立】 桂太郎 原敬 美濃部達吉 吉野作造 【広がる社会運動と普通選挙の実現】 加藤高明 平塚らいてう 【新しい文化と生活】 芥川龍之介 板谷波山 岸田劉生 小林多喜二 志賀直哉 竹久夢二 谷崎潤一郎 西田幾太郎 野口雨情 宮城道雄 柳宋悦 山田耕筰 【世界恐慌とブロック経済】 ルーズベルト</p>	<p>頭】 溥儀 リットン 犬養毅 松岡洋右 【日中戦争と戦時体制】 毛沢東 近衛文麿 【第二次世界大戦の始まり】 アンネ・フランク 杉原千畝 チャーチル 【太平洋戦争の開始】 東条英機 【戦争の終結】 昭和天皇 【北海道とアイヌ民族の歴史】 コシャマイン(再掲) シャクシャイン(再掲) 徳川家康(再掲) 【すべての子どもに教育を】 石井十次 留岡幸助</p>
現代の日本と世界	<p>【占領下の日本】 昭和天皇(再掲) 東条英機(再掲) マッカーサー 【冷戦の開始と植民地の解放】 毛沢東(再掲) ネルー 【独立の回復と55年体制】 吉田茂 岸信介</p>	<p>【緊張緩和と日本外交】 ケネディ フルシチョフ 鳩山一郎 佐藤栄作 田中角栄 【日本の高度経済成長】 池田勇人</p>	<p>【マスメディアと現代の文化】 黒澤明 長嶋茂雄 江崎玲於奈 王貞治 大江健三郎 川端康成 小柴昌俊 小林誠 司馬遼太郎 下村脩 白川英樹 鈴木章</p>	<p>大鵬 田中耕一 手塚治虫 利根川進 朝永振一郎 南部陽一郎 根岸英一 野依良治 福井謙一 益川敏英 松本清張 宮崎駿 山中伸弥 湯川秀樹</p>	<p>【冷戦後の国際社会】 ゴルバチョフ ブッシュ 鄧小平 【変化の中の日本】 小泉純一郎 細川護熙 【歴史の中の大震災】 ペリー(再掲) 【人類の歴史とエネルギー】 エディソン</p>
教 出					
古代までの日本	<p>【第2章とびら】 卑弥呼 【エジプトはナイルの賜物】 クフ王 ハンムラビ王 【骨に刻まれた文字】 孔子 シャカ 【東と西をつなぐ道】 始皇帝 イエス</p>	<p>【東アジアのなかの大和政権】 仁徳天皇 【広がる国際交流】 ムハンマド 【あつく三宝を敬え】 蘇我馬子 推古天皇 聖徳太子 煬帝 小野妹子</p>	<p>【律令国家への歩み】 中大兄皇子(天智天皇) 中臣鎌足(藤原鎌足) 大海人皇子(天武天皇) 大友皇子 持統天皇 【シルクロードにつながる道】 阿倍仲麻呂 鑑真 聖武天皇 柿本人麻呂 大伴家持 行基</p>	<p>【木簡と計帳は語る】 長屋王 山上憶良 【望月の欠けたることもなしと思えば】 桓武天皇 坂上田村麻呂 藤原道長 藤原頼通</p>	<p>【「以呂波」から「いろは」へ】 最澄 空海 菅原道真 紀貫之 紫式部 清少納言 【坂上田村麻呂と阿弼流為の戦い】 阿弼流為 嵯峨天皇 【神話にみる古代の人々の信仰】 神武天皇</p>
中世の日本	<p>【大陸をまたぐ大帝国】 チンギス=ハン マルコ=ポーロ フビライ=ハン 【貴族から武士へ】 平将門 藤原純友 白河天皇(上皇) 後白河上皇 平清盛 源義朝 源義家 源義経 源頼朝 【「一所懸命」の戦い】 源義仲 坂上田村麻呂(再掲) 一遍</p>	<p>【いざ鎌倉】 北条政子 北条時政 北条義時 後鳥羽上皇 源実朝 北条泰時</p>	<p>【祇園精舎の鐘の声】 法然 親鸞 日蓮 運慶 栄西 鴨長明 兼好法師 西行 道元 藤原定家 【地域の寺社や墓碑を訪ねて】 行基(再掲) 聖武天皇(再掲) 北条時宗 無学祖元 杜世忠</p>	<p>【海から押し寄せる元軍】 後醍醐天皇 楠木正成 足利尊氏 竹崎季長 安達泰盛 新田義貞 【このごろ都にはやるもの】 足利義満 【行き交う海賊船と貿易船】 李成桂 【北と南で開かれた交易】 尚巴志 コシャマイン</p>	<p>【下剋上の世へ】 今川義元 上杉謙信 島津貴久 武田信玄 【今につながる文化の芽生え】 観阿弥 世阿弥 足利義政 雪舟 蓮如 善阿弥</p>
近世	<p>【第4章とびら】 葛飾北斎 【中世からの脱却】</p>	<p>【宣教師が見た日本】 伊東マンショ 千々石ミゲル</p>	<p>【泰平の世の土台づくり】 石田三成 徳川秀忠</p>	<p>【連判状にまとまる人々】 徳川綱吉 孔子(再掲)</p>	<p>【「読み・書き・そろばん」の習い】 安藤昌益</p>

の 日 本	レオナルド＝ダ＝ビンチ ミケランジェロ コペルニクス ボッティチェリ ガリレイ ルター カルバン 【太陽の沈まない国】 コロンブス バスコ＝ダ＝ガマ マゼラン 【戦国の世に現れた南蛮人】 フランシスコ＝ザビエル 高山右近 【銀で結びつく世界】 伊達政宗 支倉常長	中浦ジュリアン 原マルチノ バリニャーノ 【天下統一を目ざして】 織田信長 今川義元（再掲） 足利義昭 武田勝頼 明智光秀 豊臣秀吉 徳川家康 【近世社会への幕開け】 加藤清正 小西行長 李舜臣 【城と茶の湯】 狩野永徳 狩野山楽 千利休 出雲の阿国	徳川家光 【東南アジアに広がる日本町】 山田長政 天草四郎 【開かれた窓】 シヤクシヤイン 【地域の街道や港を訪ねて】 松尾芭蕉 【花開く町人文化】 市川団十郎 井原西鶴 尾形光琳 俵屋宗達 近松門左衛門 菱川師宣 坂田藤十郎 関孝和 徳川光圀 中江藤樹	新井白石 林羅山 野國總管 青木昆陽 二宮尊徳 【繰り返される政治改革】 徳川吉宗 大岡忠相 田沼意次 松平定信 上杉鷹山（治憲）	伊能忠敬 緒方洪庵 賀茂真淵 シーボルト 杉田玄白 堀保己一 平賀源内 平田篤胤 前野良沢 本居宣長 歌川（安藤）広重 喜多川歌麿 ゴッホ 小林一茶 十返舎一九 滝沢馬琴 東洲斎写楽 与謝蕪村
近 代 の 日 本 と 世 界	【王は君臨すれども統治せず】 エリザベス1世 クロムウェル ルイ14世 カルバン（再掲） ロック モンテスキュー ルソー 【代表なくして課税なし】 ワシントン ナポレオン 【「世界の工場」の光とかげ】 ワット マルクス 【強大な国家を目ざして】 リンカーン ビスマルク ナイティンゲール デュナン 【国をゆるがす綿とアヘン】 洪秀全 【内と外の危機】 伊能忠敬（再掲） 大塩平八郎 大黒屋光太夫 松平定信（再掲） 間宮林蔵 ラクスマン 高野長英 徳川斉昭 水野忠邦 レザノフ 渡辺崋山 【たった四はいで夜も眠れず】 プチャーチン ペリー ハリス 堀田正睦 井伊直弼 【新たな政権を目ざして】 吉田松陰 伊藤博文 和宮 西郷隆盛 大久保利通 高杉晋作 木戸孝允 坂本龍馬 徳川家茂 孝明天皇	【御政事売り切れ申し候】 葛飾北斎（再掲） 明治天皇 徳川慶喜 山内豊信 後藤象二郎 福沢諭吉 【坂本龍馬と横井小楠】 勝海舟 横井小楠 【学習のまとめと表現】 岩倉具視 【万機公論に決すべし】 榎本武揚 三条実美 【人民に上下の別なき】 板垣退助 大隈重信（再掲） 【ザン切り頭をたたいてみれば】 クラーク モース コンドル 前島密 ムルドル フェノロサ 中江兆民 【智識を世界に求めて】 津田梅子 山川（大山）捨松 尚泰	【民撰議院を開設せよ】 川上音二郎 【憲法の条規により之を行 う】 黒田清隆 【山川（大山）捨松と津田梅 子】 大山巖（再掲） 森有札 【アイヌの文化を伝えた人 たち】 金田一京助 知里幸恵 【対等な条約を求めて】 セシル＝ローズ 陸奥宗光 山県有朋 青木周蔵 小村寿太郎 寺島宗則 井上馨 【朝鮮をめぐる戦い】 八田與一 【列強との戦い】 内村鑑三 幸徳秋水 東郷平八郎 与謝野晶子 高橋是清 【変わりゆく東アジア】 安重根 石川啄木 伊藤博文（再掲） 孫内正毅 孫文 袁世凱 【近代化産業を支えた糸と鉄】 渋沢栄一 豊田佐吉 【工業化のかげで】 片山潜 田中正造	【西洋文化と伝統文化】 大森房吉 岡倉天心 北里柴三郎 木村栄 黒田清輝 志賀潔 島崎藤村 鈴木梅太郎 高峰譲吉 高村光雲 滝廉太郎 坪内逍遙 長岡半太郎 夏目漱石 野口英世 樋口一葉 二葉亭四迷 正岡子規 森鷗外 横山大観 【パンと平和、民主主義 を求めて】 レーニン ウイルソン 【成金の出現】 岩崎弥太郎 【不戦の誓い】 新渡戸稲造 【わきあがる独立の声】 蔭介石 ガンディー 柳宗悦 石橋湛山 【憲政の本義を説いて】 桂太郎 西園寺公望 尾崎行雄 犬養毅 吉野作造 美濃部達吉 大正天皇 原敬	【デモクラシーのうねり】 平塚らいてう 市川房枝 加藤高明 【モボ・モガの登場】 西田幾多郎 柳田国男 志賀直哉 谷崎潤一郎 芥川龍之介 小林多喜二 岸田劉生 山田耕筰 【独裁者の出現】 ローズベルト ヒトラー ムッソリーニ スターリン 【日本を襲う不景気】 張作霖 浜口雄幸 【満州は日本の生命線】 溥儀 松岡洋右 【「話せばわかる」】 毛沢東 近衛文麿 【枢軸国と連合国の戦い】 アンネ＝フランク チャーチル 【米・英への宣戦布告】 東条英機 昭和天皇 【後藤新平と杉原千畝】 後藤新平 山本権兵衛 杉原千畝
現 代 の 日 本 と	【敗戦からの再出発】 マッカーサー 昭和天皇（再掲） 黒澤明 湯川秀樹 川端康成	【冷たい戦争の始まり】 毛沢東（再掲） ネルー 【独立から復興へ】 吉田茂 【自主・独立・平和を求め	【国際関係の変化】 アイゼンハワー 岸信介 周恩来 田中角栄	【高度経済成長の光と かげ】 池田勇人 【変動する国際社会】 オバマ ゴルバチョフ	【隣国と向き合うために】 金正日 小泉純一郎 【私たちの生きる時代へ】 安倍晋三 プーチン

世界	佐藤栄作	て] カストロ ケネディ フルシチョフ	ブッシュ	【平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」】 嘉納治五郎	
清 水					
古代までの日本	【植物と日本人】 シーボルト 【遺跡から原始の時代を探ろう】 相沢忠洋 【大河が生んだ文明】 シャカ（ガウタマ=シッダールタ 【地中海が育てた文明】 イエス 【東アジアで生まれた文明】 孔子 始皇帝	【東アジアのなかの日本】 卑弥呼 【古墳文化とヤマト王権の統一】 ワカタケル 【隋・唐王朝とイスラーム帝国】 玄奘 ムハンマド 【聖徳太子の政治と飛鳥文化】 聖徳太子（厩戸皇子） 小野妹子 推古天皇	【律令国家をめざして】 中臣鎌足 中大兄皇子 天智天皇 天武天皇 【平城京の建設と仏教】 鑑真 光明皇后 聖武天皇 行基 【資料を読み取ろう】 長屋王	【大陸の影響を受けた文化】 阿倍仲麻呂 【平安京へ都を移す】 桓武天皇 空海 最澄 坂上田村麻呂 【都の政治と地方のうごき】 藤原道長 藤原頼通 平将門 藤原純友	【武士の台頭と院政】 清原清衡 後三条天皇 白河天皇 鳥羽上皇 【国風文化】 菅原道真 紀貫之 清少納言 紫式部
中世の日本	【宋王朝とモンゴル帝国】 チンギス=ハン フビライ マルコ=ポーロ 【平氏政権と日宋貿易】 後白河天皇（上皇） 平清盛 源義朝 源頼朝 源義仲 源義経	【鎌倉幕府の成立と執権政治】 源実朝 後鳥羽上皇 北条政子 北条泰時 【絵画資料にみる人ひとの生活】 一遍	【新しい仏教と鎌倉文化】 栄西 親鸞 道元 日蓮 法然 卜部兼好（吉田兼好） 鴨長明 西行 菅原道真（再掲） 藤原定家	【元寇と鎌倉幕府の滅亡】 北条時宗 足利尊氏 楠木正成 後醍醐天皇 新田義貞 【建武の新政と室町幕府】 光明天皇 足利義満 【東アジア世界とのかかわり】 李成桂 コシヤミン	【応仁・文明の乱と社会の変動】 足利義尚 足利義政 足利義視 日野富子 蓮如 【室町時代の文化】 雪舟
近世の日本	【ヨーロッパ世界の形成】 カルバン ポッティチェリ ルター 【航路開拓とヨーロッパの拡大】 バスコ=ダ=ガマ コロンブス マゼラン 【戦国大名の登場】 北条早雲 上杉謙信 武田信玄 毛利元就 【鉄砲とキリスト教の伝来】 伊東マンショ 織田信長 ザビエル 千々石ミゲル 豊臣秀吉 中浦ジュリアン 原マルティノ	【信長・秀吉による全国の一統】 足利義昭 今川義元 明智光秀 【秀吉の政策】 李舜臣 【南蛮文化と桃山文化】 阿国 狩野永徳 狩野山楽 千利休 長谷川等伯 【人物を調べてみよう】 フロイス 【江戸幕府の成立と大名統制】 石田三成 徳川家康 徳川家光 徳川秀忠 【外国や周辺地域との関係】 雨森芳洲 シャクシャイン	【元禄時代の人びとの暮らし】 徳川綱吉 孔子（再掲） 【元禄文化と学問の進歩】 市川団十郎 坂田藤十郎 井原西鶴 尾形光琳 契沖 俵屋宗達 近松門左衛門 徳川光圀 菱川師宣 松尾芭蕉 【社会の変化と幕府政治の改革】 徳川吉宗 青木昆陽 【ききん・打ちこわしと幕府政治の立てなおし】 田沼意次 松平定信	【欧米諸国の接近と対応】 ラクスマン レザノフ 伊能忠敬 エカチェリーナ2世 大黒屋光太夫 間宮林蔵 【新しい学問と思想】 安藤昌益 石田梅岩 木下順庵 塙保己一 林羅山 新井白石 シーボルト（再掲） 杉田玄白 高野長英 前野良沢 本居宣長	【江戸後期の文化と民衆のくらし】 歌川広重（安藤広重） 葛飾北斎 喜多川歌麿 小林一茶 十返舎一九 滝沢馬琴 良寛
近代の日本と世界	【アメリカ植民地の発展】 エカチェリーナ2世（再掲） 【アメリカの独立とフランス革命】 ワシントン ナポレオン 【産業革命と近代社会の幕開け】 マルクス 【欧米諸国の勢力拡大】 リンカン 【開国直前の日本】 大塩平八郎 水野忠邦 島津斉彬 徳川斉昭 【ペリーの来航と開国】 阿部正弘 ペリー	【幕末の動乱のはじまり】 井伊直弼 徳川家茂 徳川慶喜 橋本左内 和宮 島津久光 高杉晋作 【江戸時代の終わり】 岩倉具視 木戸孝允 西郷隆盛 坂本竜馬 中岡慎太郎 伊藤博文 勝海舟 【明治維新】 明治天皇 山川捨松 【文明開化と教育の普及】	【民選議院の主張と士族の反乱】 川上音次郎 江藤新平 【自由民権運動と国会開設の公約】 中江兆民 ルソー 大隈重信 【内閣制度と大日本帝国憲法の制定】 黒田清隆 ベルツ 【立憲政治の定着と条約改正】 井上馨 小村寿太郎 寺島宗則 陸奥宗光 【近代とむかいあう中国と	【中国の革命と日本】 袁世凱 孫文 犬養毅 岡倉天心 宮崎滔天 【経済の発展とそのひずみ】 幸徳秋水 田中正造 【教育と文化の発展】 北里柴三郎 黒田清輝 高村光雲 夏目漱石 野口英世 フェノロサ 森鷗外 横山大観 【行き来する留学生】	【ロシア革命】 レーニン スターリン 【民族運動の高まり】 ガンジー 柳宗悦 【大正デモクラシーと政党政治の発展】 吉野作造 原敬 【都市化と文化の大衆化】 芥川竜之介 小林多喜二 【民主主義と国際協調のゆらぎ】 ヒトラー 【満州事変と軍部の政治介入】 蔣介石 溥儀

	ハリス	福沢諭吉 【世界見学に出かけた日本人】 新島襄 吉田松陰 【新しい国際関係】 津田梅子 板垣退助 大久保利通	朝鮮】 金玉均 【日露戦争】 東郷平八郎 与謝野晶子 【日本の植民地統治】 後藤新平 安重根	康有為 コッホ 穂積陳重 ファン=ボイ=チャウ 魯迅 【第一次大戦と日本】 ウィルソン	【第二次世界大戦のはじまり】 ピカソ ムッソリーニ 【アジア・太平洋地域の戦争】 東条英機
現代の日本と世界	【民主化をめざして】 マッカーサー	【第二次世界大戦後の世界】 毛沢東	【国際社会への復帰】 吉田茂	【沖縄の復帰、中国・韓国との関係】 佐藤栄作 田中角栄	【社会主義国の変化と冷戦の終結】 ゴルバチョフ ブッシュ 鄧小平
<b>帝 国</b>					
古代までの日本	【東・南アジアの文明の広がり】 孔子 始皇帝 シャカ 【ヨーロッパで芽生えた文明】 イエス ムハンマド 【弥生時代をながめてみよう】 卑弥呼	【鉄からみえるヤマト王権】 ワカタケル 【奈良時代をながめてみよう】 聖徳太子（厩戸王） 聖武天皇 蘇我馬子 中大兄皇子 藤原道長 【ヤマト王権と仏教伝来】 額田部王女（推古天皇） 小野妹子	【律令国家をめざして】 中臣（藤原）鎌足 阿倍仲麻呂 天武天皇 【大陸の影響を受けた文化】 光明皇后 行基 鑑真 大伴家持 柿本人麻呂 山上憶良	【権力をにぎった貴族たち】 桓武天皇 坂上田村麻呂 菅原道真 アテルイ 藤原頼通	【唐風から日本風へ変わる文化】 最澄 空海 紀貫之 紫式部 清少納言 空也
中世の日本	【鎌倉時代をながめてみよう】 平清盛 北条政子 源頼朝 【各地で生まれる武士団】 平将門 藤原純友 源義家 藤原秀衡 藤原基衡 源義経	【朝廷と結びつく武士】 白河天皇 後白河天皇 後三条天皇 源義朝 源義仲 【鎌倉を中心とした武家政権】 北条時政 後鳥羽上皇 北条泰時 源実朝	【武士や僧侶たちが広めた文化】 運慶 快慶 鴨長明 西行 藤原定家 兼好法師 親鸞 道元 法然 栄西 一遍 日蓮 【海をこえてせまる元軍】 チンギス=ハン フビライ=ハン 北条時宗 竹崎季長	【南北朝の内乱と新たな幕府】 後醍醐天皇 楠木正成 足利尊氏 新田義貞 足利義満 足利義政 【東アジアの交易と倭寇】 李成桂 【琉球とアイヌの人々がつなぐ交易】 コシヤマイン 【室町時代をながめてみよう】 雪舟	【団結して自立する民衆】 蓮如 【全国に広がる下剋上】 大友宗麟 毛利元就 今川義元 北条早雲 上杉謙信 武田信玄 浅井長政 【庶民に広がる室町文化】 観阿弥 世阿弥 宗祇 善阿弥
近世の日本	【イスラムの拡大とヨーロッパ】 ルター カルバン 【大航海時代の幕あけ】 コロンブス バスコ=ダ=ガマ マゼラン 【東アジアの貿易と南蛮人】 ザビエル 豊臣秀吉 【安土桃山文化をながめてみよう】 織田信長 【信長・秀吉による全国統一】 今川義元（再掲） 足利義昭 武田勝頼 明智光秀	【秀吉が導いた近世社会】 李舜臣 【戦国大名と豪商が担った安土桃山文化】 狩野永徳 千利休 阿国 李参平 【幕藩体制の始まり】 徳川家康 石田三成 徳川家光 【朱印船貿易から貿易統制へ】 山田長政 天草四郎（益田時貞）	【琉球王国とアイヌの人々への支配】 シャクシャイン 【江戸時代をながめてみよう】 伊能忠敬 杉田玄白 【身分制社会での暮らし】 中江藤樹 林羅山 徳川綱吉 【昆布ロードと北前船】 高田屋嘉兵衛	【上方で栄えた町人の文化】 井原西鶴 近松門左衛門 松尾芭蕉 菱川師宣 俵屋宗達 尾形光琳 関孝和 渋川春海 【貨幣経済の広まり】 徳川吉宗 大岡忠相 【くり返される要求と改革】 田沼意次 松平定信 上杉治憲（鷹山）	【江戸の庶民が担った文化】 政文化】 小林一茶 喜多川歌麿 東洲斎写楽 与謝蕪村 葛飾北斎 歌川（安藤）広重 十返舎一九 滝沢馬琴 平賀源内 前野良沢 本居宣長
近代の日本	【市民革命の始まり】 クロムウェル ワシントン 【人権思想からフランス革命へ】 モンテスキュー	【新政府による改革】 小林虎三郎 江藤新平 前島密 【人々からみた富国強兵と文明開化】	【ぬりかえられたアジアの地図】 梅屋庄吉 袁世凱 シーボルト 宮崎滔天	【第一次世界大戦後の欧米諸国】 新渡戸稲造 【アジアの民族自決と国際協調】 浅川巧	【近代都市が生み出した大衆文化】 芥川龍之介 油屋熊八 新美南吉 志賀直哉

と世界	ルソー ロック ナポレオン 【産業革命と資本主義の成立】 マルクス 【世界進出をめざす欧米諸国】 ピスマルク リンカン 【日本を取りまく世界情勢の変化】 高野長英 間宮林蔵 渡辺崋山 大黒屋光太夫 高杉晋作 【世界進出をめざす欧米諸国】 鍋島直正 大塩平八郎 河井継之助 調所広郷 徳川斉昭 水野忠邦 村田清風 【黒船来航の衝撃と開国】 ペリー 井伊直弼 吉田松陰 【江戸幕府の滅亡】 大久保利通 木戸孝允 西郷隆盛 坂本龍馬 徳川家茂 和宮 岩倉具視 徳川慶喜 【坂本龍馬暗殺のなぞ】 中岡慎太郎 勝海舟 後藤象二郎 【明治時代をながめてみよう】 明治天皇	福沢諭吉 中江兆民 【世界に開かれた港横浜】 原善三郎 原富太郎 【新たな外交と領土の画定】 伊藤博文 津田梅子 板垣退助 【沖縄・北海道と近代化の波】 尚泰 【移住と開拓が進む北海道】 黒田清隆 クラーク 【自由と民権を求めて】 植木枝盛 大隈重信 川上音二郎 千葉卓三郎 【アジアの列強をめざして】 陸奥宗光 小村寿太郎 【朝鮮をめぐる対立日清戦争】 豊田佐吉 八田與一 【世界が注目した日露戦争】 内村鑑三 幸徳秋水 東郷平八郎 与謝野晶子	石川啄木 孫文 【近代日本を支えた糸と鉄】 洪沢栄一 【変わる都市と農村】 田中正造 【第一次世界大戦と総力戦】 レーニン 【国際協調と民族独立の動き】 ウィルソン ガンディー 【政党政治の始まり】 犬養毅 尾崎行雄 吉野作造 原敬 加藤高明 平塚らいてう 市川房枝 【都市の発展と社会運動】 小林多喜二 【欧米の影響を受けた近代文化】 岡倉天心 荻原守衛 狩野芳崖 黒田清輝 高橋由一 高村光雲 夏目漱石 樋口一葉 フェノロサ 正岡子規 森鷗外 横山大観 島崎藤村 滝廉太郎 北里柴三郎 志賀潔 長岡半太郎 野口英世	柳宗悦 【護憲運動と政党内閣の成立】 桂太郎 美濃部達吉 【流行の最先端をつむぐ】 人気雑誌の登場】 竹久夢二	谷崎潤一郎 山田耕筰 知里幸恵 柳田国男 【発展する産業都市大阪・神戸】 小林一茶（再掲） 【世界恐慌と行きづまる日本】 浜口雄幸 宮澤賢治 【欧米諸国が選択した道】 ローズベルト スターリン ムッソリーニ ヒトラー チャップリン ピカソ 【強まる軍部とおとろえる政党】 溥儀 蒋介石 【戦争につき進む日本】 毛沢東 近衛文麿 【第二次世界大戦への道】 アンネ＝フランク 斎藤隆夫 杉原千畝 チャーチル 東条英機 樋口季一郎、 【ポツダム宣言と日本の敗戦】 昭和天皇
現代の日本と世界	【敗戦からの出発】 マッカーサー 【冷たい戦争とその影響】 毛沢東（再掲） 蒋介石（再掲）	【日本の独立と世界の動き】 吉田茂 池田勇人 鳩山一郎 岸信介	【冷戦下での日本とアジア】 佐藤栄作 田中角栄 【メディアを通して形づくられていく文化】 長嶋茂雄 美空ひばり 力道山	【大衆化・多様化する戦後の文化】 黒澤明 白井義男 古橋廣之進 湯川秀樹 王貞治 岡本太郎 小澤征爾 大鵬 若乃花 大江健三郎 川端康成 司馬遼太郎 手塚治虫 松本清張	【グローバル化が進む世界】 ゴルバチョフ 【激変する日本とアジア】 小泉純一郎 昭和天皇（再掲） 細川護熙 村山富市 【国際社会におけるこれからの日本】 宮崎駿
日 文					
古代までの日本	【人類の広がり】 聖徳太子 紫式部 【東アジアに広がる中国の文明】 始皇帝 孔子 【宗教のおこり】 シャカ イエス ムハンマド（マホメット）	【稲作の広まりと弥生時代】 卑弥呼 【聖徳太子と飛鳥文化】 推古天皇 小野妹子 蘇我馬子	【律令国家をめざして】 中大兄皇子（天智天皇） 中臣（藤原）鎌足 天武天皇 持統天皇 【国際色豊かな文化】 鑑真 聖武天皇 行基 柿本人麻呂 大伴家持	【平安京】 桓武天皇 坂上田村麻呂 阿豆流為 空海（弘法大師） 最澄（伝教大師） 【摂関政治と国風文化】 藤原道長 藤原頼通 紀貫之 清少納言	【武士の登場】 平将門 藤原純友 平清盛 源頼朝 源義家 【平城宮跡を歩く】 棚田嘉十郎
中世の	【13世紀の日本と世界】 足利義政 雪舟 マルコ＝ポーロ 源義経	【武家政治の始まり】 源義仲 源頼朝（再掲） 北条政子 後鳥羽上皇	【鎌倉時代の文化と仏教】 鴨長明 兼好法師 一遍 栄西	【東大寺の再興と重源】 平重衡 重源 陳和卿 【南北朝の内乱と室町幕府】	【応仁の乱と戦国大名】 朝倉義景 今川義元 上杉謙信 島津貴久

日本	チンギス=ハン 【院と平氏の政治】 後三条天皇 白河天皇 源義朝 平清盛(再掲)	北条泰時	親鸞 道元 日蓮 法然 【元の襲来と鎌倉幕府】 フビライ=ハン 北条時宗	楠木正成 新田義貞 後醍醐天皇 足利尊氏 足利義満 【東アジアとの交流】 李成桂 コシヤマイン 尚巴志	武田信玄 毛利元就 【室町時代の文化とその 広がり】 観阿弥 世阿弥
近世の日本	【一つにつながれた世界】 歌川(安藤)広重 コロンブス 徳川家光 フランシスコ=ザビエル マゼラン バスコ=ダ=ガマ 【イスラム教の世界とキ リスト教の世界】 ムハンマド(マホメッ ト)(再掲) ルター	【ヨーロッパ人の来航と信 長】 織田信長 今川義元(再掲) 足利義昭 【全国統一と近世社会の基 礎づくり】 明智光秀 豊臣秀吉 【秀吉の海外政策】 李舜臣	【安土桃山時代の文化】 狩野永徳 千利休 出雲阿国 李參平 【城下町姫路を調べる】 徳川家康 【全国支配のしくみ】 石田三成 【隣接地域との関係】 シャクシャイン 雨森芳洲	【江戸時代前期の文化と 学問】 市川団十郎 井原西鶴 尾形光琳 坂田藤十郎 俵屋宗達 近松門左衛門 菱川師宣 松尾芭蕉 関孝和 徳川綱吉 徳川光圀 宮崎安貞 【幕府政治の改革】 徳川吉宗 田沼意次 松平定信	【江戸時代後期の学問と 文化】 安藤昌益 伊能忠敬 シーボルト 杉田玄白 平賀源内 前野良沢 本居宣長 葛飾北斎 喜多川歌麿 滝沢(曲亭)馬琴 小林一茶 十返舎一九 与謝蕪村
近代の日本と世界	【19世紀後半の日本と世 界】 勝海舟 野口英世 【議会政治の成立と産業革 命】 クロムウェル スチーブンソン ワット 【アメリカの独立とフラン ス革命】 ワシントン ナポレオン ボルテール モンテスキュー ルソー 【産業革命の影響とアメ リカ合衆国の発展】 エンゲルス マルクス リンカーン 【ヨーロッパ諸国の侵略と 抵抗するアジア】 洪秀全 【ゆらぐ幕府の支配】 渡辺崋山 高野長英 大塩平八郎 間宮林蔵 水野忠邦 【開国】 ペリー ハリス 井伊直弼	【江戸幕府の滅亡】 吉田松陰 高杉晋作 木戸孝允 西郷隆盛 大久保利通 坂本龍馬 岩倉具視 徳川慶喜 【明治維新】 板垣退助 伊藤博文 江藤新平 大隈重信 三条実美 明治天皇 【殖産興業と富国強兵】 渋沢栄一 【文明開化の展開】 福沢諭吉 中江兆民 【明治時代のくらし】 前島密 【領土の画定と隣接地域】 尚泰 【近代社会に日本を見つめ 直す】 岡倉天心 フェノロサ 【憲法をめぐる対立と運動 の激化】 川上音二郎 【朝鮮をめぐる日本と清の 対立】 ビスマルク	【朝鮮・満州をめぐる日本 とロシアの対立】 内村鑑三 幸徳秋水 与謝野晶子 【日本の朝鮮支配と中国の 近代化】 安重根 石川啄木 袁世凱 孫文 【資本主義の発展と社会問 題】 田中正造 【社会運動の発展と近代文 化の形成】 平塚らいてう 大森房吉 荻原守衛 北里柴三郎 木村栄 黒田清輝 志賀潔 島崎藤村 鈴木梅太郎 高峰讓吉 津田梅子 坪内逍遙 長岡半太郎 夏目漱石 樋口一葉 二葉亭四迷 正岡子規 森鴎外 横山大観 【山本作兵衛の炭坑記録画】 山本作兵衛	【第一次世界大戦】 レーニン 【大戦後の世界とアジア の民族運動】 ウィルソン ガンディー 柳宗悦 吉野作造 【政党政治の発展】 桂太郎 西園寺公望 原敬 美濃部達吉 加藤高明 【社会運動の広がり】 市川房枝 西光万吉 山田孝野次郎 【都市化の進展と大衆文化】 谷崎潤一郎 芥川龍之介 武者小路実篤 小林多喜二 江戸川乱歩 吉川英治 【よみがえった東京駅】 辰野金吾 豊田佐吉	【世界恐慌と各国の対応】 スターリン ヒトラー ムソソリーニ ルーズベルト 【日本の恐慌と東アジア 情勢】 蒋介石 浜口雄幸 【日本の進路を変えた満 州事変】 溥儀 犬養毅 石橋湛山 【日中全面戦争と戦時体制】 毛沢東 斎藤隆夫 【第二次世界大戦の始まり】 アンネ=フランク 【アジア・太平洋での戦争】 東条英機 【平和へのあゆみと戦争 の傷あと】 チャーチル 昭和天皇 【新渡戸稲造と杉原千畝】 杉原千畝 新渡戸稲造
現代の日本と世界	【第二次世界大戦後の世界】 周恩来 ネルー	【第二次世界大戦後の世界 と日本】 マッカーサー 昭和天皇(再掲)	【冷たい戦争と世界の動き】 毛沢東(再掲) 【国際社会への復帰】 吉田茂 鳩山一郎	【高度経済成長】 池田勇人 【日本をとりまく国際関 係】 岸信介 佐藤栄作 田中角栄	【先進国日本の課題】 細川護熙 【アイヌと沖縄の近代と 現代】 萱野茂
	自 由 社				
	【岩窟遺跡を発見した相澤 忠洋】 相澤忠洋 【文明の発生】	【東アジアの国々と大和朝 廷】 広開土王(好太王) 【聖徳太子の新しい政治】	【律令国家への道】 大友皇子 持統天皇 天武天皇(大海人皇子)	【飛鳥・天平の文化】 阿倍仲麻呂 鑑真 大伴旅人	【平安文化】 空海(弘法大師) 最澄 菅原道真

古代 までの 日本	孔子 始皇帝 【宗教のおこり】 イエス シャカ(釈迦) ムハンマド 【中国の歴史書が語る古代 の日本】 卑弥呼 【神話が語る国の始まり】 神武天皇	聖徳太子(厩戸皇子) 推古天皇 蘇我馬子 【遣隋使と天皇号の始まり】 小野妹子 煬帝 【大化の改新】 蘇我入鹿 山背大兄王 蘇我蝦夷 中臣鎌足 中大兄皇子(天智天皇)	【記紀の編纂と大仏造立】 聖武天皇 行基 光明皇后	大伴家持 柿本人麻呂 山上憶良 山部赤人 【平安京と摂関政治】 桓武天皇 明治天皇 坂上田村麻呂 アテルイ 藤原道長	空也 源信 後白河上皇(天皇) 清少納言 紫式部 【仮名文字と女流文学】 紀貫之 【武士の台頭と院政】 平将門 藤原純友 白河上皇(天皇) 源義家
中世 の 日本	【平氏の繁栄と滅亡】 後白河上皇(天皇)(再 掲) 慈円 崇徳上皇 平清盛 源義朝 安徳天皇 源義経 源頼朝 以仁王	【鎌倉幕府の武家政治】 北条政子 源実朝 後鳥羽上皇 北条泰時 【武士のおこりと鎌倉幕府】 北条時頼 【元寇】 チンギス・ハン フビライ・ハン 北条時宗	【元寇と朝鮮半島】 宋助国 【日本人の名字の由来】 武田信玄 【建武の新政と南北朝の時 代】 足利尊氏 楠木正成 後醍醐天皇 護良親王 【室町幕府と守護大名】 足利義満 【日明貿易と朝鮮・琉球】 李成桂	【応仁の乱と下剋上】 足利義政 【鎌倉文化】 柴西 空也(再掲) 源信(再掲) 親鸞 道元 日蓮 藤原定家 法然 運慶 鴨長明 吉田兼好	【室町文化】 観阿弥 世阿弥 雪舟
近世 の 日本	【近世の日本】 ゴッホ 【戦国大名】 上杉謙信 武田信玄(再掲) 【ヨーロッパ人の世界進出】 ルター コロンブス バスコ・ダ・ガマ 【ヨーロッパ人の来航】 フランシスコ・ザビエ ル 【信長と秀吉の全国統一】 織田信長 今川義元 足利義昭 明智光秀 豊臣秀吉 【秀吉の政治と朝鮮出兵】 加藤清正 小西行長 徳川家康 李舜臣	【宣教師の見た日本人】 フロイス 【秀吉はなぜバテレンを追 放したか】 高山右近 狩野永徳 千利休 出雲の阿国 【江戸幕府の成立】 石田三成 徳川家光 【朱印船貿易から鎖国へ】 山田長政 天草四郎時貞 【鎖国日本の4つの窓口】 シャクシャイン	【綱吉の文治政治と元禄文 化】 徳川綱吉 新井白石 井原西鶴 近松門左衛門 伊藤仁斎 尾形光琳 荻生徂徠 関孝和 俵屋宗達 徳川光圀 中江藤樹 林羅山 菱川師宣 松尾芭蕉 【武士と忠義の観念】 大石内蔵助 【二宮尊徳と勤勉の精神】 二宮尊徳	【教育・文化の普及】 シーボルト 吉田松陰 石田梅岩 伊能忠敬 杉田玄白 徳川吉宗 平賀源内 前野良沢 本居宣長 【幕府の政治改革】 田沼意次 松平定信 青木昆陽 上杉鷹山 【化政文化】 小林一茶 式亭三馬 十返舎一九 滝沢馬琴 与謝蕪村 池大雅 歌川広重 葛飾北斎 喜多川歌麿 東洲斎写楽	【幕府政治の動揺】 大塩平八郎 水野忠邦 ラクスマン 会沢正志斎 高野長英 徳川慶喜 林子平 間宮林蔵 渡辺崋山
近代 の 日本 と 世界	【ペリーの来航と開国】 ペリー 阿部正弘 ハリス 【尊王攘夷運動の展開】 徳川斉昭 井伊直弼 吉田松陰(再掲) 【薩長同盟と王政復古】 大久保利通 木戸孝允(桂小五郎) 西郷隆盛 坂本龍馬 高杉晋作 岩倉具視 孝明天皇 徳川慶喜(再掲) 明治天皇(再掲) 【明治新政府】 勝海舟 【廃藩置県と四民平等】 福沢諭吉 【明治維新とは何か】 小林虎三郎 【岩倉使節団と征韓論】	【自由民権運動と政党の誕 生】 大隈重信 伊藤博文 金玉均 【日英同盟】 加藤高明 小村寿太郎 山県有朋 【国家の命運をかけた日露 戦争】 秋山真之 東郷平八郎 セオドア・ルーズベル ト 乃木希典 【世界列強の仲間入りをし た日本】 孫文 袁世凱 溥儀 【近代産業の発展とその背 景】	【近代文化の形成】 北里柴三郎 野口英世 岡倉天心 狩野芳崖 黒田清輝 高村光雲 滝廉太郎 夏目漱石 樋口一葉 フェノロサ 森鷗外 横山大観 与謝野晶子 【ロシア革命と大戦の終結】 レーニン 【ベルサイユ条約と大戦後 の世界】 ウィルソン ガンジー 【政党政治の展開と社会運 動】 吉野作造 原敬 犬養毅	【世界恐慌とその影響】 フランクリン・ルー ズベルト 若槻礼次郎 【共産主義とファシズム の台頭】 マルクス スターリン ムッソリーニ ヒトラー 【中国の排日運動と協調 外交の挫折】 蔣介石 幣原喜重郎 【満州事変と満州国建国】 鈴木貫太郎 【日中戦争(支那事変)】 張学良 【中国をめぐる日米関係 の悪化】 斎藤隆夫 近衛文麿	【第二次世界大戦の始まり】 松岡洋右 杉原千畝 東条英機 樋口季一郎 【終戦をめぐる外交と日 本の敗戦】 昭和天皇 チャーチル 【大東亜戦争とアジアの 独立】 チャンドラ・ボース

	津田梅子 板垣退助 【幕末・明治期の日本人の 生き方】 イザベラ・バード 【条約改正への苦闘】 井上馨 陸奥宗光	渋沢栄一 田中正造	平塚らいてう 【文化の大衆化と都市の生 活】 芥川龍之介 志賀直哉 谷崎潤一郎 武者小路実篤 柳田国男		
現代 の 日本 と 世界	【占領下の日本】 マッカーサー 東条英機（再掲） 【占領下の検閲と東京裁判】 パル トルーマン 【占領政策の転換と朝鮮戦 争】 蒋介石（再掲） 毛沢東	【独立の回復と米ソ冷戦】 吉田茂 岸信介 スターリン（再掲） フルシチョフ 【世界の奇跡・高度経済成 長】 池田勇人 佐藤栄作	【冷戦の推移と日本の経済 発展】 ニクソン 田中角栄 昭和天皇（再掲） 【昭和天皇】 鈴木貫太郎（再掲）	【戦後の文化】 石原慎太郎 川端康成 司馬遼太郎 松本清張 三島由紀夫 美空ひばり 湯川秀樹 小津安二郎 黒澤明 手塚治虫 宮崎駿	【冷戦の終結と共産主義 の崩壊】 レーガン ゴルバチョフ 【勇気と友情の物語】 明治天皇（再掲） 八田與一
育 鵬 社					
古 代 ま で の 日 本	【文明のおこりと中国の古代文明】 孔子 始皇帝 【稲作・弥生文化と邪馬台国】 卑弥呼 【古墳の広まりと大和朝廷】 仁徳天皇 雄略天皇（武） 【大和朝廷と東アジア】 王仁 【世界の宗教と日本】 イエス シャカ（釈迦牟尼） ムハンマド（マホメット） 【歴史を解明する考古学】 太安万侶	【聖徳太子の国づくり】 聖徳太子 推古天皇 蘇我馬子 小野妹子 蘇我入鹿 蘇我蝦夷 【大化の改新と激動の東ア ジア】 中臣（藤原）鎌足 中大兄皇子（天智天皇） 大友皇子 桓武天皇 持統天皇 聖武天皇 天武天皇（大海人皇子）	【飛鳥文化・白鳳文化と遣 唐使】 鞍作鳥（止利仏師） 阿倍仲麻呂 【大宝律令と平城京】 長屋王 【天平文化】 大伴家持 柿本人麻呂 鑑真 稗田阿礼 山上憶良 山部赤人 行基 光明皇后（皇太后）	【神話に見るわが国誕生】 の物語】 神武天皇 ヤマトタケル（日本 武尊） 【平安京と摂関政治】 アテルイ 坂上田村麻呂 道鏡 和気清麻呂 清少納言 藤原道長 藤原頼通 紫式部	【新しい仏教と国風文化】 紀貫之 空海（弘法大師） 最澄（伝教大師） 定朝 菅原道真 【奈良・京都の文化遺産 を調べてみよう】 後白河天皇（上皇・ 法皇） 平清盛
中 世 の 日 本	【武士の登場と院政】 桓武天皇（再掲） 後三条天皇 白河天皇（上皇） 平将門 藤原純友 安徳天皇 後白河天皇（上皇・法 皇）（再掲） 平清盛（再掲） 源実朝 源義家 源義経 源義朝 源義仲 源頼朝	【武士の世の到来と鎌倉幕 府】 源範頼 道元 以仁王 【幕府政治の展開と人々の 暮らし】 後鳥羽上皇 北条時政 北条時宗 北条政子 北条泰時 一遍	【新しい仏教と武士の文化】 栄西 親鸞 道元 日蓮 法然 運慶 快慶 鴨長明 西行 天智天皇（中大兄皇 子）（再掲） 藤原定家 吉田兼好	【元寇と鎌倉幕府のおと ろえ】 竹崎季長 チンギス・ハン（ジ ンギスカン） フビライ・ハン 【ユーラシアを一つにつ ないだモンゴル】 マルコ・ポーロ ムハンマド（マホメ ット）（再掲） 【建武の新政と南北朝の 動乱】 足利尊氏 今川義元 楠木正成 後醍醐天皇 新田義貞 護良親王	【室町幕府と東アジア】 足利義昭 足利義満 足利義政 李成桂 【応仁の乱と戦国大名】 蓮如 毛利元就 武田信玄 上杉謙信 【室町時代の文化】 観阿弥 世阿弥 狩野永徳 雪舟 【なでしこ日本史 2】 日野富子
近 世 の 日 本	【ヨーロッパ人の世界進出】 コロンブス バスコ・ダ・ガマ マゼラン マルコ・ポーロ（再掲） ルター 【ルネサンスと宗教改革】 フランシスコ・ザビエ ル カルバン 今川義元（再掲） 【ヨーロッパ人の来航】 伊東マンショ 大友宗麟 千々石ミゲル 中浦ジュリアン 原マルチノ 【織田信長と豊臣秀吉の全 国統一】 明智光秀 足利義昭（再掲）	【江戸幕府の成立】 石田三成 太田道灌 徳川家斉 徳川家光 徳川家茂 徳川綱吉 徳川秀忠 徳川光圀 徳川慶喜 徳川吉宗 豊臣秀頼 松平定信 【「鎖国」への道】 高山右近 山田長政 天草四郎 支倉常長 【「鎖国」の時代に開かれて いた窓口】 雨森芳洲	【江戸時代探検！】 内村鑑三 大石良雄 吉良義央（上野介） 新渡戸稲造 山鹿素行 【藩校と寺子屋】 渡辺崋山 【社会の変化と享保の改革】 三井高利 青木昆陽 上杉治憲（鷹山） 大岡忠相 【田沼の政治と寛政の改革】 田沼意次 光格天皇 【欧米諸国の接近】 伊能忠敬 近藤重蔵 大黒屋光太夫 高田屋嘉兵衛	【天保の改革と諸藩の改革】 大塩平八郎 水野忠邦 徳川齊昭 二宮尊徳 山内豊信 【江戸の町人文化】 喜多川歌麿 小林一茶 十返舎一九 滝沢（曲亭）馬琴 東洲斎写楽 与謝蕪村 歌川（安藤）広重 葛飾北斎 橋本春信 【浮世絵の影響】 ゴッホ	【新しい学問と思想の動 き】 石田梅岩 賀茂真淵 杉田玄白 堀保己一 平賀源内 平田篤胤 前野良沢 本居宣長 会沢正志斎 安藤昌益 緒方洪庵 コペルニクス ニュートン 橋本左内 林子平 福沢諭吉 藤田東湖 【江戸の技術】 田中久重

	<p>織田信長 武田勝頼 豊臣秀吉 伊達政宗 徳川家康 【豊臣秀吉の政治と外交】 加藤清正 小西行長 李參平 李舜臣 【雄大で豪華な桃山文化】 狩野永徳(再掲) 狩野山楽 千利休 阿国 【茶の湯と生け花】 栄西(再掲) 長谷川等伯</p>	<p>シャクシャイン 【綱吉の文治政治と元禄文化】 新井白石 井原西鶴 孔子(再掲) 俵屋宗達 近松門左衛門 柳沢吉保 市川団十郎 尾形光琳 荻生徂徠 坂田藤十郎 関孝和 中江藤樹 林羅山 菱川師宣 松尾芭蕉 宮崎安貞</p>	<p>間宮林蔵 最上徳内 ラクスマン レザノフ シーボルト ジョン万次郎 高野長英</p>	<p>【世界文化遺産・富士山と日本人】 徳富蘇峰 山部赤人(再掲) 【なでしこ日本史 3】 加賀千代 春日局 高台院(北政所)</p>	
近代の日本と世界	<p>【近代の日本と世界】 勝海舟 ジョン万次郎(再掲) 【欧米の市民革命・産業革命】 クロムウェル ナポレオン モンテスキュー ルソー ロック ワシントン エンゲルス スティーブンソン マルクス ワット 【欧米列強のアジア進出】 洪秀全 【黒船来航の衝撃】 阿部正弘 ペリー 井伊直弼 ハリス 【尊王攘夷運動の高まり】 和宮 橋本佐内(再掲) 吉田松陰 伊藤博文 大久保利通 木戸孝允(桂小五郎) 西郷隆盛 高杉晋作 山県有朋 【倒幕と大政奉還、王政復古の号令】 坂本竜馬 徳川家茂(再掲) 徳川慶喜(再掲) 中岡慎太郎 横井小楠 岩倉具視 孝明天皇 後藤象二郎 明治天皇 山内豊信(再掲) 【五箇条の御誓文と明治維新】 榎本武揚 三条実美</p>	<p>【学制・兵制・税制の改革】 大村益次郎 【明治初期の外交と国境の画定】 尚泰 【岩倉使節団と西南戦争】 板垣退助 江藤新平 津田梅子 山口尚芳 【外国人が見た日本】 モース 【殖産興業と文明開化】 岩崎弥太郎 緒方洪庵(再掲) 中江兆民 福沢諭吉(再掲) 【近代国民国家の形成】 渋沢栄一 ビスマルク リンカーン 【国会開設へ向けて・自由民権運動】 植木枝盛 大隈重信 黒田清隆 三島通庸 【大日本帝国憲法の制定と帝国議会】 井上馨 井上毅 桂太郎 西園寺公望 西郷従道 松方正義 【不平等条約の改正への努力】 ビゴ 陸奥宗光 小村寿太郎 寺島宗則 原敬 【朝鮮半島と日清戦争】 金玉均 【ロシアとの激突・日露戦争】 東郷平八郎 昭和天皇 乃木希典</p>	<p>【国際的地位の向上と韓国併合】 孫文 ネルー 安重根 八田與一 【日本の産業革命と国民生活の変化】 片山潜 幸徳秋水 田中正造 豊田佐吉 【日露戦争の舞台裏】 高橋是清 ルーゼベルト(セオドア) 【西洋文化と明治の文化】 岡倉天心 荻原守衛 狩野芳崖 黒田清輝 高村光雲 滝廉太郎 坪内逍遙 フェノロサ 二葉亭四迷 横山大観 石川啄木 大森房吉 北里柴三郎 木村栄 志賀潔 島崎藤村 鈴木梅太郎 高峰讓吉 長岡半太郎 夏目漱石 野口英世 樋口一葉 正岡子規 森鷗外 与謝野晶子 【お雇い外国人】 伊能忠敬(再掲) 内村鑑三(再掲) クラーク 新渡戸稲造(再掲) ハーン(小泉八雲) ベルツ</p>	<p>【なでしこ日本史 4】 清少納言(再掲) 天璋院(篤姫) 紫式部(再掲) 【ロシア革命と第一次世界大戦の終結】 レーニン スターリン 【ベルサイユ条約と国際協調の動き】 ウィルソン 袁世凱 ガンジー 【大正デモクラシーと政党政治】 尾崎行雄 犬養毅 加藤高明 大正天皇 田中義一 寺内正毅 浜口雄幸 美濃部達吉 吉野作造 若槻礼次郎 市川房枝 平塚らいてう 【ワシントン会議と日米関係】 幣原喜重郎 後藤新平 【文化の大衆化・大正の文化】 江戸川乱歩 芥川龍之介 小林多喜二 志賀直哉 竹久夢二 谷崎潤一郎 西田幾太郎 武者小路実篤 安井曾太郎 柳田国男 柳宗悦 山田耕筰</p>	<p>【世界恐慌と協調外交の行きづまり】 ルーゼベルト(フランクリン) 【共産主義とファシズムの台頭】 ヒトラー ムッソリーニ ピカソ 【中国の排日運動と満州事変】 蒋介石 張作霖 溥儀 【日中戦争(支那事変)】 張学良 松岡洋右 リットン 【緊迫する日米関係】 近衛文麿 斎藤隆夫 【第二次世界大戦】 アンネ・フランク 杉原千畝 樋口季一郎 【太平洋戦争(大東亜戦争)】 東条英機 【日本軍の進出とアジア諸国】 チャンドラ・ボース 【戦争の終結】 チャーチル トルーマン 鈴木貫太郎 【昭和20年、戦局の悪化と終戦】 徳富蘇峰(再掲) 【列強の植民地とアジアの民族運動】 アウンサン スカルノ ムスタファ・ケマル 【なでしこ日本史 5】 クーデンホーフ光子</p>
現代の日本と世界	<p>【占領下の日本と日本国憲法】 マッカーサー 昭和天皇(再掲) 【東京裁判】 パール 【国民とともに歩んだ昭和天皇】 大正天皇(再掲) 明治天皇(再掲)</p>	<p>【冷戦と日本】 ケネディ フルシチョフ 池田勇人 石橋湛山 岸信介 【冷戦と昭和時代の終わり】 香淳皇后 周恩来 田中角栄</p>	<p>【戦後と現代の日本文化】 石原慎太郎 今村昌平 大江健三郎 川端康成 黒澤明 小柴昌俊 小林誠 佐藤栄作 下村脩</p>	<p>南部陽一郎 野依良治 福井謙一 藤田嗣治 益川敏英 三島由紀夫 溝口健二 棟方志功 山中伸弥 湯川秀樹</p>	<p>【地域紛争とグローバル化】 オバマ ダライ・ラマ 14世 安倍晋三 【さまざまな課題】 小泉純一郎</p>

	【朝鮮戦争と日本の独立回復】 蒋介石(再掲) 毛沢東 鳩山一郎 吉田茂	ニクソン 明仁親王	白川英樹 太宰治 田中耕一 利根川進 朝永振一郎 江崎玲於奈	石原裕次郎 王貞治 大鵬 手塚治虫 長嶋茂雄 古橋広之進 美空ひばり 宮崎駿 力道山	
学び舎					
古代までの日本	【ピラミッドのなぞ】 クフ王 シャンポリオン 【ブツダになった王子】 ガウタマ=シッダールタ アショーカ王 【地下から出てきた大軍団】 始皇帝 孔子 劉邦	【円形競技場の熱狂】 イエス スパルタクス 【宗教の広がり】 玄奘 【倭国の女王、卑弥呼】 卑弥呼 【古墳を見上げるムラ】 広開土王 ワカタケル大王	【蘇我氏と二人の皇子】 厩戸皇子 聖徳太子 蘇我馬子 小野妹子 蘇我入鹿 中臣鎌足 中大兄皇子 藤原鎌足 【大海人皇子の勝利】 大海人皇子 大友皇子 持統天皇 天智天皇 天武天皇	【奈良の都】 長屋王 【金色に輝く大仏】 鑑真 聖武天皇 【インド洋へ、地中海へ】 ムハンマド	【北で戦い、都をつくる】 アテルイ 桓武天皇 空海 最澄 坂上田村麻呂 藤原道長 平貞盛 平将門 藤原純友 藤原頼通 百姓 【女性作家の登場】 清少納言 紫式部
中世の日本	【交易で栄えた博多】 栄西 平清盛 【都で、武士が戦う】 白河上皇 後白河上皇 平正盛 源為義 源経基 藤原清衡 源義朝	【荘園絵図をえがく】 鳥羽上皇 鎌倉権五郎 源頼朝 【東国に幕府をつくる】 上総介広常 千葉常胤 源義経 源義仲 後鳥羽上皇 重源 北条政子 北条泰時 北条義時 源実朝	【おどる聖と念仏札】 一遍 親鸞 日蓮 法然 運慶 一山一寧 【地頭が村にやってきた】 湯浅宗親 【一つにつながるユーラシア】 クビライ=カン チングス=カン サウマー	【悪党の世の中】 足利尊氏 楠木正成 足利義満 後醍醐天皇 【境界に生きる人びと】 阿只拔都 李成桂 朱元璋 世宗	【職人歌合の世界】 亀屋五位女 布袋屋玄了尼 【岩に刻んだ勝利】 足利義政 宗希環 【禅の文化、民衆の文化】 世阿弥 雪舟 善阿弥
近世の日本	【大西洋の東と西】 コロンブス ザビエル ルター 【インド洋に出現した船隊】 バスコダガマ マゼラン ラブ=ラブ 【銀と戦国時代】 武田信玄 【倭寇がもたらした火縄銃】 王直 アンジロー 大友義鎮(宗麟) 【町衆と信長】 足利義昭 織田信長 明智光秀	【秀吉と黄金の夢】 狩野永徳 豊臣秀吉 長谷川等伯 千利休 【僧が見た朝鮮の民衆】 慶念 李舜臣 金忠善 沙也可 【江戸の町づくり】 石田三成 徳川家康 【どこまでつづく大名行列】 加藤明成 加藤忠広 徳川家光 徳川秀忠 福島正則	【第4章をふりかえる】 足利義満(再掲) 【世界遺産に見る世界】 レイ14世 【刀より金銀の力】 淀屋辰五郎 井原西鶴 尾形光琳 近松門左衛門 松川師宣 松尾芭蕉 【北の湖から来た昆布】 シヤクシヤイン 【江戸を行く朝鮮通信使】 雨森芳洲 申維翰 松雲大師 【將軍吉宗のなげき】 徳川綱吉 上杉治憲 田沼意次 徳川吉宗	【人体解剖の驚き】 杉田玄白 前野良沢 伊能忠敬 平賀源内 平田篤胤 本居宣長 【寺子屋の子どもたち】 歌川広重 葛飾北斎 喜多川歌麿 小林一茶 十返舎一九 滝沢馬琴 与謝蕪村	【毛皮を求めて東へ】 エカチェリーナ2世 大黒屋光太夫 ラクスマン 松平定信 最上徳内 レザノフ 【外に危機、内にも悩み】 高野長英 渡辺華山 歌川国芳 大塩平八郎 水野忠邦
近代の日本と世界	【アメリカの大地に生きる】 エリザベス=フリーマン 【バスチーユを攻撃せよ】 ルイ16世 ナポレオン オランブード=グーージュ 【工場で働く子どもたち】 アークライト スチーブンソン エンゲルス マルクス 【グリム兄弟の願い】 グリム兄弟 コシュート=ラヨシュ	【政治が売り切れた】 岩倉具視 相楽総三 徳川慶喜 明治天皇 【大名も武士もいなくなつた】 大久保利通 島津久光 【村に学校ができた】 福沢諭吉 【632日、世界一周の旅】 伊藤博文 ビスマルク 板垣退助	【天皇主権の憲法】 黒田清隆 ベルツ 【北・南を組み込み、国境を引く】 マタイチ 松浦武四郎 【変わる世界の女性たち】 ココ=シャネル 【日本と清が、朝鮮で】 全瑛準 陸奥宗光 【分割される大陸】 ジャジャ王 【戦場は中国だった】	【21カ条は認めない】 孫文 魯迅 袁世凱 【パンを、平和を、土地を】 レーニン ウィルソン 【独立マンセー】 柳寛順 ガンジー スルタンガリエフ マリー=キュリー 【始まりは女一揆】 寺内正毅	【鉄道爆破から始まった】 蒋介石 張作霖 昭和天皇 溥儀 松岡洋右 【問答無用、撃て】 犬養毅 高橋是清 小林多喜二 【戦火は上海、南京、重慶へ】 毛沢東 夏淑琴 【戦火に追われる人びと】

	<p>【アヘンを持ち込む】 中江兆民 林則徐</p> <p>【インド大反乱と太平天国】 藤村から生まれる】 和田英 洪秀全 津田梅子 ラクシュミー＝パーイー 【昔一揆、いま演説会】 石坂昌孝 岸田俊子 ペリー 肥塚竜 井伊直弼 江藤新平 ハリス 楠瀬喜多</p> <p>【黒船を見に行こう】 和宮 千葉卓三郎 孝明天皇 深沢権八 徳川家茂 植木枝盛</p> <p>【下関で、鹿児島で】 大隈重信 高杉晋作 田代栄助 木戸孝允 ルソー 西郷隆盛 坂本竜馬</p>	<p>ニコライ 2 世 内村鑑三 小村寿太郎 与謝野晶子</p> <p>【国語をつくる】 樋口一葉 岡倉天心 黒田清輝 外山亀太郎 夏目漱石 フェノロサ 森鷗外 横山大観</p>	<p>【女性は太陽だった】 ショール兄妹 市川房枝 【戦争と二人の少女】 平塚らいてう アンネ＝フランク 曹仁承 オードリー＝ヘプバーン 山田孝野次郎</p> <p>【デモクラシーの波】 【餓死、玉砕、特攻隊】 原敬 水木しげる 吉野作造 林市造</p> <p>【山本宣治の人物調べ】 【にんげんをかえせ】 山本宣治 佐々木禎子 【チャップリンが来た】 峠三吉 チャップリン トルーマン 【ヒトラーの独裁が始まる】 ヒトラー ピカソ フランコ将軍 ムッソリーニ</p>
現代の日本と世界	<p>【今、世界の子どもたちは】 【もう戦争はしない】 マララ＝ユサフザイ 鈴木安蔵 【焼け跡からの出発】 大田昌秀 山口シヅエ 石成基 石田雅子 【南北に引き裂かれる】 マッカーサー 呂運亨 昭和天皇（再掲） 毛沢東（再掲） 【インドも中国も来なかった】 ネルー 吉田茂</p>	<p>【ゴジラの怒り、サダコの願い】 久保山愛吉 中沢啓治 佐々木偵子（再掲）</p> <p>【国会を包囲する人波】 岸信介 小林トミ 朝日茂 池田勇人</p>	<p>【第三世界と東西陣営】 チャスラフスカ マーチン＝ルーサー＝キング マルタ＝クビショバ ビートルズ 【基地の中の沖繩】 佐藤栄作 眞榮城玄徳</p> <p>【問い直される戦後】 金学順 【平和という言葉】 ダーニンニェニ＝ゲンダーヌ</p>

別記2

様式4の調査項目③「取り上げている歴史的な事象等」の具体的な内容

		東 書				
古代 までの 日本	<p>【人類の出現と進化】</p> <p>猿人 原人 新人 打製石器 氷河時代 ホモ・サピエンス 旧石器時代 新石器時代 青銅器 鉄器 土器 農耕や牧畜 磨製石器</p> <p>【古代文明のおこりと発展】</p> <p>インダス文明 エジプト文明 王 象形文字 中国文明 奴隸 メソポタミア文明 インダス川 インダス文字 オリエント カースト制度 楔形文字 太陰暦 太陽暦 チグリス川 都市国家 ハンムラビ法典 ピラミッド モヘンジョ・ダロ ユーフラテス川</p> <p>【中国文明の発展】</p> <p>稲 殷 貨幣 漢字 甲骨文字 周 儒学 儒教 秦 長江 万里の長城 紙 漢 「絹の道」 高句麗 シルクロード 仏教</p>	<p>【ギリシャ・ローマの文明】</p> <p>アテネ オリンピック（古代） ギリシャ ギリシャ文明 パルテノン神殿 ペルシャ ポリス 共和制 コロッセオ 西ローマ帝国 東ローマ帝国 ビザンツ帝国 ヘレニズム ミロのビーナス ローマ帝国</p> <p>【宗教のおこりと三大宗教】</p> <p>イスラム教 インド キリスト教 宗教 ヒンドゥー教 アラーム エルサレム 「コーラン」 「聖書（新約聖書）」 ユダヤ教</p> <p>【日本列島の誕生と縄文文化】</p> <p>岩宿遺跡 オオツノジカ ナウマンゾウ マンモス 貝塚 屈葬 三内丸山遺跡 縄文時代 縄文土器 縄文文化 たて穴住居 土偶</p>	<p>【弥生文化と邪馬台国】</p> <p>石包丁 稲作 金属器 銅鏡 銅剣 銅鐸 銅矛 登呂遺跡 弥生時代 弥生土器 吉野ヶ里遺跡 「漢書」 魏 魏志倭人伝 金印 豪族 後漢 「後漢書」 朝貢 邪馬台国 倭 「三国志」</p> <p>【大王の時代】</p> <p>大王 五色塚古墳 古墳 古墳時代 神話 前方後円墳 大仙古墳 仁徳陵古墳 埴輪 大和政権 稲荷山古墳 江田船山古墳 伽耶地域（任那） 百濟 新羅 須恵器 宋（南朝） 「宋書」 朝廷 渡来人 南北朝時代（中国） 倭の五王</p> <p>【聖徳太子の政治改革】</p> <p>冠位十二階 十七条の憲法 隋 摂政 蘇我氏 天皇 法隆寺 飛鳥文化 遣隋使</p>	<p>【大化の改新】</p> <p>大野城 公地・公民 戸籍 唐 難波宮 兵役 水城 律令 大津宮 壬申の乱 大化の改新 長岡京 白村江の戦い 藤原京 平安京 平城京 律令制度</p> <p>【律令国家の成立と平城京】</p> <p>貴族 太政官 大宝律令 奈良時代 富本銭 律 律令国家 令 和同開珎 駅 郡司 五畿七道 国司 国府 太政大臣 多賀城 大宰府</p> <p>【奈良時代の人々の暮らし】</p> <p>口分田 防人 賤民 租 調 奴婢 班田収授法 庸 良民 墾田永年私財法 荘園 雑徭</p>	<p>【天平文化】</p> <p>遣唐使 興福寺 国分寺 国分尼寺 正倉院 大仏 天平文化 唐招提寺 東大寺 「古事記」 「日本書紀」 「風土記」 「万葉集」</p> <p>【平安京と東アジアの変化】</p> <p>蝦夷 京都 征夷大將軍 平安時代 延暦寺 高野山 高麗 金剛峯寺 真言宗 宋 天台宗 比叡山</p> <p>【摂関政治と文化の国風化】</p> <p>関白 寝殿造 摂関政治 藤原氏 阿弥陀堂 阿弥陀如来 仮名文字 「源氏物語」 「古今和歌集」 国風文化 極楽浄土 浄土信仰 平等院鳳凰堂 「枕草子」 大和絵</p> <p>【絵巻物を見てみよう】</p> <p>絵巻物 「伴大納言絵巻」</p> <p>【現代に受けつがれる神話】</p> <p>アイヌ民族</p>	
	中世 の 日本	<p>【武士の成長】</p> <p>貴族（再掲） 豪族（再掲） 朝廷（再掲） 武士 武士団 奥州藤原氏 寄進 源氏 公領 後三年合戦 荘園（再掲） 前九年合戦 中尊寺金色堂 年貢 平氏</p> <p>【武士の政権の成立】</p> <p>院政</p>	<p>【武士と民衆の生活】</p> <p>「弓馬の道」 下地中分 「武士（ものもの）の道」 定期市 二毛作 門前（町）</p> <p>【鎌倉時代の文化と宗教】</p> <p>絵巻物（再掲） 鎌倉文化 金剛力士像 「新古今和歌集」 大仏（再掲） 「徒然草」 東大寺（再掲） 琵琶法師 「平家物語」</p>	<p>【モンゴルの襲来と日本】</p> <p>元 高麗（再掲） 文永の役 モンゴル帝国 悪党 永仁の徳政令 元寇 弘安の役 徳政令 分割相続</p> <p>【南北朝の動乱と室町幕府】</p> <p>建武の新政 南北朝時代（日本） 南北朝の動乱 二条河原落書 室町時代 室町幕府</p>	<p>【東アジアとの交流】</p> <p>勘合 勘合貿易 朝貢（再掲） 朝鮮国 日明貿易 ハンブル 明 倭寇 アイヌの人々 アイヌ民族（再掲） 蝦夷地 訓民正音 首里 首里城 十三湊 日朝貿易 紅型</p>	<p>【室町文化とその広がり】</p> <p>北山文化 金閣 猿蓑 慈照寺 茶の湯 田楽 能 室町文化 連歌 鹿苑寺 足利学校 御伽草子 河原者 狂言 銀閣 儒学（再掲） 書院造</p>

	<p>関白 (再掲) 上皇 摂政 (再掲) 僧兵 藤原氏 (再掲) 平治の乱 保元の乱 厳島神社 鎌倉 宋 (再掲) 太政大臣 (再掲) 壇ノ浦の戦い 兵庫 【鎌倉幕府の成立と執権政治】 鎌倉時代 鎌倉幕府 御恩 御家人 地頭 守護 征夷大將軍 (再掲) 奉公 京都 (再掲) 御成敗式目 侍所 執権 執権政治 貞永式目 承久の乱 評定 北条氏 六波羅探題</p>	<p>「方丈記」 阿弥陀如来 (再掲) 極楽浄土 (再掲) 座禅 時宗 浄土宗 浄土信仰 (再掲) 浄土真宗 真言宗 (再掲) 神道 神仏習合 禅宗 曹洞宗 題目 天台宗 (再掲) 日蓮宗 念仏 仏教 (再掲) 法華宗 臨済宗</p>	<p>足利氏 鎌倉公方 鎌倉府 管領 国司 (再掲) 酒屋 守護大名 土倉</p>	<p>琉球 琉球王国 【産業の発達と民衆の生活】 宋銭 問 西陣 博多 馬借 明銭 一揆 祇園祭 行商 座 堺 惣 町衆 土一揆 港町 【応仁の乱と戦国大名】 一向一揆 一向宗 応仁の乱 下剋上 山城国一揆 石見銀山 城下町 戦国時代 戦国大名 分国法 領国</p>	<p>水墨画 東求堂同仁齋 東山文化 龍安寺 【東アジア世界の朝貢体制と琉球王国】 漢字 (再掲) 百濟 (再掲) 高句麗 (再掲) 新羅 (再掲) 唐 (再掲) 邪馬台国 (再掲) 大和政権 (再掲) 律令 (再掲) 薩摩 (藩) 清 琉球使節 【室町時代の生活文化と現代】 小袖 年中行事</p>
近世の日本	<p>【キリスト教世界とルネサンス】 イスラム教 (再掲) エルサレム (再掲) カトリック教会 紙 (再掲) 火薬 キリスト教 (再掲) 十字軍 正教会 ビザンツ帝国 (再掲) ローマ教皇 (法王) ローマ帝国 (再掲) イエズス会 ギリシャ (再掲) 宗教改革 「ダビデ」 プロテスタント 「モナ・リザ」 ルネサンス 【ヨーロッパと外の世界】 イスラム商人 インド (再掲) スペイン 大航海時代 ポルトガル マチュピチュ遺跡 アメリカ大陸 オランダ 三角貿易 (大西洋) 植民地 奴隷 (再掲) 東インド会社 【ヨーロッパ人との出会い】 国友 堺 (再掲) 戦国時代 (再掲) 種子島 鉄砲 キリシタン キリシタン大名 天正遣欧少年使節団 長崎 南蛮人 南蛮貿易 平戸</p>	<p>【織田信長、豊臣秀吉による統一事業】 安土城 一向一揆 (再掲) 延暦寺 (再掲) 大阪城 桶狭間の戦い 座 (再掲) 自治都市 関所 長篠の戦い 本能寺 室町幕府 (再掲) 楽市・楽座 楽市令 安土桃山時代 生野銀山 石見銀山 (再掲) 関白 (再掲) 佐渡金山 バテレン追放令 北条氏 (戦国) 【兵農分離と朝鮮侵略】 刀狩 検地 石高 荘園 (再掲) 城下町 (再掲) 太閤検地 年貢 (再掲) 兵農分離 義兵 慶長の役 文禄の役 明 (再掲) 倭寇 (再掲) 【桃山文化】 下剋上 (再掲) 書院造 (再掲) 城 茶の湯 (再掲) 姫路城 妙喜庵待庵 桃山文化 活版印刷 (術) かぶき踊り</p>	<p>【江戸幕府の成立と支配の仕組み】 江戸 江戸時代 江戸幕府 大阪の陣 貨幣 (再掲) 御家人 (再掲) 征夷大將軍 (再掲) 関ヶ原の戦い 幕領 旗本 勘定奉行 京都所司代 参勤交代 三奉行 寺社奉行 宿場 親藩 大老 徳川氏 外様大名 幕藩体制 藩 武家諸法度 譜代大名 町奉行 老中 【さまざまな身分と暮らし】 家持 行商 (再掲) 組頭 地主 庄屋 町人 町役人 名主 百姓 百姓代 武士 (再掲) 「武士道」 本百姓 水のみ百姓 身分 村役人</p>	<p>【鎖国下の対外関係】 オランダ風説書 清 (再掲) 倭物 朝鮮通信使 アイヌの人々 (再掲) アイヌ民族 (再掲) 蝦夷地 (再掲) 薩摩 (藩) (再掲) 松前氏 (藩) 琉球王国 (再掲) 琉球使節 (再掲) 【農業や諸産業の発達】 足尾銅山 商品作物 新田 千歯こき 唐箕 備中ぐわ 別子銅山 寛永通宝 京都 (再掲) 金座 銀座 銭座 南部鉄器 西陣織 【交通路の整備と都市の繁栄】 五街道 宿場町 樽廻船 西廻り航路 菱垣廻船 東廻り航路 飛脚 港町 (再掲) 門前 (町) (再掲) 大阪 株仲間 蔵屋敷 三都 「將軍のおひざもと」 「天下の台所」 問屋 両替商</p>	<p>【享保の改革と社会の変化】 上げ米の制 享保の改革 公事方御定書 目安箱 打ちこわし 家内工業 工場制手工業 小作人 問屋制家内工業 百姓一揆 マニファクチュア 【田沼の政治と寛政の改革】 寛政の改革 狂歌 昌平坂学問所 専売制 天明のききん 権太 藩札 札差 【新しい学問と化政文化】 「解体新書」 化政文化 国学 「古事記伝」 尊王攘夷運動 落語 蘭学 川柳 適塾 寺子屋 「東海道中膝栗毛」 「南総里見八犬伝」 錦絵 藩校 【外国船の出現と天保の改革】 異国船打払令 大塩の乱 天保の改革 天保のききん 蛮社の獄 フェートン号事件 モリソン号事件 アヘン戦争</p>

	<p>小歌 小袖 (再掲) 浄瑠璃 南蛮文化 「平家物語」 (再掲) 琉球 (再掲)</p>	<p>えた身分 五人組 ひにん身分 村八分 寄合 【貿易の振興から鎖国へ】 イギリス 禁教令 朱印状 朱印船 朱印船貿易 日本町 (日本人町) 絵踏 鎖国 島原・天草一揆 宗門改 出島</p>	<p>【幕府政治の安定と元禄文化】 儒学 (再掲) 朱子学 正徳の治 生類憐みの令 浮世絵 浮世草子 歌舞伎 元禄文化 人形浄瑠璃 年中行事 (再掲) 俳諧 俳句 火消し 大和絵 (再掲) 友禅染</p>	<p>奄美群島 長州 (藩) 反射炉 肥前 (藩) 【歴史の中のイスラム文化】 オスマン帝国 「コーラン」</p>		
近代の日本と世界	<p>【近代革命の時代】 アメリカ (合衆国) イギリス (再掲) オランダ (再掲) 議会政治 共和制 (再掲) 「権利章典」 ピューリタン革命 フランス 「マグナ・カルタ」 名誉革命 立憲君主制 アメリカ独立宣言 合衆国憲法 啓蒙思想 啓蒙思想家 三権分立 社会契約説 新聞 独立宣言 (アメリカ) 奴隷制 国民主権 人権宣言 絶対王政 フランス革命 ナショナリズム ナポレオン法典</p>	<p>【新政府の成立】 五箇条の御誓文 年貢 (再掲) 版籍奉還 明治維新 えた身分 (再掲) 「解放令」 華族 県知事 県令 士族 太政官 (再掲) 廃藩置県 藩閥政府 肥前 (藩) (再掲) ひにん身分 (再掲) 府知事 平民 身分制度</p>	<p>【立憲制国家の成立】 激化事件 衆議院 大日本帝国憲法 帝国議会 内閣制度 貴族院 教育勅語 衆議院議員選挙 選挙権 民法 【欧米列強の侵略と条約改正】 関税自主権の回復 条約改正 植民地 (再掲) 帝国主義 鹿鳴館 エルトウルル号遭難事件 教化政策 オスマン帝国 (再掲) シベリア鉄道 日英通商航海条約 ノルマントン号事件 領事裁判権撤廃</p>	<p>【ロシア革命】 社会主義 (再掲) ソビエト ロシア革命 共産主義 計画経済 五か年計画 シベリア出兵 ソビエト社会主義共和国連邦 (ソ連) 【国際協調の高まり】 国際協調 国際連盟 常任理事国 (国際連盟) パリ講和会議 ベルサイユ条約 民族自決 映画 四か国条約 社会福祉 女性の選挙権 普通選挙 ラジオ (放送) 労働党内閣 ワイマール憲法 ワシントン会議</p>	<p>【欧米の情勢とファシズム】 全体主義 ファシスト党 ファシズム 国民社会主義ドイツ労働者党 ナチス ユダヤ人 【昭和恐慌と政党内閣の危機】 金融恐慌 「憲政の常道」 昭和恐慌 立憲民政党 関東軍 国民政府 ロンドン海軍軍縮条約 【満州事変と軍部の台頭】 国際連盟脱退 日独防共協定 満州国 満州事変 リットン調査団 柳条湖事件 ワシントン軍縮条約 軍部 五・一五事件 二・二六事件 【日中戦争と戦時体制】 援蒋ルート 抗日民族統一戦線 南京事件 日中戦争 盧溝橋事件 切符制 皇民化政策 国民学校 国家総動員法 戦時体制 創氏改名 大政翼賛会 隣組 配給 (制) 【第二次世界大戦の始まり】 空襲 第二次世界大戦 独ソ不可侵条約 日独伊三国同盟 アウシュビッツ強制収容所 アンネの日記 「命のビザ」 枢軸国 大西洋憲章 レジスタンス 【太平洋戦争の開始】 真珠湾攻撃 「大東亜共栄圏」 日ソ中立条約 フランス領インドシナ A B C D 包囲陣 太平洋戦争</p>	
	<p>【産業革命と19世紀のヨーロッパ】 インド (再掲) 三角貿易 (大西洋) (再掲) 産業革命 (世界) 資本主義 蒸気機関 「世界の工場」 鉄道 社会主義 ドイツ 万国博覧会 プロイセン 労働組合</p>	<p>【富国強兵と文明開化】 官営模範工場 殖産興業 富岡製糸場 「富国強兵」 郵便制度 「学問のすゝめ」 活版印刷 (術) (再掲) キリスト教 (再掲) 自由民権運動 神道 (再掲) 神仏分離令 太陽暦 (再掲) 文明開化</p>	<p>【日清戦争】 甲午農民戦争 三国干渉 下関条約 台湾総督府 東学 日清戦争 租借 (権) 大韓帝国 中国分割 満州 立憲政友会</p>	<p>【アジアの民族運動】 国民党 五・四運動 中国共産党 中国国民党 二十一か条の要求 三・一独立運動 【大正デモクラシーと政党内閣の成立】 護憲運動 米騒動 大戦景気 藩閥 大正デモクラシー 天皇機関説 民主主義 【広がる社会運動と普通選挙の実現】 小作争議 社会運動 女性運動 日本共産党 日本社会主義同盟 日本農民組合 日本労働総同盟 農民運動 部落解放運動 メーデー 友愛会 労働運動 憲政会 新婦人協会 青鞞社 全国水平社 治安維持法 普通選挙法</p>	<p>【近代の国際関係】 岩倉使節団 江華島事件 清 (再掲) 征韓論 征韓論政変 朝鮮 日清修好条規 日朝修好条規 【国境と領土の確定】 蝦夷地 (再掲) 小笠原諸島 開拓使 樺太 (再掲) 樺太・千島交換条約 尖閣諸島</p>	<p>【日露戦争】 義和団事件 日英同盟 日露戦争 日本海海戦 日比谷焼き打ち事件 ポーツマス条約 【韓国与中国】 韓国 韓国統監府 韓国併合 義兵運動 朝鮮総督府 軍閥 三民主義 辛亥革命 中華民国 南満州鉄道株式会社 (満鉄) 【産業革命の進展】 足尾銅山 (再掲) 足尾銅山鉱毒事件 公害 (問題) 産業革命 (日本)</p>

	日米和親条約 函館 安政の五か国条約 江戸(再掲) 開国 神奈川 神戸 台場 大老(再掲) 長崎(再掲) 新潟 日米修好通商条約 兵庫(再掲) 横浜 【尊王攘夷運動と開国の影響】 安政の大獄 公武合体策 桜田門外の変 尊王攘夷運動(再掲) 打ちこわし(再掲) 「ええじゃないか」 万延小判 「世直し」 世直し一揆 【江戸幕府の滅亡】 会津(藩) 薩英同盟 薩摩(藩)(再掲) 下関砲台 新撰組 長州(藩)(再掲) 生麦事件 王政復古の号令 薩長同盟 大政奉還 土佐(藩) 鳥羽・伏見の戦い 戊辰戦争	竹島 北海道 アイヌの人々(再掲) アイヌ民族(再掲) 沖縄県 屯田兵 琉球王国(再掲) 琉球処分 琉球藩 【自由民権運動の高まり】 西南戦争 内務省 民撰議員設立の建白書 立志社 国会開設の勅諭 国会期成同盟 自由党 政党内閣 立憲改進黨	八幡製鉄所 工場法 小作人(再掲) 財閥 地主(再掲) 大逆事件 労働争議 【近代文化の形成】 印象派 東京美術学校 浮世絵(再掲) 義務教育 自然主義 ジャポニズム 中等教育 ロマン主義 【「解放令」から水平社へ】 被差別部落 ひにん身分 「破戒」 部落差別 【第一次世界大戦】 イタリヤ オーストリア 三国同盟 スラブ民族 日露協約 バルカン半島 「ヨーロッパの火薬庫」 セルビア 総力戦 第一次世界大戦 連合国	北海道アイヌ協会 【新しい文化と生活】 高等女学校 中学校 関東大震災 白樺派 プロレタリア文学 民芸 【世界恐慌とブロック経済】 世界恐慌 ニューディール ブロック経済 保護貿易	ミッドウェー海戦 【戦時下の人々】 学徒出陣 勤労動員 疎開 マスメディア 集団疎開 【戦争の終結】 沖縄戦 沖縄 玉音放送 原子爆弾(原爆) 東京大空襲 特別攻撃隊 広島 ポツダム宣言 無差別爆撃 ヤルタ会談 【北海道とアイヌ民族の歴史】 擦文文化 俵物(再掲) 十三湊(再掲) 松前氏(藩)(再掲) アイヌ文化振興法 北海道旧土人保護法 【全ての子どもに教育を】 日本国憲法
現代の日本と世界	【占領下の日本】 奄美群島(再掲) 小笠原諸島(再掲) 沖縄(再掲) シベリア抑留 中国残留日本人孤児 ポツダム宣言(再掲) 北方領土 極東国際軍事裁判 東京裁判 關市 連合国軍最高司令官総司令部(GHQ) 【民主化と日本国憲法】 「あたらしい憲法のはなし」 小作人(再掲) 財閥(再掲) 財閥解体 自作農 地主(再掲) 選挙権(再掲) 大日本帝国憲法(再掲) 治安維持法(再掲) 農地改革 労働基準法 労働組合法 議院内閣制 基本的人権の尊重 義務教育(再掲) 教育基本法 国民主権(再掲) 社会党 衆議院議員選挙(再掲) 地方自治法 日本国憲法(再掲) 日本共産党(再掲) 日本社会党	【冷戦の開始と植民地の解放】 安全保障理事会 イギリス(再掲) 北大西洋条約機構 共産主義(再掲) 国際連合(国連) 資本主義(再掲) 常任理事国(国際連合) ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)(再掲) 冷たい戦争 NATO ベルリンの壁 冷戦 ワルシャワ条約機構 「アフリカの年」 インド(再掲) 韓国(再掲) 北朝鮮 国民党(再掲) 大韓民国 中華人民共和国 朝鮮戦争 朝鮮民主主義人民共和国 和国 南北問題 【独立の回復と55年体制】 警察予備隊 サンフランシスコ平和条約 自衛隊 特需景気 日米安全保障条約(安保条約) 安保闘争 原水爆禁止運動 55年体制	【緊張緩和と日本外交】 アジア・アフリカ会議 キューバ危機 緊張緩和 日ソ共同宣言 ベトナム戦争 ヨーロッパ共同体(EEC) アメリカ軍基地 竹島(再掲) 日韓基本条約 日中共同声明 日中平和友好条約 非核三原則 【日本の領土をめぐる問題とその動き】 尖閣諸島(再掲) 【日本の高度経済成長】 高度経済成長 新幹線 東京オリンピック・パラリンピック イタイイタイ病 エルサレム(再掲) オイル・ショック 過疎化 環境省 環境庁 公害(問題)(再掲) 公害対策基本法 石油危機 新潟水俣病 パレスチナ問題 貿易摩擦 水俣病 ユダヤ人(再掲) 四日市ぜんそく	【マスメディアと現代の文学】 映画(再掲) 新聞(再掲) テレビ放送 ラジオ(放送)(再掲) アニメ インターネット ノーベル賞 マスメディア(再掲) 漫画 【冷戦後の国際社会】 計画経済(再掲) サミット 主要国首脳会議 東西ドイツ統一 冷戦の終結 アジア太平洋経済協力会議 アメリカ同時多発テロ イラク戦争 APEC NGO 国連平和維持活動 「世界の工場」(再掲) 地域紛争 非政府組織 平和維持活動 PKO ヨーロッパ連合(EU) 湾岸戦争	【変化の中の日本】 国際平和協力法 バブル経済 PKO協力法 非自民連立内閣 民主党 【持続可能な社会に向けて】 アイヌの人々(再掲) グローバル化 少子高齢社会 阪神・淡路大震災 東日本大震災 部落差別(再掲) 京都議定書 「持続可能な社会」 男女共同参画社会基本法 男女雇用機会均等法 地球温暖化 地球温暖化防止京都会議 平和の礎 【歴史の中の大地震】 下田(再掲) 関東大震災(再掲) 【人類の歴史とエネルギー】 産業革命(世界)(再掲) 蒸気機関(再掲)

	日本自由党 部落解放運動(再掲) 平和主義 民法(再掲) 労働組合(再掲)	自由民主党(自民党) 水素爆弾(水爆) 第五福竜丸			
	<b>教 出</b>				
古代 まで の 日 本	【原始・古代の日本と世界】 吉野ヶ里遺跡 【生きぬく知恵】 猿人 旧石器時代 原人 新人 打製石器 直立二足歩行 氷河時代 原始時代 新石器時代 土器 文明 磨製石器 むら 【エジプトはナイルの賜物】 エジプト文明 オリエント 象形文字 太陽暦 ピラミッド メソポタミア文明 イスラム教(イスラム) キリスト教 くさび形文字 青銅器 太陰暦 奴隸 ハンムラビ法典 民主主義(政治) ユダヤ教 ユダヤ人 ローマ帝国 【骨に刻まれた文字】 稲作 殷 漢字 甲骨文字 儒教 中国文明 論語 インダス文明(文字) ヒンドゥー教 仏教 平民 身分(身分制)	【東と西をつなぐ道】 漢 魏 皇帝 シルクロード(絹の道) 秦 中央集権(中央集権国家) 南朝(中国) 万里の長城 北朝(中国) 伽耶(加羅)諸国 百濟 高句麗 新羅 聖書 パレスチナ 楽浪郡 倭 【日本列島のあけぼの】 貝塚 縄文土器 ナウマンゾウ 竪穴住居 土偶 縄文時代 【楽浪の海中に倭人あり】 石包丁 金属器 高床倉庫 弥生土器 『魏志』の倭人伝 金印 朝貢 鉄器 銅鏡 銅剣 銅鐸 邪馬台国 弥生時代	【東アジアのなかの大和政権】 大王 豪族 古墳 古墳時代 前方後円墳 大仙(大山)古墳、埴輪 大和政権 氏 須恵器 渡来人 【地域の遺跡や古墳を訪ねて】 三内丸山遺跡 【広がる国際交流】 イスラム世界(勢力) 戸籍 隋 長安 唐 兵役 律令(律令制) 留学生 コーラン 渤海 【あつく三宝を敬え】 冠位十二階の制度 十七条の憲法 摂政 蘇我氏 朝廷 天皇 飛鳥時代 飛鳥文化 遣隋使 南北朝時代(中国) 法隆寺	【律令国家への歩み】 公地公民 防人 大化の改新 日本 年号(元号) 白村江の戦い 水城 貴族 郡司 国司 国府 壬申の乱 太政官 太政大臣 大宝律令 太宰府 藤原京 律令国家(律令政治) 【シルクロードにつながる道】 駅馬 蝦夷 遣唐使 奈良時代 平城京 和同開珎 国分寺 国文尼寺 古事記 正倉院 神話 天平文化 東大寺 日本書紀 風土記 万葉仮名 万葉集 和歌	【木簡と計帳は語る】 口分田 賤民 租・調・庸 奴婢 班田収授の法(班田収受) 木簡 良民 計帳 墾田永年私財法 【望月の欠けたることもなしと思えば】 征夷大將軍 長岡京 平安京 平安時代 関白 荘園 摂関政治 藤原氏 【「以呂波」から「いろは」へ】 絵巻物 延暦寺 国風文化 真言宗 寝殿造 天台宗 大和絵 阿彌陀仏 かな文字 源氏物語 古今和歌集 極楽浄土 浄土の教え 念仏 平等院鳳凰堂 枕草子
	中世 の 日 本	【中世の日本と世界】 源氏 壇ノ浦の戦い 平氏 【大陸をまたぐ大帝国】 儒教(再掲) 朱子学 浄土宗 禅宗 宋 宋銭 唐(再掲) 南宋 仏教(再掲) 身分(身分制)(再掲) モンゴル帝国 羅針盤 イスラム世界(勢力)(再掲) 元 皇帝(再掲) 高麗	【「一所懸命」の戦い】 蝦夷(再掲) 鎌倉幕府 地頭 守護 征夷大將軍(再掲) 武家(武家政治) 公家 御恩 御家人 荘園領主 惣領 年貢(年貢米) 奉公 封建制度 【いざ鎌倉】 執権 執権政治 承久の乱 北条氏 六波羅探題 御成敗式目	【祇園精舎の鐘の声】 市 一向宗 飢饉 極楽浄土(再掲) 浄土宗(再掲) 浄土真宗 問丸 二毛作 念仏(再掲) 絵巻物(再掲) 時宗 新古今和歌集 真言宗(再掲) 徒然草 天台宗(再掲) 東大寺(再掲) 東大寺南大門(再掲) 日蓮宗(法華宗) 琵琶法師 方丈記 和歌	【このごろ都にはやるもの】 建武の新政 南北朝時代(日本) 南北朝の内乱 年号(元号)(再掲) 管領 守護大名 畠山氏 細川氏 室町時代 室町幕府 【行き交う海賊船と貿易船】 朝貢(再掲) 万里の長城(再掲) 明 倭寇 勘合 勘合貿易 水墨画 宗氏 朝鮮 ハングル

	<p>新羅(再掲) 【貴族から武士へ】 院政(院) 豪族(再掲) 国司(再掲) 荘園(再掲) 上皇 武士 不入の権 不輸の権 奥州藤原氏 公領 後三年合戦 前九年合戦 太政大臣(再掲) 藤原氏(再掲) 平治の乱 保元の乱</p>	<p>似絵 平家物語 【海から押し寄せる元軍】 元寇(元軍) 弘安の役 文永の役 防塁 悪党 恩賞 徳政令</p>	<p>明銭 陽明学 【北と南で開かれた交易】 アイヌ民族(アイヌの 人たち) 蝦夷地 沖縄戦 先住民族(先住民) 中継貿易 琉球王国 オホーツク文化 擦文文化 千島列島 十三湊 和人</p>	<p>下剋上 検地 城下町 戦国大名 戦国時代 分国法 領国 【今につながる文化の芽生え】 狂言 金閣 銀閣 猿楽 田楽 能(能楽) 連歌 お伽草子 河原者 書院造 茶の湯 【戦乱の世の自治と領国経営】 目安箱 百姓</p>	
近世の日本	<p>【教会とコーランの教え】 イスラム世界(勢力) (再掲) カトリック教会 ギリシャ正教会 キリスト教(再掲) 唐(再掲) ローマ教皇 ローマ帝国(再掲) イスラム教(イスラム) (再掲) オリエント(再掲) コーラン(再掲) 十字軍 羅針盤(再掲) 【中世からの脱却】 ルネサンス(文芸復興) 活版印刷機 宗教改革 聖書(再掲) プロテスタント 免罪符 【太陽の沈まない国】 香辛料 イエズス会 植民地 先住民族(先住民)(再掲) 奴隷(再掲) 【戦国の世に現れた南蛮人】 足輕(再掲) 堺(再掲) 宣教師 戦国大名(再掲) 種子島 鉄砲 大村氏 キリシタン キリシタン大名 天正遣欧使節 長崎 南蛮貿易</p>	<p>【銀で結びつく世界】 石見銀山 【天下統一を目ざして】 安土城 市(再掲) 延暦寺(再掲) 桶狭間の戦い 座(再掲) 関所(再掲) 武田氏 長篠の戦い 仏教(再掲) 室町幕府(再掲) 楽市・楽座 大阪城 関白(再掲) 公家(再掲) 軍役(再掲) 検地(再掲) 荘園(再掲) 太政大臣(再掲) 北条氏(再掲) 本能寺 【近世社会への幕開け】 刀狩 石高(再掲) 太閤検地(再掲) 町人 年貢(年貢米)(再掲) 百姓(再掲) 武士(再掲) 本百姓 身分(身分制)(再掲) 有田焼 義兵 儒学 城下町(再掲) 朝鮮(再掲) 豊臣政権 兵農分離 明(再掲) 倭寇(再掲)</p>	<p>【城と茶の湯】 書院造(再掲) 茶の湯(再掲) 能(能楽)(再掲) 姫路城(再掲) 平家物語(再掲) 桃山文化 侘び茶 歌舞伎 かぶき踊り 三味線 浄瑠璃 南蛮文化 人形浄瑠璃 【泰平の世の土台づくり】 江戸時代 江戸幕府 五街道 御家人(再掲) 征夷大將軍(再掲) 関ヶ原の戦い 大名 旗本 江戸城 参勤交代 親藩 大老 外様大名 幕藩体制 藩 武家諸法度 譜代大名 町奉行 老中 【東南アジアに広がる日本町】 朱印状 朱印船貿易 日本町 港町(再掲) 絵踏 オランダ商館 飢饉(再掲) 禁教令 鎖国 島原・天草一揆 宗門改め(宗門改帳) 出島 踏絵</p>	<p>【開かれた窓】 清 宗氏(再掲) 朝貢(再掲) 通信使 アイヌ民族(アイヌの 人たち)(再掲) 蝦夷地(再掲) 薩摩藩 松前藩 琉球王国(再掲) 和人(再掲) 【身分ごとに異なる暮らし】 組頭 朱子学(再掲) 帯刀 名主(庄屋) 百姓代 水呑百姓 名字 えた・ひにん 五人組 【將軍のおひざもと、天下の台所】 新田開発 千齒こき 唐箕 備中ぐわ 足尾銅山 株仲間 蔵屋敷 佐渡金山 宿場町 問屋 門前町(再掲) 両替商 【花開く町人文化】 浮世絵(錦絵) 浮世草子 奥の細道 元禄文化 俳諧(俳句) 大日本史 年中行事 陽明学(再掲) 和算</p>	<p>【連判状にまとまる人々】 商品作物 生類憐みの令 問屋制家内工業 打ちこわし 享保の飢饉 地主 百姓一揆 【繰り返される政治改革】 享保の改革 公方御定書 目安箱(再掲) 寛政の改革 狂歌 儉約令 昌平坂学問所 天明の飢饉 藩政改革 【「読み・書き・そろばん」の習い】 解体新書 国学 古事記(再掲) 古事記伝 儒教(再掲) 心学 尊皇攘夷運動 万葉集(再掲) 蘭学 化政文化 川柳 寺子屋 東海道中膝栗毛 南総里見八犬伝 藩校 落語</p>
近代の日	<p>【王は君臨すれども統治せず】 カトリック教会(再掲) 議会(議会政治)</p>	<p>【新たな政権を目ざして】 安政の大獄 公家(再掲) 桜田門外の変 公武合体策</p>	<p>【智識を世界に求めて】 岩倉使節団 鎖国(再掲) 征韓論 朝鮮</p>	<p>【変わりゆく東アジア】 韓国併合 義兵(再掲) 修身 朝鮮総督府</p>	<p>【デモクラシーのうねり】 小作争議 全国水平社 日本共産党 日本農民組合</p>

本と世界

地主(再掲)  
 宗教改革(再掲)  
 絶対王政  
 専制政治  
 東インド会社  
 プロテスタント(再掲)  
 啓蒙思想  
 権利の章典  
 ビューリタン革命  
 名誉革命  
 【代表なくして課税なし】  
 アメリカ(合衆国)  
 合衆国憲法  
 基本的人権  
 植民地(再掲)  
 先住民(先住民)(再掲)  
 独立宣言  
 奴隷(再掲)  
 人権宣言  
 フランス革命  
 平民(再掲)  
 身分(身分制)(再掲)  
 民主主義(政治)(再掲)  
 【「世界の工場」の光とかげ】  
 産業革命  
 世界の工場  
 万国博覧会(万博)  
 参政権  
 資本主義  
 社会主義  
 労働組合  
 【強大な国家を目ざして】  
 クリミア戦争  
 皇帝(再掲)  
 南北戦争  
 近代化  
 富国強兵  
 列強  
 【国をゆるがす綿とアヘン】  
 インド大反乱  
 清(再掲)  
 アヘン戦争(アヘン)  
 太平天国  
 南京条約  
 【内と外の危機】  
 打ちこわし(再掲)  
 蝦夷地(再掲)  
 外国船打払令  
 工場制手工業(マニユファクチュア)  
 天保の飢饉  
 百姓一揆(再掲)  
 陽明学(再掲)  
 えた・ひにん(再掲)  
 株仲間(再掲)  
 薩摩藩(再掲)  
 洪染一揆  
 長州藩  
 天保の改革  
 蛮社の獄  
 藩政改革(再掲)  
 蘭学(再掲)  
 老中(再掲)  
 【たった四はいで夜も眠れず】  
 オランダ商館(再掲)  
 狂歌(再掲)  
 大名(再掲)  
 千島列島(再掲)  
 函館  
 日米和親条約  
 関税自主権  
 大老(再掲)  
 治外法権

薩英戦争  
 薩長同盟  
 尊皇攘夷運動(再掲)  
 土佐藩  
 生麦事件  
 【御政事売り切れ申し候】  
 ええじゃないか  
 新聞  
 世直し  
 浮世絵(錦絵)(再掲)  
 江戸幕府(再掲)  
 王政復古の大王令  
 大政奉還  
 留学生(再掲)  
 【坂本龍馬と横井小楠】  
 参勤交代(再掲)  
 【改革や平等を求めて】  
 儉約令(再掲)  
 三閉伊一揆  
 【万機公論に決すべし】  
 会津藩  
 江戸城(再掲)  
 奥羽越前藩同盟  
 五稜郭  
 戊辰戦争  
 一世一元の制  
 キリスト教(再掲)  
 五箇条の御誓文  
 年号(元号)(再掲)  
 明治維新  
 【人民に上下の別なし】  
 県令  
 太政官(再掲)  
 中央集権(中央集権国家)(再掲)  
 廃藩置県  
 幕藩体制(再掲)  
 藩(再掲)  
 版籍奉還  
 藩閥政治(再掲)  
 開拓使  
 解放令  
 華族  
 戸籍(再掲)  
 士族(士族の反乱)  
 四民平等  
 町人(再掲)  
 百姓(再掲)  
 武士(再掲)  
 兵役(再掲)  
 名字(再掲)  
 【学問は身を立てるの財本】  
 学制  
 小学校  
 徴兵令  
 寺子屋(再掲)  
 小作人  
 三民主義  
 地券  
 地租  
 地租改正  
 年貢(年貢米)(再掲)  
 【ザン切り頭をたたいてみれば】  
 官営模範工場  
 殖産興業  
 関所(再掲)  
 富岡製糸場  
 鹿鳴館  
 アイヌ民族(アイヌの人たち)(再掲)  
 学問のすゝめ  
 太陰暦(再掲)  
 太陽暦(再掲)  
 屯田兵  
 仏教(再掲)  
 文明開化  
 北海道旧土人保護法

日清修好条規  
 樺太・千島交換条約  
 江華島事件  
 尖閣諸島  
 竹島  
 朝貢(再掲)  
 日朝修好条規  
 琉球王国(再掲)  
 琉球処分  
 【民権議院を開設せよ】  
 国会  
 自由民権運動  
 西南戦争  
 徴兵制  
 民選議院設立建白書  
 立憲政治  
 国会期成同盟  
 自由党  
 政党  
 立憲改進黨  
 【憲法の条規により之を行う】  
 貴族院  
 衆議院(議員)  
 首相  
 枢密院  
 大日本帝国憲法  
 帝国議会  
 内閣制度  
 内閣総理大臣  
 教育勅語  
 民法  
 【山川(大山)捨松と津田梅子】  
 関東大震災  
 【アイヌの文化を伝える人たち】  
 アイヌ神謡集  
 ユーカラ  
 【対等な条約を求めて】  
 シベリア鉄道  
 スエズ運河  
 帝国主義  
 欧化政策  
 条約改正  
 ノルマントン号事件  
 日米通商航海条約  
 【朝鮮をめぐる戦い】  
 甲午農民戦争  
 下関条約  
 東学  
 日清戦争  
 遼東半島  
 憲政党  
 三国干渉  
 政党政治  
 政党内閣  
 立憲政友会  
 【「眠れる獅子」に迫る列強】  
 義和団事件(義和団)  
 大韓民国(韓国)  
 日英同盟  
 【列強との戦い】  
 日露戦争  
 日本銀行  
 日比谷焼き打ち事件、ポーツマス条約  
 南満州鉄道

同化政策  
 統監府  
 関東軍  
 関東都督府  
 辛亥革命  
 中華民国  
 独裁政治  
 【人口からみた日本の歴史】  
 宗門改め(宗門改帳)(再掲)  
 【近代産業を支えた糸と鉄】  
 軽工業  
 八幡製鉄所  
 軍用品  
 【工業化のかげで】  
 社会運動  
 労働争議  
 足尾鋇毒事件  
 足尾銅山(再掲)  
 ファシズム  
 公害(公害問題)  
 工場法  
 社会民主党  
 大逆事件  
 治安警察法  
 【西洋文化と伝統文化】  
 学校令  
 義務教育  
 女子師範学校  
 俳諧(俳句)(再掲)  
 【クリスマスまでには帰れるさ】  
 三国協商  
 三国同盟  
 ヨーロッパの火薬庫  
 軍需品  
 戦車  
 潜水艦  
 総力戦  
 第一次世界大戦  
 配給制  
 連合国  
 【パンと平和、民主主義を求めて】  
 ソビエト(ソビエト政府)  
 民族自決  
 ロシア革命  
 議会制民主主義  
 ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)  
 【成金の出現】  
 シベリア出兵  
 二十一条の要求  
 財閥  
 大戦景気  
 成金  
 両替商(再掲)  
 【不戦の誓い】  
 委任統治領  
 国際連盟  
 ベルサイユ条約  
 常任理事国  
 ワイマール憲法  
 ワシントン会議  
 【わきあがる独立の声】  
 三・一独立運動  
 インドの民族(独立)運動  
 国民政府  
 五・四運動  
 中国共産党  
 中国国民党  
 非暴力・不服従の運動  
 【憲政の本義を説いて】  
 第一次護憲運動  
 天皇機関説  
 民本主義  
 米騒動  
 部落差別

普通選挙  
 北海道アイヌ協会  
 メーカー  
 協調外交  
 大正デモクラシー  
 第二次護憲運動  
 治安維持法  
 普通選挙法  
 【モボ・モガの登場】  
 職業婦人  
 映画  
 ラジオ放送  
 【独裁者の出現】  
 世界恐慌  
 ニューディール政策  
 ブロック経済  
 ナチ党(国民社会主義ドイツ労働者党)  
 ファシスト党  
 ファシズム  
 ユダヤ人(再掲)  
 【日本を襲う不景気】  
 金融恐慌  
 【満州は日本の生命線】  
 満州国  
 満州事変  
 柳条湖事件  
 【「話せばわかる】  
 軍国主義  
 五・一五事件  
 二・二六事件  
 極東国際軍事裁判(東京裁判)  
 抗日民族統一戦線  
 日中戦争  
 盧溝橋事件  
 日独防共協定  
 【ぜいたくは敵だ】  
 国家総動員法  
 大政翼賛会  
 隣組  
 切符制  
 皇民化政策  
 国民学校  
 創氏改名  
 疎開  
 大日本産業報国会  
 【枢軸国と連合国の戦い】  
 アウシュビッツ強制収容所  
 三国防共協定  
 枢軸国  
 第二次世界大戦  
 大西洋憲章  
 独ソ戦  
 レジスタンス  
 【米・英への宣戦布告】  
 ABCD包囲網  
 大東亜共栄圏  
 日ソ中立条約  
 日独伊三国同盟  
 アメリカ軍  
 太平洋戦争  
 【欲しがりません勝つまでは】  
 学童疎開  
 学徒出陣  
 勤労動員  
 空襲  
 東京大空襲  
 【軍国主義の敗北】  
 沖繩戦(再掲)  
 ソ連軍  
 原子爆弾(原爆)  
 残留孤児  
 シベリア抑留  
 ポツダム宣言  
 ヤルタ会談  
 【後藤新平と杉原千畝】

	長崎(再掲) 日米修好通商条約				イスラエル
現代の日本と世界	<p>【敗戦からの再出発】 アメリカ軍(再掲) 極東国際軍事裁判(東京裁判)(再掲) 軍国主義(再掲) 政党(再掲) ソ連軍(再掲) 治安維持法(再掲) 千島列島(再掲) 日本社会党 日本共産党(再掲) 日本自由党 民主主義(政治)(再掲) 連合国(再掲) 連合国軍総司令部(GHQ) アイヌ民族(アイヌの人たち)(再掲) 全国水平社(再掲) ノーベル賞 部落解放運動 北海道アイヌ協会(再掲) 闇市 労働基準法 労働組合(再掲) 労働組合法</p>	<p>【平和国家を日ざして】 議院内閣制 議会(議会政治)(再掲) 基本的人権の尊重 民主主義 国会(再掲) 戦争放棄 大日本帝国憲法(再掲) 日本国憲法 平和主義 民主化 民法(再掲) 義務教育(再掲) 教育基本法 教育勅語(再掲) 小作人(再掲) 財閥(再掲) 財閥解体 地主(再掲) 小学校(再掲) 農地改革</p>	<p>【冷たい戦争の始まり】 アメリカ(合衆国)(再掲) 北大西洋条約機構 国際連合(国連) 資本主義(再掲) 社会主義(再掲) 常任理事国(再掲) ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)(再掲) 冷たい戦争 ベルリンの壁 冷戦 ワルシャワ条約機構 アジア・アフリカ会議 アフリカの年 イスラエル(再掲) 国民政府(再掲) 植民地(再掲) スエズ運河(再掲) 大韓民国(韓国)(再掲) 中華人民共和国 中国共産党(再掲) 中東戦争 朝鮮(再掲) 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮) 難民 パレスチナ(再掲) ユダヤ人(再掲)</p> <p>【38度線の緊張】 朝鮮戦争 韓国併合(再掲) 警察予備隊 原子爆弾(原爆)(再掲) 在日韓国・朝鮮人 参政権(再掲) 自衛隊 太平洋戦争(再掲) 特需(特殊需要)景気 日中戦争(再掲)</p>	<p>【独立から復興へ】 サンフランシスコ平和条約 首相(再掲) 日ソ共同宣言 北方領土問題 ロシア連邦 日米安全保障条約(安保条約) 核兵器 原水爆禁止運動 55年体制 自由民主党(自民党) 水爆実験 第五福龍丸 【自主・独立・平和を求めて】 米軍基地 ベトナム戦争 イスラム教(イスラム)(再掲) イラン革命 キューバ危機 パレスチナ解放機構(PLO) ブラハの春 ヨーロッパ共同体(EC) 【国際関係の変化】 議会制民主主義(再掲) 日韓基本条約 沖縄返還協定 日中共同声明 日中平和友好条約 非核三原則 本土復帰 【高度経済成長の光とかげ】 高度経済成長 国民総生産(GNP) 東京オリンピック 環境庁(環境省) 公害(公害問題)(再掲) 公害対策基本法 石油危機 貿易摩擦</p>	<p>【変動する国際社会】 マルタ会談 ユーロ ヨーロッパ連合(EU) アラブの春 国連平和維持活動(PKO) 政権交代 地域紛争 テロ 同時多発テロ事件 独裁政治(再掲) 湾岸戦争 イラク戦争 【隣国と向き合うために】 世界の工場(再掲) 天安門事件 日朝平壤宣言 日本人拉致 尖閣諸島(再掲) 竹島(再掲) 領土問題 【私たちの生きる時代へ】 バブル経済 阪神・淡路大震災 東日本大震災 民主党 【未来をひらくために】 グローバル化 少子高齢化 情報化 地球温暖化 部落差別(再掲)</p>
	清 水				
古代までの日本	<p>【ヒトがあらわれるまで】 猿人 化石 原人 打製石器 氷河期 類人猿 オオツノジカ 旧石器時代 新人 ナウマンゾウ マンモス ラスコーの壁画</p> <p>【植物と日本人】 照葉樹林</p> <p>【定住して生きる人びと】 新石器時代 定住 土器 農耕 氷期 磨製石器 屈葬 縄文時代 縄文土器 竪穴住居 土偶 抜歯</p>	<p>【地中海が育てた文明】 ギリシャ文明 哲学 デモクラチア 都市国家 パルテノン神殿 ポリス ローマ文明 『旧約聖書』 キリスト教 コロッセウム 『新約聖書』 パレスチナ ユダヤ人 ローマ帝国</p> <p>【東アジアで生まれた文明】 殷 王朝 漢字 黄河 甲骨文 周 長江 鉄製農具 『論語』 漢 儒学(儒教) 秦</p>	<p>【古墳文化とヤマト王権の統一】 円墳 大王 豪族 古墳 前方後円墳 大山古墳 埴輪 方墳 ヤマト王権 須恵器 渡来人</p> <p>【隋・唐王朝とイスラーム帝国】 アッラー 隋 唐 ペルシャ 律 令 唐三彩 アッバース朝 イスラーム イスラーム商人 イスラーム帝国 広州 『コーラン』</p>	<p>【平城京の建設と仏教】 七道 太政官 太宰府 朝廷 奈良時代 平城京 郡司 国司 国分寺 国分尼寺 大仏 唐招提寺 東大寺 東大寺戒壇院</p> <p>【資料を読み取ろう】 木簡</p> <p>【律令制下の農民の暮らし】 口分田 戸籍 租 雑徭 調 奴婢 班田収授法 庸 律令制度 墾田永年私財法</p>	<p>【平安京へ都を移す】 蝦夷 京都 多賀城 長岡京 平安京 平安時代 律令政治 延暦寺 金剛峯寺 真言宗 征夷大將軍 天台宗</p> <p>【都の政治と地方のうごき】 關白 陣 摂関政治 摂政 藤原氏 武士 【武士の台頭と院政】 奥州藤原氏 源氏 後三年合戦 前九年合戦 中尊寺 中尊寺金色堂 平泉</p>

	<p>【遺跡から原始の時代を探ろう】</p> <p>岩宿遺跡</p> <p>貝塚</p> <p>考古学</p> <p>縄文海進</p> <p>【大河が生んだ文明】</p> <p>エジプト文明</p> <p>くさび形文字</p> <p>青銅器</p> <p>太陰暦</p> <p>チグリス川</p> <p>ナイル川</p> <p>ハンムラビ法典</p> <p>文明</p> <p>メソポタミア文明</p> <p>ユーフラテス川</p> <p>インダス川</p> <p>インダス文明</p> <p>ガンジス川</p> <p>象形文字</p> <p>太陽暦</p> <p>バビルス</p> <p>ピラミッド</p> <p>仏教</p> <p>モヘンジョダロ</p>	<p>前漢</p> <p>万里の長城</p> <p>兵馬俑</p> <p>【日本列島の文化】</p> <p>石包丁</p> <p>沖繩（県）</p> <p>水稻耕作</p> <p>高床式倉庫</p> <p>北海道</p> <p>弥生時代</p> <p>弥生土器</p> <p>鉄器</p> <p>銅鐸</p> <p>【東アジアのなかの日本】</p> <p>高句麗</p> <p>後漢</p> <p>倭</p> <p>魏</p> <p>魏志倭人伝</p> <p>金印</p> <p>百濟</p> <p>新羅</p> <p>朝貢</p> <p>奴国</p> <p>邪馬台国</p> <p>吉野ヶ里遺跡</p>	<p>メッカ</p> <p>【聖徳太子の政治と飛鳥冠位十二階】</p> <p>十七条の憲法</p> <p>蘇我氏</p> <p>『日本書紀』</p> <p>物部氏</p> <p>飛鳥文化</p> <p>遣隋使</p> <p>法隆寺</p> <p>【律令国家をめざして】</p> <p>公地公民</p> <p>大化の改新</p> <p>年号</p> <p>貴族</p> <p>壬申の乱</p> <p>大宝律令</p> <p>高松塚古墳</p> <p>天皇</p> <p>白村江の戦い</p> <p>白鳳文化</p> <p>藤原京</p> <p>薬師寺</p> <p>律令国家</p> <p>和同開珎</p>	<p>防人</p> <p>荘園</p> <p>貧窮問答歌</p> <p>【大陸の影響を受けた文化】</p> <p>遣唐使</p> <p>興福寺</p> <p>天平文化</p> <p>東大寺正倉院</p> <p>渤海</p> <p>『懷風藻』</p> <p>「記紀」</p> <p>『古事記』</p> <p>『風土記』</p> <p>万葉仮名</p> <p>『万葉集』</p> <p>八岐大蛇</p> <p>和歌</p> <p>【神話と伝承】</p> <p>『出雲国風土記』</p>	<p>平氏</p> <p>院政</p> <p>院庁</p> <p>公領</p> <p>荘園領主</p> <p>年貢</p> <p>不入の権</p> <p>不輸の権</p> <p>【国風文化】</p> <p>仮名文字</p> <p>国風文化</p> <p>阿弥陀信仰</p> <p>阿弥陀如来像</p> <p>『源氏物語』</p> <p>『古今和歌集』</p> <p>十二単</p> <p>寝殿造り</p> <p>束帯</p> <p>『竹取物語』</p> <p>平等院鳳凰堂</p> <p>『枕草子』</p> <p>末法思想</p> <p>大和絵</p> <p>【宮廷の女性と仮名文学】</p> <p>『土佐日記』</p>
中世の日本	<p>【宋王朝とモンゴル帝国】</p> <p>科挙</p> <p>広州（再掲）</p> <p>高麗</p> <p>ジャンク船</p> <p>儒学（儒教）（再掲）</p> <p>朱子学</p> <p>宋</p> <p>宋銭</p> <p>朝貢（再掲）</p> <p>北宋</p> <p>火薬</p> <p>元</p> <p>陶磁器</p> <p>『東方見聞録』</p> <p>南宋</p> <p>モンゴル帝国</p> <p>遊牧民（族）</p> <p>羅針盤</p> <p>【平氏政権と日宋貿易】</p> <p>厳島神社</p> <p>院政（再掲）</p> <p>荘園（再掲）</p> <p>太政大臣</p> <p>日宋貿易</p> <p>武士（再掲）</p> <p>「平家納経」</p> <p>平氏（再掲）</p> <p>平治の乱</p> <p>保元の乱</p> <p>大輪田泊</p> <p>壇ノ浦</p>	<p>【鎌倉幕府の成立と執権政治】</p> <p>鎌倉時代</p> <p>鎌倉幕府</p> <p>公領（再掲）</p> <p>御恩</p> <p>御家人</p> <p>地頭</p> <p>守護</p> <p>征夷大將軍（再掲）</p> <p>封建制度</p> <p>奉公</p> <p>北条氏</p> <p>御成敗式目</p> <p>執権</p> <p>承久の乱</p> <p>評定衆</p> <p>六波羅探題</p> <p>【武士と農民の生活】</p> <p>国司（再掲）</p> <p>荘園領主（再掲）</p> <p>年貢（再掲）</p> <p>阿互河荘</p> <p>市</p> <p>塩田</p> <p>鉄製農具（再掲）</p> <p>二毛作</p>	<p>【絵画資料にみる人びとの生活】</p> <p>「一遍上人絵伝」</p> <p>絵巻物</p> <p>【新しい仏教と鎌倉文化】</p> <p>一向宗</p> <p>円覚寺</p> <p>建長寺</p> <p>座禅</p> <p>浄宗</p> <p>浄土宗</p> <p>浄土真宗</p> <p>禅宗</p> <p>曹洞宗</p> <p>題目</p> <p>日蓮宗</p> <p>念仏</p> <p>仏教（再掲）</p> <p>臨濟宗</p> <p>軍記物</p> <p>金剛力士像</p> <p>『新古今和歌集』</p> <p>『徒然草』</p> <p>東大寺大仏殿</p> <p>琵琶法師</p> <p>『平家物語』</p> <p>『方丈記』</p> <p>【元寇と鎌倉幕府の滅亡】</p> <p>石塁</p> <p>文永の役</p> <p>悪党</p> <p>元寇</p> <p>弘安の役</p> <p>徳政令</p>	<p>【建武の新政と室町幕府】</p> <p>建武の新政</p> <p>天皇（再掲）</p> <p>南朝</p> <p>花の御所</p> <p>北朝</p> <p>管領</p> <p>守護代</p> <p>守護大名</p> <p>南北朝の内乱</p> <p>明</p> <p>室町時代</p> <p>室町幕府</p> <p>【東アジア世界とのかかわり】</p> <p>勘合貿易</p> <p>日明貿易</p> <p>倭寇</p> <p>アイヌ</p> <p>蝦夷が島</p> <p>尚氏</p> <p>朝鮮（王朝）</p> <p>ハングル</p> <p>琉球（王国）</p> <p>和人</p> <p>【アジアの船と海上交通】</p> <p>イスラーム商人（再掲）</p> <p>遣隋使（再掲）</p> <p>遣唐使（再掲）</p> <p>『千夜一夜物語』</p> <p>ダウ船</p> <p>モンズーン</p> <p>【農村の自治と人びとの団結】</p> <p>一揆</p> <p>惣村</p> <p>田楽</p> <p>寄合</p> <p>酒屋</p> <p>土一揆</p> <p>土倉</p> <p>馬借</p>	<p>【産業の発達】</p> <p>茶</p> <p>座</p> <p>明銭</p> <p>【応仁・文明の乱と社会の変動】</p> <p>足輕</p> <p>応仁・文明の乱</p> <p>細川氏</p> <p>山名氏</p> <p>一向一揆</p> <p>加賀の一向一揆</p> <p>祇園祭り</p> <p>堺</p> <p>町衆</p> <p>博多</p> <p>畠山氏</p> <p>山城国一揆</p> <p>【室町時代の文化】</p> <p>金閣</p> <p>銀閣</p> <p>書院造り</p> <p>東求堂</p> <p>連歌</p> <p>生け花</p> <p>枯山水</p> <p>狂言</p> <p>水墨画</p> <p>茶の湯</p> <p>能</p> <p>風流踊り</p>
近世の日本	<p>【ヨーロッパ世界の形成】</p> <p>カトリック</p> <p>キリスト教（再掲）</p> <p>ゲルマン人</p> <p>サン・ピエトロ大聖堂</p> <p>ローマ・カトリック世界</p> <p>ローマ教会</p> <p>ローマ教皇</p> <p>ローマ帝国（再掲）</p> <p>イエズス会</p>	<p>【鉄砲とキリスト教の伝来】</p> <p>種子島</p> <p>鉄砲</p> <p>キリシタン大名</p> <p>堺（再掲）</p> <p>天正遣欧少年使節</p> <p>南蛮貿易</p> <p>【信長・秀吉による全国統一】</p> <p>朝倉氏</p> <p>安土</p>	<p>【南蛮文化と桃山文化】</p> <p>安土・桃山時代</p> <p>南蛮文化</p> <p>西本願寺</p> <p>桃山文化</p> <p>安土城</p> <p>大阪城</p> <p>歌舞伎踊り</p> <p>小袖</p> <p>書院造り（再掲）</p> <p>浄瑠璃</p> <p>人形浄瑠璃</p>	<p>【貿易奨励から鎖国へ】</p> <p>キリスト教禁止令</p> <p>朱印船貿易</p> <p>日本町</p> <p>絵踏</p> <p>鎖国</p> <p>島原・天草一揆</p> <p>俵物</p> <p>出島</p> <p>長崎</p> <p>踏絵</p> <p>【外国や周辺地域との関係】</p>	<p>【元禄文化と学問の進歩】</p> <p>歌舞伎</p> <p>元禄文化</p> <p>浮世絵</p> <p>浮世草子</p> <p>国学</p> <p>俳諧</p> <p>陽明学</p> <p>和算</p> <p>【社会の変化と幕府政治の改革】</p> <p>上米の制</p>

<p>イタリア 宗教改革 十字軍遠征 東方貿易 プロテスタント ルネサンス 【航路開拓とヨーロッパの拡大】 オランダ ゴア 航路開拓 スペイン 東インド会社 ポルトガル マカオ マラッカ 銀 植民地 大西洋世界 大西洋貿易 パタゴニア マニラ 【アジアの交易】 石見銀山 景德鎮 陶磁器 (再掲) 五島 紫禁城 ジャンク船 (再掲) 清 朝貢 (再掲) 平戸 満州族 明 (再掲) 【戦国大名の登場】 応仁・文明の乱 (再掲) 下剋上 守護大名 (再掲) 戦国時代 惣村 (再掲) 戦国大名 分国法</p>	<p>一向一揆 (再掲) 延暦寺 (再掲) 桶狭間 長篠の戦い 室町幕府 (再掲) 楽市・楽座 大阪 関白 (再掲) 惣無事令 太政大臣 (再掲) 伊達氏 北条氏 (再掲) 本能寺の変 毛利氏 【秀吉の政策】 一地一作人 刀狩令 検地 石高 年貢 (再掲) 兵農分離 身分統制令 (人掃令) 慶長の役 高山国 朱子学 (再掲) 宣教師 (バテレン) 追放令 朝鮮 (王朝) (再掲) 文禄の役</p>	<p>姫路城 侘び茶 【人物を調べてみよう】 『信長公記』 『日本史』 『当代記』 【江戸幕府の成立と大名統制】 江戸幕府 大阪夏の陣 御家人 (再掲) 征夷大将軍 (再掲) 関ヶ原の戦い 旗本 老中 若年寄 改易 京都所司代 禁中並公家諸法度 参勤交代 親藩 大名 外様大名 幕藩体制 藩 武家諸法度 譜代大名 【身分制度の確立と農村のようす】 えた ひにん 武士 (再掲) 五人組 町人 田畑売買禁止令 本百姓 水呑百姓 村方三役</p>	<p>薩摩藩 島津氏 宗氏 朝鮮通信使 四つの口 琉球 (王国) (再掲) アイヌ (再掲) 蝦夷地 松前氏 【諸産業の発達】 商品作物 新田開発 五街道 西廻り航路 菱垣廻船 東廻り航路 【都市と商業の発達】 江戸 京都 (再掲) 三都 天下の台所 越後屋 株仲間 仲間 藩札 両替商 【江戸のにぎわい】 明暦の大火 「瀬代勝覧」 【元禄時代の人びとのくらし】 かぶき者 元禄時代 儒学 (儒教) (再掲) 生類憐みの令 湯島聖堂 赤穂事件 年中行事</p>	<p>漢訳洋書 享保の改革 公事方御定書 小石川養生所 実学 町火消 蘭学 【ききん・打ちこわしと幕府政治の立てなおし】 運上金 享保の大ききん 冥加金 打ちこわし 寛政の改革 昌平坂学問所 天明の大ききん 百姓一揆 【欧米諸国の接近と対応】 ロシア (帝国) 異国船打払令 フェートン号 モリソン号 【新しい学問と思想】 懐徳堂 『群書類従』 心学 藩校 『解体新書』 『古事記』 (再掲) 『西洋紀聞』 尊王攘夷運動 鳴滝塾 蛮社の獄 『風説書』 『北槎聞略』 『万葉集』 (再掲) 【江戸後期の文化と民衆のくらし】 化政文化 寺子屋 伊勢神宮 狂歌 熊野大社 川柳 『東海道中膝栗毛』 『南総里見八犬伝』 錦絵 落語</p>
<p>近代の日本と世界</p>	<p>【近代をむかえる東アジア】 イスラーム (再掲) 科挙 (再掲) 漢族 清 (再掲) チベット仏教 満州族 (再掲) 遊牧民 (族) (再掲) 華僑 広州 (再掲) 朱子学 (再掲) 朝貢 (再掲) 朝鮮 (王朝) (再掲) ベトナム 両班 琉球 (王国) (再掲) 【アメリカ植民地の発展】 アメリカ植民地 イギリス 植民地 (再掲) 大西洋貿易 (再掲) フランス オスマン帝国 三角貿易 奴隷貿易 プランテーション ロシア (帝国) (再掲) 【アメリカの独立とフランス革命】 アメリカ (合衆国) アメリカ合衆国憲法</p>	<p>【幕末の動乱のはじまり】 安政5年の政変 安政の大獄 王政復古 公議 桜田門外の変 越前藩 公武合体 土佐藩 【江戸時代の終わり】 薩長同盟 大政奉還 長州征討 会津藩 「ええじゃないか」、 王政復古の号令 百姓一揆 (再掲) 戊辰の内乱 【明治維新】 五箇条の誓文 五榜の掲示 東京 明治維新 廃藩置県 版籍奉還 【身分制度の廃止と国民国家】 ロシア (帝国) (再掲) 華族 士族 賤民廃止令 (身分解放令)</p>	<p>【民選議院の主張と士族の反乱】 おっつけペー節 立憲政治 西南戦争 【自由民権運動と国会開設の公約】 愛国社 国会期成同盟 『社会契約論』 集会条例 自由民権運動 府県会 立憲社 五日市憲法草案 自由党 政党 秩父事件 立憲改進黨 【内閣制度と大日本帝国憲法の制定】 大日本帝国憲法 内閣制度 藩閥政府 明治憲法 学校令 貴族院 教育勅語 衆議院 臣民 忠君愛国</p>	<p>【中国の革命と日本】 軍閥 辛亥革命 中華民国 三民主義 中国国民党 中国同盟会 【経済の発展とそのひずみ】 足尾銅山 工場法 財閥 社会運動 社会問題 治安警察法 労働組合 【くらしと家】 小作人 地主 イエ 良妻賢母 【教育と文化の発展】 キリスト教 (再掲) 国家神道 【第一次世界大戦と日本】 サラエボ事件 三国協商 三国同盟 第一次世界大戦 14か条の平和原則 総力戦 二十一か条要求</p>

	<p>独立宣言 (アメリカ) 国民意識 人権宣言 (フランス) フランス革命 【産業革命と近代社会の 幕開け】 産業革命 資本主義 蒸気機関車 義務教育 社会主義 鉄道 【欧米諸国の勢力拡大】 ドイツ 労働運動 大英帝国 帝国主義 南北戦争 ハワイ ロンドン 【欧米諸国のアジア進出】 東インド会社 (再掲) アヘン戦争 インド大反乱 上海 南京条約 香港 【開国直前の日本】 鎖国 (再掲) 天保の大ききん 異国船打払令 (再掲) 株仲間 (再掲) 薩摩藩 (再掲) 尊王攘夷 長州藩 天保の改革 水戸藩 モリソン号 (再掲) 【ペリーの来航と開国】 下田 日米和親条約 函館 開税自主権 咸臨丸 日米修好通商条約 蕃書調所 洋学 領事裁判権</p>	<p>徴兵令 ひにん (再掲) 平民 同和問題 廃刀令 【経済制度の改革】 地租改正 富国強兵 安積疏水 株式会社 銀行 殖産興業 富岡製糸場 日本銀行 郵便 【文明開化と教育の普及】 文明開化 学制 太陽暦 (再掲) 民選議院設立の建白 書 【世界見学に出かけた日 本人】 岩倉使節団 『80日間世界一周』 『米欧回覧実記』 【新しい国際関係】 開国和親の方針 日清修好条規 江華島 征韓論 台湾 日朝修好条規 【領土の確定と北海道・沖 縄】 蝦夷地 (再掲) 開拓使 樺太・千島交換条約 尖閣諸島 竹島 北海道 (再掲) アイヌ (再掲) アイヌ文化振興法 沖縄 (県) (再掲) 札幌農学校 屯田兵 北海道旧土人保護法 琉球藩 和人 (再掲)</p>	<p>【立憲政治の定着と条約 改正】 政党内閣 帝国議会 立憲政友会 立憲政策 条約改正 ノルマントン号事件 鹿鳴館 【近代とむかいあう中国 と朝鮮】 ウラジオストク 太平天国の乱 儒学 (儒教) (再掲) 東学 【日清戦争】 甲午農民戦争 下関条約 大韓帝国 日清戦争 遼東半島 三国干渉 シベリア鉄道 八幡製鉄所 【日露戦争】 義和団運動 日英同盟 日露戦争 大連 日比谷焼き打ち事件 ポーツマス条約 旅順 【日本の植民地統治】 台湾総督府 韓国併合 関東軍 関東都督府 朝鮮総督府 南満州鉄道会社</p>	<p>【ロシア革命】 ソビエト政府 ロシア革命 5か年計画 スターリン体制 ソビエト社会主義共和 国連邦 (ソ連) 【第一次世界大戦後の世界】 国際連盟 シベリア出兵 ニューヨーク ベルサイユ条約 ベルサイユ体制 民族自決の原則 ワシントン会議 パリ不戦条約 ロンドン海軍軍縮会議 ワシントン体制 【民族運動の高まり】 三・一独立運動 朝鮮 五・四運動 山東半島 中国共産党 【大正デモクラシーと政党政 治の発展】 憲政擁護運動 大正デモクラシー 民本主義 米騒動 普通選挙 【社会主義運動とその取り締 まり】 小作争議 青鞞社 全国水平社 労働争議 関東大震災 共産主義 治安維持法 特別高等警察 (特高) 日本共産党 【植民地の動向と国外の日本 人】 在日朝鮮人 霧社事件 ブラジル</p>	<p>【日中戦争と戦時体制】 重慶 南京大虐殺 日中戦争 盧溝橋 国民精神総動員運動 国家総動員法 大政翼賛会 大日本産業報国会 【第二次世界大戦のはじま り】 「ゲルニカ」 人民戦線 空襲 枢軸国 第二次世界大戦 独ソ不可侵条約 日独伊三国同盟、 日独伊防共協定 レジスタンス 連合国 【アジア・太平洋地域の戦争】 日ソ中立条約 フランス領インドシナ アジア太平洋戦争 イギリス領マレー半 島 真珠湾 太平洋戦争 ミッドウェー海戦 【占領地と植民地のうごき】 大東亜共栄圏 皇民化政策 創氏改名 【戦時下の民衆生活】 学徒出陣 町内会 隣組 配給 部落会 闇経済 学童疎開 学徒勤労動員 女子勤労挺身隊 【第二次世界大戦の終結】 沖縄戦 東京大空襲 ノルマンディー 原子爆弾 集団自決 長崎 (再掲) 広島 ポツダム宣言 ヤルタ協定</p>
<p>現代 の 日本 と 世界</p>	<p>【民主化をめざして】 沖縄 (県) (再掲) 連合国軍総司令部 (G HQ) 台湾 (再掲) 朝鮮 (再掲) 極東国際軍事裁判 財閥解体 独占禁止法 農地改革 部落解放運動 部落解放全国委員会 労働基準法 労働組合法 【日本国憲法の制定と教 育の民主化】 基本的人権の尊重 国民主権 参議院 衆議院 (再掲) 戦争の放棄 大日本帝国憲法 (再 掲) 日本国憲法 平和主義</p>	<p>【第二次世界大戦後の 世界】 安全保障理事会 インドシナ戦争 国際連合 常任理事国 ベトナム (再掲) 韓国 (大韓民国) 北大西洋条約機構 (N ATO) 共産主義 (再掲) 中華人民共和国 朝鮮民主主義人民共 和国 (北朝鮮) 冷たい戦争 ドイツ民主共和国 ドイツ連邦共和国 二つの世界 冷戦 ワルシャワ条約機構 【国際社会への復帰】 朝鮮戦争 特需景気 レッドパージ 警察予備隊</p>	<p>【冷戦下の世界】 アメリカ (合衆国) (再 掲) キューバ危機 ソビエト社会主義共 和国連邦 (ソ連) (再 掲) 平和共存 ベトナム戦争 ベルリンの壁 アジア・アフリカ会 議 アラブ人 イスラエル 石油危機 第三世界 中東戦争 パレスチナ (再掲) 文化大革命 ユダヤ人 (再掲) 【高度経済成長とその 後の日本】 イタイタイ病 オリンピック東京大 会</p>	<p>【沖縄の復帰、中国・韓国と の関係】 アメリカ軍基地反対運 動 祖国復帰運動 日韓基本条約 日中国交正常化 日中平和友好条約 日朝首脳会談 【社会主義国の変化と冷戦の 終結】 グラスノスチ 独立国家共同体 (C I S) チェルノブイリ原子力 発電所 ベレストロイカ マルタ会談 冷戦の終結 改革・開放 経済特区 人民公社 天安門事件 東欧革命 四つの現代化</p>	<p>【冷戦後の世界】 アジア太平洋経済協 力 インターネット A P E C (アジア太平 洋経済協力) グローバル化 ユーロ ヨーロッパ共同体 (E C) ヨーロッパ連合 (E U) アフガニスタン イラク イラク戦争 地域紛争 テロ ナショナリズム パレスチナ解放機構 (P L O) ユーゴスラビア 六か国協議 湾岸戦争 【現代の日本】 イラク復興支援特別措 置法</p>

	教育委員会 教育基本法 教育勅語（再掲） 民法	サンフランシスコ平 和条約 自衛隊 日米安全保障条約 日ソ共同宣言 北方領土 【戦後の平和運動】 55年体制 自由民主党（自民党） 砂川事件 日本社会党 安保闘争 原水爆禁止世界大会 第五福竜丸事件 日米新安全保障条約	過疎化 過密化 技術革新 公害 公害病 高度経済成長 社会問題（再掲） 新幹線 テレビ放送 都市問題 マスコミ 水俣病 四日市ぜんそく 環境庁 公害対策基本法 主要先進国首脳会議 （サミット） 貿易摩擦	国連平和維持活動等協 力法（PKO法） テロ対策特別措置法 東日本大震災 民主党 少子高齢化 バブル経済 非営利組織 【今後の課題】 アイヌ（再掲）	
<b>帝 国</b>					
古代 までの 日本	【人類がたどった進化】 猿人 旧石器時代 原人 言葉 打製石器 道具 火 氷河時代 岩宿（遺跡） 新人 新石器時代 土器 磨製石器 【世界各地で生まれる文明】 エジプト文明 王 青銅器 太陰暦 都市 メソポタミア文明 文字 殷 インダス文明 漢字 甲骨文字 太陽暦 中国文明	【東・南アジアの文明の広 がり】 漢 皇帝 儒教 秦 鉄製の農具 インド シルクロード 朝貢（貿易） 仏教 【ヨーロッパで芽生えた 文明】 ギリシャとローマの 文明 ポリス 民主政治 ローマ帝国 アッラー イスラム教 キリスト教 【縄文から弥生への変化】 貝塚 三内丸山遺跡 縄文時代 縄文土器 たて穴住居 土偶 稲作 高床倉庫 鉄器 銅剣 銅鐸 銅矛 ムラ 弥生時代 弥生土器	【ムラがまとまりクニへ】 「魏志」倭人伝 金印 クニ 邪馬台国 吉野ヶ里遺跡 倭（国） 銅鏡 【鉄からみえるヤマト王権】 加羅（伽耶） 百濟 高句麗 豪族 古墳 古墳時代 新羅 前方後円墳 鉄 ヤマト政権 大王 渡来人 【古墳からわかる当時の ようす】 埴輪 【ヤマト王権と仏教伝来】 冠位十二階 階 摂政 蘇我氏 飛鳥文化 遣隋使 十七条の憲法 法隆寺	【律令国家をめざして】 大化の改新 唐 白村江の戦い 律令 労役 郡司 遣唐使 国司 戸籍 壬申の乱 太政官（古代） 大宝律令 大宰府 中央集権（国家） 朝廷 渤海 里長 律令国家 【律令国家での暮らし】 貴族 口分田 奈良 奈良時代 班田収授法 富本銭 平城京 和同開珎 墾田永年私財法 防人 荘園 租 調 奴婢 木簡 庸	【大陸の影響を受けた天平 文化】 正倉院 天平文化 藤原氏 国分寺 国文尼寺 東大寺 『古事記』 『日本書紀』 『風土記』 万葉がな 『万葉集』 【権力をにぎった貴族たち】 蝦夷 征夷大將軍 平安京 平安時代 絵巻物 関白 高麗 摂関政治 宋 【唐風から日本風へ変わる文 化】 かな文字 国风文化 寝殿造 陶磁器 やまと絵 『源氏物語』 『古今和歌集』 真言宗 天台宗 比叡山延暦寺 『枕草子』 密教 阿弥陀仏 浄土信仰
中世 の 日本	【各地で生まれる武士団】 貴族（再掲） 公領 国司（再掲） 荘園（再掲） 荘園領主 年貢（米） 藤原氏（再掲） 蝦夷（再掲） 奥州藤原氏 源氏 棟梁 武士団 武士 平氏 【朝廷と結びつく武士】 院 院政 上皇 太政大臣	【鎌倉を中心とした武家 政権】 鎌倉幕府 御恩 御家人 地頭 守護 領主 征夷大將軍（再掲） 奉公 執権 執権政治 承久の乱 北条氏 律令（再掲） 労役（再掲） 六波羅探題 【武士・僧侶たちが広め た鎌倉文化】	【海をこえてせまる元軍】 火薬 元 大越 朝貢（貿易）（再掲） 博多 文永の役 モンゴル帝国 アイヌの人々 弘安の役 徳政令 蒙古襲来（元寇） 【東アジアに開かれた窓 口 博多】 シルクロード（再掲） 太宰府（再掲） 陶磁器（再掲） 銅銭 【南北朝の内乱と新たな 幕府】	【琉球とアイヌの人々がつな ぐ交易】 香辛料 首里（城） 尚氏 ポルトガル 琉球（王国） アイヌ文化 蝦夷地 オホーツク文化 擦文文化 十三湊 【技術の発達とさまざまな職 業】 職人 二毛作 河原者 酒屋 車借 定期市	【団結して自立する民衆】 一揆 一向一揆 国一揆 土一揆 祇園祭 座 惣（惣村） 町衆 寄合 【全国に広がる下剋上】 応仁の乱 下剋上 戦国大名 山名氏 石見銀山 城下町 城 戦国時代 分国法

	<p>朝廷(再掲) 平治の乱 保元の乱 厳島神社 大輪田泊 源平の争乱 神戸 高麗(再掲) 御成敗式目(貞永式目) 宋(再掲) 日宋貿易</p>	<p>絵巻物(再掲) 京都 軍記物 金剛力士像 『新古今和歌集』 東大寺(再掲) 東大寺南大門 奈良(再掲) 『平家物語』 『方丈記』 文字(再掲) 浄土宗 浄土信仰(再掲) 浄土真宗(一向宗) 禅宗 『徒然草』 比叡山延暦寺(再掲) 仏教(再掲) おどり念仏 時宗 真言宗(再掲) 天台宗(再掲) 日蓮宗</p>	<p>悪党 公家 建武の新政 関所 北朝 足利氏 管領 守護大名 南朝 南北朝時代 南北朝の内乱 室町幕府 【東アジアの交易と倭寇】 勘合貿易 皇帝(再掲) 日明貿易 明 倭寇 生糸 堺 宗氏 朝鮮 対馬 細川氏 木綿</p>	<p>問(問丸) 土倉 都市(再掲) 馬借</p>	<p>【はなやかさと素朴さが織りなす芸術】 金閣 銀閣 【庶民に広がる室町文化】 北山文化 狂言 猿楽 寝殿造(再掲) 田楽 能 書院造 生け花 水墨画 茶の湯 東山文化 龍安寺 連歌 お伽草子 「けがれ」</p>
近世の日本	<p>【イスラムの拡大とヨーロッパ】 イスラム教(再掲) イスラム商人 カトリック教会 キリスト教(再掲) 十字軍 ローマ教皇 イエズス会 イタリア 活版印刷(術) 火薬(再掲) 宗教改革 プロテスタント ルネサンス 【大航海時代の幕開け】 インド(再掲) 香辛料(再掲) スペイン ポルトガル(再掲) オランダ 植民地 大航海時代 【東アジアの貿易と南蛮人】 生糸(再掲) 銀 堺(再掲) 種子島 鉄砲 陶磁器(再掲) 長崎 南蛮人 南蛮貿易 明(再掲) 倭寇(再掲) 石見銀山(再掲) 京都(再掲) キリシタン 宣教師 戦国大名(再掲) 天正遣欧少年使節</p>	<p>【信長・秀吉による全国統一】 一向一揆(再掲) 桶狭間の戦い 長篠の戦い 比叡山延暦寺(再掲) 室町幕府(再掲) 安土城 応仁の乱(再掲) 大阪城 関白(再掲) 座(再掲) 関所(再掲) 戦国時代(再掲) 朝廷(再掲) 北条氏(再掲) 本能寺の変 楽市・楽座 【秀吉が導いた近世社会】 刀狩 公家(再掲) 検地 石高 荘園(再掲) 太閤検地 年貢(米)(再掲) 百姓 武士(再掲) 兵農分離 豪商 台湾 朝鮮(再掲) 平戸 【豪華絢爛富があふれた戦乱の世】 姫路城 【戦国大名と豪商が担った安土桃山文化】 博多(再掲) 茶の湯(再掲) 安土桃山文化 茶道 南蛮文化 伏見城 歌舞伎踊り 三味線 浄瑠璃 人形浄瑠璃 木綿(再掲)</p>	<p>【幕藩体制の始まり】 江戸 江戸時代 江戸幕府 大阪 大阪の陣 御家人(再掲) 征夷大将軍(再掲) 関ヶ原の戦い 奈良(再掲) 幕領 旗本 御手伝普請 参勤交代 親藩 大名 外様大名 幕藩体制 藩 武家諸法度 譜代大名 【朱印船貿易から貿易統制へ】 イギリス 朱印状 朱印船貿易 城下町(再掲) 宗氏(再掲) 対馬(再掲) 日本町 絵踏 戸籍(再掲) 島原・天草一揆 宗門改め 【四つにしばられた貿易の窓口】 薩摩(藩) 松前(藩) 四つの窓口 オランダ風説書 清 朝鮮通信使 出島</p>	<p>【琉球王国とアイヌの人々への支配】 朝貢(貿易)(再掲) 琉球(王国)(再掲) アイヌの人々(再掲) 蝦夷地(再掲) 【琉球とアイヌの人々の暮らし】 蝦夷錦 ユカラ 【身分制社会での暮らし】 町人 名主 「家制度」 えた(身分) 「けがれ」(再掲) 五人組 儒学 朱子学 生類憐みの令 ひにん(身分) 文治政治 【安定する社会と諸産業の発達】 新田開発 千歯こき 備中鉾 干鯛 特産物 土佐(藩) 【各地を結ぶ陸の道・海の道】 五街道 三都 宿場 樽廻船 都市(再掲) 西廻り航路 菱垣廻船 東回り航路 株仲間 上方 蔵屋敷 【昆布ロードと北前船】 俵物</p>	<p>【上方で栄えた町人の元禄文化】 歌舞伎 元禄文化 俳諧 浮世絵 年中行事 やまと絵(再掲) 和算 【貨幣経済の広まり】 打ちこわし 享保の改革 公事方御定書 藍 小作人 地主 商品作物 問屋制家内工業 紅花 綿織物 【くり返される要求と改革】 百姓一揆 寛政の改革 天明のききん 【江戸の庶民が担った化政文化】 化政文化 狂歌 川柳 錦絵 『解体新書』 国学 『古事記伝』 儒教(再掲) 尊皇攘夷 仏教(再掲) 蘭学 寺子屋 藩校 文字(再掲)</p>
近代の日	<p>【市民革命の始まり】 イギリス(再掲) 議会 共和政 近代化</p>	<p>【黒船来航の衝撃と開国】 浦賀 関税自主権 狂歌(再掲) 神戸(再掲)</p>	<p>【沖縄・北海道と近代化の波】 沖縄県 尖閣諸島 台湾(再掲)</p>	<p>【近代日本を支えた糸と鉄】 軽工業 重工業 八幡製鉄所 筑豊炭田</p>	<p>【世界恐慌と行きつまる日本】 世界恐慌 金融恐慌 昭和恐慌</p>

本と世界	<p>市民社会 ピューリタン革命 プロテスタント(再掲) アメリカ(合衆国) アメリカ独立戦争 オランダ(再掲) 権利の章典 市民革命 植民地(再掲) 独立宣言(アメリカ) フランス 名誉革命 立憲君主政 【人権思想からフランス革命へ】 基本的人権 皇帝(再掲) 人権宣言 フランス革命 【産業革命と資本主義の成立】 産業革命 資本主義 蒸気機関 綿織物(再掲) 工業化 社会主義 労働組合 【世界進出をめざす欧米諸国】 近代国家 「国民」 ドイツ 南北戦争 ロシア インド(再掲) インド大反乱 「世界の工場」 【日本を取りまく世界情勢の変化】 異国船打払令 蝦夷地(再掲) 三角貿易 清(再掲) 朝貢(貿易)(再掲) 幕領(再掲) アヘン戦争 開国 長州(藩) 南京条約 香港 銀(再掲) 【諸藩の改革と幕府の衰退】 工場制手工業 佐賀藩 薩摩(藩)(再掲) 陶磁器(再掲) 年貢(米)(再掲) 打ちこわし(再掲) えた(身分)(再掲) 大阪(再掲) 大塩平八郎 株仲間(再掲) 渋染一揆 天保の改革 天保のききん 水戸藩</p>	<p>大名(再掲) 朝廷(再掲) 長崎(再掲) 日米修好通商条約 日米和親条約 横浜 領事裁判権 安政の大獄 生糸(再掲) 桜田門外の変 尊皇攘夷(再掲) 武士(再掲) 【江戸幕府の滅亡】 公武合体 薩英戦争 薩長同盟 土佐(藩)(再掲) 生麦事件 「ええじゃないか」 王政復古の大号令 公家(再掲) 大政奉還 戊辰戦争 「世直し」 【新政府による改革】 「解放令」 華族 「御一新」 五箇条の御誓文 太政官制(近世) 中央集権(国家)(再掲) 東京 明治維新 皇族 士族 廃藩置県 藩(再掲) 版籍奉還 藩閥(藩閥政治) 百姓(再掲) 平民 【富国強兵をめざして】 学制 官営工場 殖産興業 地租改正 徴兵(令) 富国強兵 地券 【人々からみた富国強兵と文明開化】 就学率 太陰暦(再掲) 太陽暦(再掲) 文明開化 キリスト教(再掲) 中華民国 【新たな外交と国境の画定】 岩倉使節団 条約改正 日清修好条規 不平等条約 権太・千島交換条約 江華島事件 征韓論 竹島 朝鮮(再掲) 日朝修好条規 琉球(王国)(再掲)</p>	<p>アイヌの人々(再掲) 屯田兵 北海道 北海道旧土人保護法 【自由と民権を求めて】 豪農 国会期成同盟 自由民権運動 西南戦争 民選議院設立建白書 立志社 五日市憲法 困民党 自由党 政党 秩父事件 立憲改進黨 【帝国憲法の成果と課題】 教育勅語 大日本帝国憲法 帝国議院 内閣制度 「家制度」(再掲) 貴族院 地主(再掲) 衆議院 民法 【アジアの列強をめざして】 欧化政策 シベリア鉄道 帝国主義 列強 甲申事変 「脱亜論」 【朝鮮をめぐる対立日清戦争】 甲午農民戦争 下関条約 日清戦争 広島 遼東半島 三国干渉 大韓帝国(韓国) 立憲国民党 旅順 【世界が目撃した日露戦争】 義和団事件 日英戦争 日露戦争 「満州」 日比谷焼き打ち事件 ポーツマス条約 【ぬりかえられたアジアの地図】 韓国併合 朝鮮総督 小作人(再掲) 三民主義 辛亥革命 南満州鉄道(株式会社)</p>	<p>財閥 【変わる都市と農村】 養蚕 足尾鉍毒事件 公害 大逆事件 【欧米の影響を受けた近代文化】 義務教育 衛生 国歌 国旗 【第一次世界大戦の始まりと総力戦】 イタリア(再掲) オーストリア 三国協商 三国同盟 「ヨーロッパの火薬庫」 サラエボ事件 総力戦 第一次世界大戦 【第一次世界大戦の拡大と日本】 二十一か条の要求 シベリア出兵 ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連) 民族自決 ロシア革命 【第一次世界大戦後の欧米諸国】 ベルサイユ条約 国際連盟 ワイマール憲法 【アジアの民族自決と国際協調】 五・四運動 三・一独立運動 中国共産党 中国国民党(国民政府) ワシントン会議 【護憲運動と政党内閣の成立】 護憲運動 民本主義 米騒動 政党内閣 成金 【社会運動の高まりと普通選挙の実現】 社会運動 青鞥社 大正デモクラシー 男子普通選挙 治安維持法 小作争議 全国水平社 都市(再掲) 北海道アイヌ協会 労働争議 【近代都市が生み出した大衆文化】 サラリーマン 大衆文化 関東大震災 ラジオ放送 ユカラ(再掲)</p>	<p>【欧米諸国が選択した道】 ニューディール政策 ブロック経済 「五か年計画」 ナチ党 ファシスト党 ファシズム 【強まる軍部とおとろえる政党】 「満州国」 満州事変 五・一五事件 二・二六事件 【戦争につき進む日本】 抗日民族統一戦線 南京事件 日中戦争 盧溝橋 国家総動員法 大政翼賛会 【長野県から見る「満州」移民】 満蒙開拓団 【第二次世界大戦への道】 第二次世界大戦 東京オリンピック 独ソ不可侵条約 大西洋憲章 日独伊三国同盟 日ソ中立条約 レジスタンス 【太平洋戦争と植民地支配の変化】 インドネシア 「大東亜共栄圏」 太平洋戦争 皇民化政策 創氏改名 【戦局の悪化と戦時下の暮らし】 沖繩戦 学童疎開 学徒出陣 勤労動員 空襲 東京大空襲 ミッドウェー海戦 ポツダム宣言 マス＝メディア 【戦場となった沖繩】 首里(城)(再掲) 【ポツダム宣言と日本の敗戦】 原子爆弾(原爆)</p>
現代の日本と	<p>【敗戦からの出発】 極東国際軍事裁判 空襲(再掲) 連合国軍総司令部(GHQ) インド(再掲) インドネシア(再掲)</p>	<p>【冷たい戦争とその影響】 アメリカ(合衆国)(再掲) 核戦争 核兵器 原水爆禁止運動 国際連合(国連)</p>	<p>【日本の独立と世界の動き】 サンフランシスコ平和条約 日米安全保障条約(安保条約) 日ソ共同宣言</p>	<p>【経済成長による日本の変化】 公害(再掲) 高度経済成長 東京オリンピック(再掲) 水俣病 イタイイタイ病</p>	<p>【グローバル化が進む世界】 アイヌの人々(再掲) アイヌ文化振興法 グローバル化 北海道アイヌ協会(再掲) マルタ会談</p>

世界	シベリア抑留 植民地(再掲) ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)(再掲) 中国残留日本人孤児 北方領土 「満州」(再掲) 【新時代に求められた憲法】 小作人(再掲) 財閥(再掲) 財閥解体 自作農 地主(再掲) 政党(再掲) 大日本帝国憲法(再掲) 治安維持法(再掲) 日本社会党 農地改革 普通選挙 労働組合(再掲) 基本的人権(再掲) 義務教育(再掲) 教育基本法 教育勅語(再掲) 国民主義 地方自治法 日本国憲法 平和主義 民法(再掲)	資本主義(再掲) 社会主義(再掲) 第二次世界大戦(再掲) 冷たい戦争(冷戦) 「鉄のカーテン」 ドイツ(再掲) ベルリンの壁 警察予備隊 自衛隊 水爆 大韓民国(韓国) 第五福竜丸 台湾(再掲) 中国共産党(再掲) 中国国民党(国民政府)(再掲) 朝鮮戦争 朝鮮(再掲) 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)	アジア・アフリカ会議 安保闘争 55年体制 在日韓国・朝鮮人 自由民主党 【日本の領土と近隣諸国】 ポツダム宣言(再掲) 尖閣諸島(再掲) 竹島(再掲) 【冷戦下での日本とアジア】 沖縄の復帰 ベトナム ベトナム戦争 沖縄県(再掲) 日露基本条約 日中共同声明 日中平和友好条約 非核三原則	公害対策基本法 石油危機 先進国首脳会議(サミット) 新潟水俣病 貿易摩擦 四日市ぜんそく 【大衆化・多様化する戦後の文化】 『三種の神器』 男女雇用機会均等法 「文化の大衆化」 マス=メディア(再掲) ラジオ放送(再掲) 大阪万国博覧会	北海道旧土人保護法(再掲) 冷戦の終結 ロシア(再掲) イラク戦争 国連平和維持活動(PKO) テロ 同時多発テロ ヨーロッパ連合(EU) 湾岸戦争 【激変する日本とアジア】 政権交代 バブル経済 連立政権 エルトゥールル号 「世界の工場」(再掲) 香港(再掲) 拉致問題 【国際社会におけるこれからの日本】 地球温暖化 東日本大震災 政府開発援助(ODA) 非政府組織(NGO)
日 文					
古代までの日本	【「古代までの日本」の特色を探っていこう】 猿人 【人類の広がり】 原人 新人 【人類の誕生】 アウストラロピテクス 打製石器 直立二足歩行 北京原人 旧石器時代 新石器時代 磨製石器 【世界の古代文明】 中国文明 インダス文明 メソポタミア文明 エジプト文明 王 くさび形文字 象形文字 鉄器 ローマ帝国 【東アジアに広がる中国の文明】 殷 青銅器 甲骨文字 奴隸 秦 漢 シルクロード 高句麗 漢字 儒教(儒学) 万里の長城 仏教	【宗教のおこり】 キリスト教 イスラム教 【日本人のルーツと縄文時代】 野尻湖 岩宿(遺跡) 貝塚 竪穴住居 縄文(時代、土器) 【稲作の広まりと弥生時代】 石包丁 稲作 高床倉庫 銅鐸 弥生(時代、土器) 倭(人) 魏 邪馬台国 金印 吉野ヶ里遺跡	【ヤマト王権と渡来人】 前方後円墳 古墳(時代) 大王 ヤマト王権 稲荷山古墳出土の鉄剣 大仙古墳 百濟 新羅 伽耶(加羅、任那) 渡来人 須恵器 埴輪 【東アジアの統一国家】 戸籍 隋 唐 律令(国家、政治) 長安 【聖徳太子と飛鳥文化】 蘇我氏 冠位十二階 十七条の憲法 遣隋使 飛鳥時代(文化) 法隆寺 【律令国家をめざして】 遣唐使 難波宮 公地公民 大化の改新 防人 藤原京 長岡京 壬申の乱 大宝律令 天皇 日本 木簡	【奈良の都と律令制下のくらし】 奈良時代 平城京 源氏皇族 貴族 国司 郡司 大宰府 朝廷 口分田 班田収授 租・調・庸 賤 奴婢 墾田永年私財法 荘園(制)) 富本銭 和同開珎 【国際色豊かな文化】 天平文化 正倉院 国分(尼)寺 万葉集(万葉がな) 古事記 日本書紀 風土記 東大寺(金剛力士像、大仏、南大門) 神話 【平安京】 蝦夷 藤原氏 平安(京、時代) 高野山金剛峯寺 浄土信仰 真言宗 征夷大將軍 天台宗 比叡山延暦寺 平等院鳳凰堂 末法思想	【撰閣政治と国風文化】 撰閣政治 かたかな かな文字 源氏物語 古今和歌集 国風文化 寝殿造 束帯 女房装束 ひらがな 枕草子 大和絵 【武士の登場】 武士(団) 源氏 平氏 棟梁 奥州藤原氏 平泉 郎党 下人 中尊寺金色堂
中世の	【13世紀の日本と世界】 元(寇) 【院と平氏の政治】 上皇	【武家政治の始まり】 御家人 守護(大名) 地頭	【鎌倉時代の文化と仏教】 仏教(再掲) 軍記物語 新古今和歌集	【南北朝の内乱と室町幕府】 建武の新政 南北朝時代 室町(時代、幕府)	【応仁の乱と戦国大名】 応仁の乱 下剋上 戦国時代

日本	院政 荘官 僧兵 藤原氏 (再掲) 源氏 (再掲) 平氏 (再掲) 荘園 (制) (再掲) 保元の乱 平治の乱 日宋貿易 宋 (の文化) 禅宗 朱子学 高麗 平家物語 儒教 (儒学) (再掲)	鎌倉 (幕府、時代) 御恩 武士 (団) (再掲) 征夷大將軍 (再掲) 奥州藤原氏 (再掲) 奉公 北条氏 執権 承久の乱 六波羅探題 下人 (再掲) 御成敗式目 問注所 政所 侍所 郎党 (再掲) 【鎌倉時代の人々の暮らし】 荘園領主 二毛作 商品作物 定期市 公家 武家 年貢	徒然草 一向宗 ききん 浄土宗 浄土真宗 日蓮宗 東大寺 (金剛力士像、大仏、南大門) (再掲) 【元の襲来と鎌倉幕府】 モンゴル帝国 文永の役 弘安の役 徳政令 悪党 【古代から中世への土地制度の移り変わり】 口分田 (再掲) 墾田永年私財法 (再掲) 名主	建武式目 【東アジアとの交流】 倭寇 勘合貿易 明 朝鮮 ハンブル 琉球 (王国、使節、処分) アイヌ (民族) 蝦夷地 【産業の発展と都市と村】 座 土倉 問 (問丸) 馬借 関所 惣 車借 正長の土一揆 土一揆	足輕 山城国一揆 一向一揆 町衆 戦国大名 城下町 分国法 【室町時代の文化とその広がり】 生け花 河原者 金閣・銀閣 書院造 水墨画 茶の湯 お伽草子 狂言 田楽・猿楽 能 (能楽) 連歌 【文化の広がり・今に続く年中行事】 祇園祭
近世の日本	【イスラム教の世界とキリスト教の世界】 イスラム (教、帝国) (再掲) イエズス会 カトリック (教徒・教会) キリスト教 (再掲) 宗教改革 十字軍 プロテスタント ルネサンス ローマ教皇 【つながれてゆく世界】 植民地 (世界) (黒人) 奴隷 【ヨーロッパ人の来航と信長】 鉄砲 桶狭間の戦い 石山本願寺 安土城 楽市・楽座令 比叡山延暦寺 (再掲) 一向一揆 (再掲) 一向宗 (再掲) 天正少年使節 室町 (時代・幕府) (再掲)	【全国統一と近世社会の基礎づくり】 安土桃山時代 太閤検地 百姓 刀狩 兵農分離 町人 年貢 (再掲) 武士 (団) (再掲) 公家 (再掲) 荘園領主 (再掲) 【秀吉の海外政策】 南蛮 (人、船、貿易) 南蛮文化 倭寇 (再掲) 明 (再掲) 朝鮮侵略 朝鮮 (再掲) 【安土桃山時代の文化】 桃山文化 歌舞伎 三味線 浄瑠璃 町衆 (再掲) 書院造 (再掲) 茶の湯 (再掲) 琉球 (王国、使節、処分) (再掲) 【城下町姫路を調べる】 城下町 (再掲)	【全国支配のしくみ】 豊臣氏 関ヶ原の戦い 江戸 (時代、幕府) 徳川氏 征夷大將軍 (再掲) 大名 幕藩体制 旗本 武家諸法度 御家人 (再掲) 【朱印船貿易から鎖国へ】 朱印船貿易 日本町 島原・天草の一揆 宗門改帳 鎖国 出島 絵踏 踏絵	【隣接地域との関係】 薩摩藩 朝鮮通信使 蝦夷地 (再掲) アイヌ (民族) (再掲) 【江戸時代の百姓と町人】 本百姓 庄屋 (名主) 村役人 五人組 町役人 「えた」「ひにん」 【産業の発達と都市】 新田開発 五街道 大阪 菱垣廻船 蔵屋敷 上方 関所 (再掲) 【江戸時代前期の文化と学問】 浮世絵 浮世草子 元禄文化 人形浄瑠璃 俳諧 朱子学 (再掲) 藩 藩校	【幕府政治の改革】 打ちこわし ききん (再掲) 享保の改革 公事方御定書 儒教 (儒学) (再掲) 株仲間 寛政の改革 百姓一揆 【農村の変化と民衆の動き】 小作人 地主 問屋制家内工業 工場制手工業 商品作物 (再掲) 【江戸時代後期の学問と文化】 化政文化 狂歌 川柳 寺子屋 国学 蘭学 解体新書 古事記 (再掲)
近代の日本と世界	【19世紀後半の日本と世界】 太平天国 (の乱) 【議会の成立と産業革命】 議会政治 権利の章典 内閣 (制度) 工場制機械工業 産業革命 植民地 (世界) (再掲) 東インド会社 【アメリカの独立とフランス革命】 独立宣言 (戦争) アメリカ合衆国 市民革命 人権宣言 フランス革命 (人権宣言) 【産業革命の影響とアメリカ合衆国の発展】 資本家 資本主義	【江戸幕府の滅亡】 尊皇攘夷運動 安政の大獄 薩長同盟 世直し 長州出兵 大政奉還 王政復古の大号令 戊辰戦争 「ええじゃないか」 江戸 (時代、幕府) (再掲) 【新しい世の中をめざした人々】 【明治維新】 キリスト教 (再掲) 五箇条の御誓文 版籍奉還 廃藩置県 五榜の揭示 明治維新 「解放令」	【領土の画定と隣接地域】 日朝修好条規 樺太・千島交換条約 小笠原諸島 岩倉使節団 江華島 (事件) 日清修好条規 朝鮮 (再掲) 開縄 (県) 沖繩使 屯田兵 蝦夷地 (再掲) アイヌ (民族) (再掲) 尖閣諸島 竹島 【近代社会に日本を見つけた人々】 法隆寺 (再掲) 【土族の反乱と自由民権運動】 征韓論 西南戦争 民選議院設立建白書	【朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立】 義和団事件 日英同盟 日露戦争 ポーツマス条約 日比谷焼き打ち事件 南満州鉄道株式会社 (満鉄) 関東軍 【日本の朝鮮支配と中国の近代化】 韓国併合 朝鮮総督府 統監府 三民主義 中華民國 辛亥革命 軍閥 【資本主義の発展と社会問題】 八幡製鉄所 財閥 (解体) 小作人 (再掲)	【社会運動の広がり】 共産党 (日本) 小作争議 地主 (再掲) 日本農民組合 日本労働総同盟 無産政党 労働争議 在日本朝鮮労働総同盟 新婦人協会 全国水平社 治安維持法 北海道アイヌ協会 【都市化の進展と大衆文化】 ラジオ (放送) 関東大震災 【世界恐慌と各国の対応】 世界恐慌 ナチ党 ユダヤ (人、民族) ファシスト党 ファシズム ニューディール政策

	<p>社会主義 (国) 労働運動 労働組合 (法)  (黒人) 奴隷 (再掲) 南北戦争 【ヨーロッパ諸国の侵略 と抵抗するアジア】 ヒンドゥー教 ムガル帝国 インド大反乱 清 アヘン戦争 南京条約 関税自主権 治外法権 【ゆらぐ幕府の支配】 異国船打払令 大塩の乱 ききん (再掲) 百姓一揆 (再掲) 打ちこわし (再掲) 天保の改革 専売制 長州藩 株仲間 (再掲) 薩摩藩 (再掲) 琉球 (王国、使節、 処分) (再掲) 【開国】 日米和親条約 鎖国 (再掲) 日米修好通商条約</p>	<p>華族 士族 平民 四民平等 部落 (差別・問題) 皇族 (再掲) 公家 (再掲) 「えた」「ひにん」 (再 掲) 武士 (再掲) 【殖産興業と富国強兵】 地租改正 地租改正反対一揆 年貢 (再掲) 富国強兵 官営模範工場 殖産興業 徴兵令 【文明開化の展開】 学制 文明開化 太陽暦</p>	<p>立志社 自由民権運動 国会期成同盟 【憲法をめぐる対立と運 動の激化】 五日市憲法草案 自由党 立憲改進黨 秩父事件 政党 (政治、内閣) 【内閣制度と大日本帝国 憲法】 枢密院 大日本帝国憲法 天皇 (再掲) 教育勅語 貴族院 衆議院 帝国議會 【帝国議會と条約改正】 藩閥政府 藩閥改正 鹿鳴館 民法 ノルマントン号事 件 【朝鮮をめぐる日本と清 の対立】 帝国主義 東学 甲午農民戦争 日清戦争 下関条約 三国干渉 植民地 (日本)</p>	<p>足尾銅毒事件 足尾銅山 【社会運動の発展と近代文化 の形成】 大逆事件 青鞞社 【第一次世界大戦】 三国協商 三国同盟 第一次世界大戦 総力戦 ソビエト社会主義共和 国連邦 (ソ連) ロシア革命 【日本の参戦と大戦景気】 二十一か条の要求 「米騒動」 シベリア出兵 成金 【大戦後の世界とアジアの民 族運動】 ベルサイユ条約 民族自決 国際連盟 (脱退) ワシントン会議 共産党 (中国) 五・四運動 三・一独立運動 海軍軍縮条約 【政党政治の発展】 護憲運動 立憲政友会 憲政会 大正デモクラシー 不戦条約 普通選挙 (外国) 普通選挙 (日本) ワイマール憲法</p>	<p>ブロック経済政策 【日本の進路を変えた満州 事変】 満州事変 「満州国」 五・一五事件 二・二六事件 【日中全面戦争と戦時体制】 日中戦争 南京事件 国家総動員法 大政翼賛会 「創氏改名」 【第二次世界大戦の始まり】 第二次世界大戦 「大西洋憲章」 日独伊三国同盟 【アジア・太平洋での戦争】 日ソ中立条約 太平洋戦争 【戦時下の国民の生活】 空襲 学童疎開 沖縄戦 【平和へのあゆみと戦争の 傷あと】 ヤルタ会談 ポツダム宣言 原子爆弾 原爆ドーム</p>
現代の日本と世界	<p>【「現代の日本と世界」 の特色を探っていこ う】 青空教室 オリンピック東京大 会 【第二次世界大戦後の世界】 植民地 (世界) (再掲) アジア・アフリカ 会議 【第二次世界大戦後の世界と日本】 国際連合 (国連) 安全保障理事会 連合国軍総司令部 (G HQ) 沖縄 (県) (再掲) 小笠原諸島 (再掲) 極東国際軍事裁判 普通選挙 (日本) (再 掲) 労働基準法 日本社会党 (社会党) 部落解放全国委員会 治安維持法 (再掲) 共産党 (日本) (再掲) 労働組合 (法) (再掲) 全国水平社 (再掲) 北海道アイヌ協会 (再 掲)</p>	<p>【平和国家をめざして】 日本国憲法 大日本帝国憲法 (再 掲) 天皇 (再掲) 衆議院 (再掲) 教育基本法 財閥 (解体) (再掲) 農地改革 民法 (再掲) 地主 (再掲) 小作人 (再掲) 【冷たい戦争と世界の動き】 北大西洋条約機構 (N ATO) ドイツ連邦共和国 ドイツ民主共和国 ワルシャワ条約機構 冷たい戦争 (冷戦) 共産党 (中国) (再掲) ベルリンの壁 中華人民共和国 大韓民国 (韓国) 朝鮮民主主義人民共 和国 (北朝鮮) 朝鮮戦争 水爆実験 原水爆禁止世界大会 原爆ドーム (再掲) 植民地 (日本) (再掲)</p>	<p>【国際社会への復帰】 警察予備隊 自衛隊 サンフランシスコ平 和条約 日米安全保障条約 (日 米安保条約) アメリカ軍基地 ポーツマス条約 (再掲) ソビエト社会主義共 和国連邦 (ソ連) (再 掲) 日ソ共同宣言 北方領土 【高度経済成長】 高度経済成長 公害 (問題) 公害対策基本法 環境庁 (省) 新潟水俣病 四日市ぜんそく イタイイタイ病 水俣病</p>	<p>【日本をとりまく国際関係】 政党 (政治、内閣) (再 掲) 5 5 年体制 自由民主党 (自民党) 日韓基本条約 尖閣諸島 (再掲) 竹島 (再掲) 非核三原則 日中共同声明 日中平和友好条約 【多極化する世界と日本】 ベトナム戦争 ヨーロッパ共同体 (E C) アフガニスタン侵攻 ドイツ統一 ロシア連邦 ヨーロッパ連合 (E U) 主要先進国首脳会議 (サ ミット) イラク戦争</p>	<p>【先進国日本の課題】 石油危機 バブル経済 イスラエル 中東戦争 阪神・淡路大震災 東日本大震災 【21世紀と日本の役割】 同和对策審議会答申 部落 (差別・問題) (再 掲) 【アイヌと沖縄の近代と現 代】 アイヌ (民族) (再掲) 【公害克服の歴史を調べる】 八幡製鉄所 (再掲)</p>
自由社					
古代までの日本	<p>【古代までの日本】 長安 唐 奈良時代 平城京 【日本人はどこから来た か】 猿人</p>	<p>【宗教のおこり】 アニミズム 自然崇拜 神話 パレスチナ ヘブライ人 ユダヤ人 インド</p>	<p>【神話が語る国の始まり】 天照大神 イザナキ イザナミ 国生み 古事記 高天原 日本書紀</p>	<p>【「日本」という国名のおこ り】 飛鳥浄御原令 ジパング 【大宝律令と平城京】 大宝律令 富本銭 和同開珎</p>	<p>【平安文化】 延暦寺 高野山 国風文化 十二単 真言宗 寝殿造 天台宗</p>

<p>新人 ホモ・サピエンス 考古学 打製石器 磨製石器 氷河時代 岩宿遺跡 旧石器時代 【岩宿遺跡を発見した相澤忠洋】 縄文土器 縄文文化 【自然の恵みと縄文文化】 貝塚 土器 竪穴住居 三内丸山遺跡 縄文海進 土偶 稲作 【「和の文明」縄文】 彩漆土器 高床式倉庫 農耕 【文明の発生】 金属器(青銅器・鉄器) 新石器時代 暦 青銅器 鉄器 バビロニア ピラミッド メソポタミア文明 黄河 長江 文明 殷 周 秦 漢 漢字 国家 儒教 甲骨文字 シルクロード 万里の長城 身分制度</p>	<p>金剛峯寺 仏陀(釈迦) 一神教 多神教 唯一神 三大宗教 イスラム教 キリスト教 コーラン 聖書 仏教 ユダヤ教 【稲作の広まりと弥生文化】 水田稲作 銅鏡 銅剣 銅鐸 銅矛 ムラ 王 環濠集落 クニ 弥生時代 弥生土器 弥生文化 吉野ヶ里遺跡 【中国の歴史書が語る古代の日本】 魏 魏志倭人伝 金印 呉 蜀 邪馬台国 倭 倭人 冊封 三国志 中華思想 朝貢 倭国 華夷秩序 【大和朝廷と古墳の広まり】 百濟 高句麗 古墳 古墳時代 新羅 大和朝廷 豪族 大王 前方後円墳 仁徳天皇陵(大山古墳) 埴輪 南北朝時代(中国) 皇統譜 天皇</p>	<p>出雲神話 オオクニヌシ(大国主神) 国譲り 天孫降臨 八咫鳥 【国譲り神話と古代人】 出雲大社 【東アジアの国々と大和朝廷】 広開土王 宋 任那(加羅) 倭の五王 稲荷山古墳 【仏教伝来】 上座部仏教 蘇我氏 大乘仏教 仏教伝来 物部氏 須恵器 渡来人 【聖徳太子の新しい政治】 遣隋使 隋 撰政 冠位十二階 十七条の憲法 【遣隋使と天皇号の始まり】 飛鳥時代 朝廷 法隆寺 律令国家 【大化の改新】 科挙 遣唐使 戸籍 兵役 公地公民 大化の改新 年号(元号) 藤原氏 皇族 【律令国家への道】 防人 太宰府 白村江の戦い 国号 壬申の乱 日本 藤原京 律令 律令制度</p>	<p>貨幣 貴族 口分田 租・調・庸 雑徭 班田収授法 【記紀の編纂と大仏造立】 郡司 国司 国府 風土記 里長 駅 国分寺 国分尼寺 墾田永年私財法 大仏造立 東大寺 【飛鳥・天平の文化】 飛鳥文化 百濟観音像 釈迦三尊像 阿修羅像 四天王像 正倉院 天平文化 唐招提寺 日光・月光菩薩像 万葉集 【平安京と摂関政治】 蝦夷 京都 健甕制 征夷大將軍 東京 平安京 平安時代 関白 荘園 摂関政治</p>	<p>比叡山 平安文化 大和絵 阿弥陀仏 奥州藤原氏 仮名文字 源氏物語 古今和歌集 浄土教 竹取物語 他力本願 中尊寺金色堂 平等院鳳凰堂 枕草子 末法思想 【仏像の見方】 天 如来 仏像 菩薩 明王 【仮名文字と女流文学】 女流文学 ヤマト言葉 日記文学 【武士の頭領と院政】 武士 源氏 後三年合戦 平氏 院政 上皇 法皇 【日本の天皇と中国の皇帝】 易姓革命 【1000字用語解説】 崩御</p>	
<p>中世の日本</p>	<p>【中世の日本】 石罫 蒙古 【平氏の繁栄と滅亡】 上皇(再掲) 太政大臣 藤原氏(再掲) 平治の乱 保元の乱 院政(再掲) 源平合戦 荘園(再掲) 宋(再掲) 壇ノ浦 唐(再掲) 日宋貿易 平家物語 【鎌倉幕府の武家政治】</p>	<p>【武士のおこりと鎌倉幕府】 公地公民(再掲) 国司(再掲) 武士(再掲) 平氏(再掲) 平安時代(再掲) 時宗 【元寇】 神風 元 弘安の役 皇帝(再掲) 高麗 対馬 文永の役 モンゴル帝国 貨幣(再掲)</p>	<p>【室町幕府と守護大名】 管領 公領 戦国時代 室町時代 守護大名 室町幕府 冊封(再掲) 金印(再掲) 戦国大名 日本国王 明 【日明貿易と朝鮮・琉球】 勘合貿易 遣明船 朝鮮 日明貿易 倭寇</p>	<p>【中世の都市と農村の変化】 市 座 酒屋 定期市 問丸 土倉 二毛作 馬借 堺 自治都市 関所 惣(惣村) 土一揆 年貢(または年貢米) 町衆 名主 寄合</p>	<p>【室町文化】 北山文化 金閣 銀閣 書院造 寝殿造 茶の湯 能 室町文化 侘び・寂び 足利学校 お伽草子 枯山水 水墨画 東山文化 連歌</p>

	<p>奥州藤原氏 (再掲) 鎌倉時代 鎌倉幕府 源氏 (再掲) 御恩と奉公 御家人 地頭 守護 征夷大將軍 (再掲) 朝廷 (再掲) 御成敗式目 (貞永式目) 執権 (政治) 承久の乱 北条氏 將軍 幕府 六波羅探題</p>	<p>元寇 徳政令 【元寇と朝鮮半島】 博多 平戸 倭人 (再掲) 【日本人の名字の由来】 皇族 (再掲) 名字 【建武の新政と南北朝の時代】 公家 建武の新政 天皇親政 京都 (再掲) 建武式目 南北朝時代 (日本) 年号 (元号) (再掲) 吉野</p>	<p>アイヌ 蝦夷地 首里城 尚氏 宗氏 琉球王国 倭館 【応仁の乱と下剋上】 応仁の乱 下剋上 一揆 一向一揆 国人 浄土真宗 (一向宗) 山城国一揆 自力救済 徳政一揆 地侍</p>	<p>【鎌倉文化】 阿弥陀仏 浄土宗 禪宗 曹洞宗 他力本願 (再掲) 日蓮宗 比叡山 臨濟宗 金剛力士像 新古今和歌集 徒然草 琵琶法師 方丈記</p>	
近世の日本	<p>【近世の日本】 浮世絵 江戸時代 【戦国大名】 下剋上 (再掲) 国人 (再掲) 地侍 (再掲) 守護 (再掲) 守護大名 (再掲) 戦国大名 (再掲) 惣 (惣村) (再掲) 分国法 江戸幕府 荘園 (再掲) 城下町 (再掲) 戦国時代 (再掲) 【ヨーロッパ人の世界進出】 イエズス会 イスラム教 (再掲) オスマン帝国 カトリック教会 ジバング (再掲) 宗教改革 スペイン ドイツ プロテスタント ポルトガル ローマ教皇 イタリア インド (再掲) 植民地 大航海時代 トルデシリャス条約 【ヨーロッパ人の来航】 キリスト教 (再掲) 堺 (再掲) シャム (タイ) 宣教師 種子島 鉄砲 南蛮人 南蛮貿易 フィリピン キリシタン大名 天正遣欧使節 長崎 日本町</p>	<p>【信長と秀吉の全国統一】 安土城 市 (再掲) 一向一揆 (再掲) 浄土真宗 (一向宗) (再掲) 延暦寺 (再掲) 長篠の戦い 室町幕府 (再掲) 楽市楽座 関白 (再掲) 関所 (再掲) 惣無事令 本能寺の変 【秀吉の政治と朝鮮出兵】 刀狩令 禁教 太閤検地 バテレン追放令 兵農分離 漢城 (現在のソウル) 慶長の役 朝鮮出兵 文禄の役 明 (再掲) 【秀吉はなぜバテレンを追放したか】 多神教 (再掲) 【桃山文化】 安土桃山時代 安土桃山文化 狩野派 三味線 障壁画 大名 (再掲) 茶の湯 (再掲) 天守閣 桃山文化 侘び・寂び (再掲) 出雲大社 (再掲) 歌舞伎 聖書 (再掲) 南蛮文化 人形浄瑠璃 博多 (再掲)</p>	<p>【江戸幕府の成立】 江戸 大阪 大坂夏の陣 貨幣 (再掲) 京都所司代 御家人 (再掲) 將軍 (再掲) 征夷大將軍 (再掲) 関ヶ原の戦い 大老 天領 幕領 旗本 奉行 町奉行 老中 参勤交代 親藩 外様大名 幕府 (再掲) 藩 武家諸法度 譜代大名 【朱印船貿易から鎖国へ】 イギリス オランダ 朱印状 朱印船 日本人町 一揆 (再掲) 鎖国 島原の乱 宗門改帳 出島 寺請制 踏絵 【鎖国日本の4つの窓口】 蝦夷地 (再掲) オランダ風説書 冊封 (再掲) 薩摩藩 尚氏 (再掲) 清 (清国) 清朝 宗氏 (再掲) 朝鮮 (再掲) 朝鮮通信使 対馬 年貢 (または年貢米) (再掲) 松前藩 琉球王国 (再掲) 倭館 (再掲) アイヌ (再掲) 蝦夷錦 樺太 (サハリン) 千島列島</p>	<p>【江戸の社会の平和と安定】 えた・ひにん 帯刀 名主 (庄屋) 百姓・町人 武士 (再掲) 身分制度 (再掲) 名字 (再掲) 村役人 運上金 五人組 百姓一揆 冥加金 村請 村八分 寄合 (再掲) 【綱吉の文治政治と元禄文化】 京都 (再掲) 元禄文化 儒学 生類憐みの令 文治政治 元禄時代 国学 朱子学 大日本史 農業全書 俳諧 水戸藩 陽明学 連歌 (再掲) 和算 【武士道と忠義の観念】 赤穂藩 【二宮尊徳と勤勉の精神】 新田 天保の大飢饉 【農業・産業・交通の発達】 蔵屋敷 五街道 三都 宿場町 樽廻船 菱垣廻船 飛脚 【教育・文化の普及】 私塾 松下村塾 寺子屋 藩校 桃山時代 蘭学 解体新書 古事記 (再掲) 【正確な日本地図をつくらせた伊能忠敬】 ロシア</p>	<p>【幕府の政治改革】 上米の令 打ちこわし 享保の改革 公事方御定書 儉約令 田沼時代 町火消 目安箱 株仲間 寛政の改革 狂歌 白河藩 天明の大飢饉 【化政文化】 化政文化 川柳 天保の改革 東海道中膝栗毛 南総里見八犬伝 東海道五十三次 錦絵 富嶽三十六景 【幕府政治の動揺】 大塩平八郎の乱 フェーン号事件 海国兵談 海防論 長州藩 蛮社の獄 人返しの法 異国船打払令 【浮世絵とジャポニズム】 万国博覧会 ジャポニズム フランス</p>
近	<p>【市民革命と産業革命】 アメリカ</p>	<p>【学制・兵制・税制の三大改革】</p>	<p>【大日本帝国憲法と立憲国家】</p>	<p>【第一次世界大戦と日本の参戦】</p>	<p>【中国の排日運動と協調外交の挫折】</p>

イギリス(再掲)	学制	大日本帝国憲法	イタリア(再掲)	軍閥
三権分立	義務教育	衆議院	オーストリア	国民党
植民地(再掲)	国民皆兵	貴族院	サラエボ事件	山東出兵
人権宣言	徴兵令	教育勅語	三国協商	宣教師
独立宣言	寺子屋(再掲)	帝国議会	三国同盟	南京
フランス革命	兵役(再掲)	立憲政治	バルカン半島	排日運動(中国の)
名誉革命	地券	【福沢諭吉の『学問のすすめ』と「脱亜論」】	二十一か条要求	関東軍
立憲君主制	地租改正	ハンブル	【ロシア革命と大戦の終結】	南満州鉄道(満鉄)
産業革命	年貢(または年貢米)(再掲)	脱亜論	共産主義	【満州事変と満州国建国】
市民革命	武士(再掲)	甲申事変	シベリア出兵	五・一五事件
蒸気機関	【明治維新とは何か】	【日清戦争と三国干渉】	ソビエト	満州国
ドイツ(再掲)	清朝(再掲)	甲午農民戦争	ロマノフ王朝	満州事変
フランス(再掲)	第一次世界大戦	壬午事変	ソ連	柳条湖事件
【欧米列強のアジア進出】	朝鮮(再掲)	長崎事件	マルクス主義	二・二六事件
インド(再掲)	帝国主義	日清戦争	ロシア革命	リットン調査団
セポイの乱	米百俵	臥薪嘗胆	総力戦	【日中戦争(支那事変)】
東インド会社	長岡藩	三国干渉	ワイマール共和国	国共内戦
列強	【近隣諸国との国境画定】	下関条約	【ベルサイユ条約と大戦後の世界】	西安事件
アヘン	小笠原諸島	満州	国際連盟	事変
アヘン戦争	樺太(サハリン)(再掲)	遼東半島	人種差別撤廃	上海事変
江戸幕府(再掲)	樺太・千島交換条約	【日英同盟】	第二次世界大戦	通州事件
清(清国)(再掲)	千島列島(再掲)	義和団事件	パリ講和会議	日中戦争(支那事変)
南京条約	日露和親条約	山東省	非暴力主義	盧溝橋事件
【ペリーの来航と開国】	日清修好条規	シベリア鉄道	ベルサイユ条約	【中国をめぐる日米関係の悪化】
黒船	松前藩(再掲)	北京議定書	民族自決	援蒋ルート
朝廷(再掲)	華夷秩序(再掲)	日英同盟	オスマン帝国(再掲)	検閲
ペリー来航	冊封(再掲)	【国家の命運をかけた日露戦争】	五・四運動	国家総動員法
老中(再掲)	台湾	対馬	財閥	インドシナ
開国	台湾出兵	日露戦争	三・一独立運動	大政翼賛会
下田	万国公法(国際法)	日本海海戦	【政党政治の展開と社会運動】	大東亜共栄圏
攘夷	琉球処分	バルチック艦隊	護憲運動	日米通商航海条約
日米和親条約	【琉球処分とは何か】	奉天会戦	米騒動	フライング・タイガース
【尊王攘夷運動の展開】	尚氏(再掲)	連合艦隊	大正時代	【第二次世界大戦の始まり】
安政の大獄	琉球王国(再掲)	韓国(大韓帝国)	藩閥勢力	独ソ不可侵条約
関税自主権	【日本の近代化とアイヌ】	黄禍論	普通選挙	日独伊三国軍事同盟
公家(再掲)	アイヌ(再掲)	トルコ	平民宰相	日ソ中立条約
桜田門外の変	蝦夷地(再掲)	日比谷焼き打ち事件	民本主義	A B C D包囲網
尊王攘夷	屯田兵	ポーツマス条約	立憲政友会	大西洋憲章
大老(再掲)	和人	ポーランド	憲政の常道	南部弘印進駐
長州藩(再掲)	【岩倉使節団と征韓論】	【日露戦争を戦った日本人】	小作争議	ハル・ノート
日米修好通商条約	岩倉使節団	武士道	護憲三派内閣	【大東亜戦争(太平洋戦争)】
幕府(再掲)	征韓論	【世界列強の仲間入りをした日本】	全国水平社	枢軸国
水戸藩(再掲)	江華島事件	韓国統監府	大正デモクラシー	大東亜戦争(太平洋戦争)
領事裁判権	西南戦争	韓国併合	治安維持法	連合国
薩英同盟	秩禄処分	皇帝(再掲)	婦人参政権	ミッドウェー海戦
薩摩藩(再掲)	日朝修好条規	朝鮮総督府	普通選挙法	【大東亜会議とアジア諸国】
下関戦争	廃刀令	ハーク密使事件	部落差別撤廃	大東亜会議
松下村塾(再掲)	【殖産興業と文明開化】	フィリピン(再掲)	メーデー	大東亜共同宣言
対馬事件	開拓使	蒙古(再掲)	【日米関係とワシントン会議】	戦時国際法
生麦事件	官営工場	辛亥革命	排日政策(アメリカの)	【戦時下の国民生活】
ロシア(再掲)	殖産興業	中華民國	ワシントン会議	学徒出陣
【薩長同盟と王政復古】	神仏習合	中国同盟会	関東大震災	勤労働員
薩長同盟	鉄道	朝鮮統治	九か国条約	戸籍(再掲)
長州征伐	電信制度	【明治国家を背負った政治家・伊藤博文】	四か国条約	学童疎開
土佐藩	富岡製糸場	朝貢(再掲)	【文化の大衆化と都市の生活】	空襲
王政復古の大号令	富国強兵	【近代産業の発展とその背景】	白樺派	創氏改名
鎌倉幕府(再掲)	郵便制度	産業革命(日本)	民俗学	東京大空襲
大政奉還	学問のすすめ	日本銀行	ラジオ	特別攻撃(特攻)
倒幕運動	キリスト教(再掲)	八幡製鉄所	地下鉄	【終戦をめぐる外交と日本の終戦】
崩御(再掲)	儒教(再掲)	足尾銅山	野球	沖繩戦
【明治新政府】	太陰暦	社会主義	【世界恐慌とその影響】	ポツダム宣言
会津藩	太陽暦	大逆事件	昭和恐慌	ヤルタ会談
江戸(再掲)	廃仏毀釈	【日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一】	世界恐慌	玉音放送
官軍	仏教(再掲)	株式会社	摂政(再掲)	原子爆弾(原爆)
京都(再掲)	文明開化	万国博覧会(再掲)	インドネシア	御前会議
近代国家	【条約改正への苦闘】	【近代文化の形成】	オランダ(再掲)	長崎(再掲)
鳥羽・伏見の戦い	条約改正	近代文化	軍人勅諭	広島
戊辰戦争	鹿鳴館	言文一致運動	ニュージーランド	【戦時国際法と戦争犯罪】
一世一元の制	日英通商航海条約	大学創設	ブロック経済	シベリア抑留
五箇条の御誓文	ノルマントン号事件	帝国大学	ロンドン軍縮会議	ハーク陸戦法規
東京(再掲)	【自由民権運動と政党の誕生】	【世界が見た日露戦争】	全体主義	北方領土
年号(元号)(再掲)	国会期成同盟	スエズ運河	ナチス党	
明治維新	自由民権運動		ファシズム	
立憲国家	政党内閣		ファシスト党	
【廃藩置県と四民平等】	民撰議院(国会)設立の建白書			
太政大臣(再掲)				
廃藩置県				
藩(再掲)				

	版籍奉還 えた・ひにん(再掲) 解放令 華族 県令(県知事) 皇族(再掲) 士族 四民平等 帯刀(再掲) 百姓・町人(再掲) 平民 身分制度(再掲) 名字(再掲)	立志社 私塾 自由党 内閣制度 藩校 プロシア 立憲改進黨	【近代の日本と世界(Ⅱ)】 真珠湾攻撃	ユダヤ人(再掲)	
現代の日本と世界	【現代の日本と世界】 アメリカ(再掲) 空襲(再掲) 【占領下の日本】 教育基本法 検閲(再掲) 五大改革指令 財閥解体 占領 ソ連(再掲) 台湾(再掲) 朝鮮(再掲) 農地改革 婦人参政権(再掲) ボツダム宣言(再掲) 北方領土(再掲) 連合国軍総司令部(GHQ) 東京裁判(極東国際軍事裁判) 憲政の常道(再掲) 公職追放 シベリア抑留(再掲) 中国残留日本人孤児 帝国議会(再掲) 日本国憲法 復員・引き揚げ	【占領下の検閲と東京裁判】 墨塗り教科書 戦時国際法(再掲) 大東亜戦争(太平洋戦争)(再掲) インド(再掲) 連合国(再掲) 【占領政策の転換と朝鮮戦争】 韓国(大韓民国) 北大西洋条約機構(NATO) 旧敵国条項 原子爆弾(原爆)(再掲) 北方領土(再掲) 国際連合(国連) 国民党(再掲) 国共内戦(再掲) 中華人民共和国 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮) ドイツ(再掲) 熱戦 冷戦 ワルシャワ条約機構(WTO) 共産主義(再掲) 警察予備隊 朝鮮戦争 朝鮮特需	【独立の回復と米ソ冷戦】 サンフランシスコ講和条約 日米安全保障条約 日ソ共同宣言 安保闘争 【世界の奇跡・高度経済成長】 高度経済成長 国民総生産(GNP) 新幹線 東京オリンピック 万国博覧会(再掲) 沖縄本土復帰 公害 韓国(大韓帝国)(再掲) 日韓基本条約 非核三原則 ベトナム戦争	【冷戦の推移と日本の経済発展】 キューバ危機 日中共同声明 日中国交正常化 ベルリンの壁 石油危機 中華民国(再掲) 日中平和友好条約 年号(元号)(再掲) 崩御(再掲) 【昭和天皇】 二・二六事件(再掲) 立憲君主制(再掲) 巡幸 【戦後の文化】 ノーベル賞 アニメ 現代マンガ 和食	【冷戦の終結と共産主義の崩壊】 アフガニスタン マルタ会談 イラク戦争 クウェート 自衛隊 全体主義(再掲) 同時多発テロ ファシズム(再掲) ユダヤ人(再掲) ロシア(再掲) 湾岸戦争 【21世紀の日本の進路】 北朝鮮 尖閣 竹島 東日本大震災 拉致 【勇気と友情の物語】 エルトゥールル号 トルコ 台湾総督府
育 鵬 社					
古代までの日本	【日本列島ができたころの人々】 猿人 原人 新人(ホモ・サピエンス) 打製石器 北京原人 岩宿遺跡 旧石器時代 ナウマンゾウ 氷河時代 マンモス 【豊かな自然と縄文文化】 土器 縄文土器 縄文時代 堅穴住居 貝塚 三内丸山遺跡 高床倉庫(建物) 土偶 ムラ 【文明のおこりと中国の古代文明】 農耕 牧畜 磨製石器 新石器時代 国家 王 青銅器 鉄器	【稲作・弥生文化と邪馬台国】 稲作 石包丁 銅矛 銅剣 銅鐸 銅鏡 弥生土器 弥生時代 吉野ヶ里遺跡 水田稲作 魏 魏志倭人伝 倭 邪馬台国 金印 朝貢 豪族 古墳(時代、文化) 「三国志」 奴国 【古墳の広まりと大和朝廷】 前方後円墳 埴輪 大仙古墳(仁徳天皇陵) 大王 大和朝廷(大和政権) 江田船山古墳 氏 姓	【大和朝廷と東アジア】 シルクロード 高句麗 新羅 百濟 任那(加羅・伽耶) 南北朝時代(中国) 倭の五王 帰化人(渡来人) 須恵器 漢字 仏教 【世界の宗教と日本】 宗教 一神教 多神教 世界宗教 インド 民族宗教 アラー イスラム教 コーラン キリスト教 聖書 ローマ教皇 ヒンドゥー教 【日本人の宗教観】 神道 皇族 【歴史を解明する考古学】 法隆寺 【聖徳太子の国づくり】 隋	【大化の改新と激動の東アジア】 ア 元号 年号 公地公民 白村江の戦い 大宰府 防人 戸籍 壬申の乱 藤原京 日本(国号) 国号 万葉集 木簡 【飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使】 飛鳥文化 律令国家 白鳳文化 遣唐使 古今和歌集 天平文化 渤海 【大宝律令と平城京】 貴族 郡司 国司 国府 大宝律令 太政官 朝廷 奈良	【天平文化】 神話 風土記 国分寺 国分尼寺 東大寺 唐招提寺 大仏 和歌 正倉院 【神話に見るわが国誕生の物語】 出雲大社 伊勢神宮 【大仏開眼供養】 上皇 【平安京と摂関政治】 鎌倉 京都 平安京 平安時代 征夷大將軍 長岡京 藤原氏 関白 摂関政治 荘園 公領 荘官 【新しい仏教と国風文化】 比叡山 延暦寺 天台宗

	金属器 文字 くさび形文字 エジプト文明 メソポタミア文明 インダス文明 中国文明 ギリシャ文明 ローマ文明 モヘンジョ・ダロ ピラミッド 文明 ローマ帝国 殷 秦 漢 甲骨文字 象形文字 儒教(儒学) 皇帝 太陰暦 万里の長城 論語	国造 氏姓制度 稲荷山古墳 古事記 日本書紀	蘇我氏 撰政 冠位十二階 十七条の憲法 遣隋使 大化の改新 飛鳥時代 唐 律令 長安 天皇	平城京 奈良時代 富本銭 和同開珎 蝦夷 口分田 班田収授(法) 租 調 庸 墾田永年私財法 奴婢 賤民 雑徭 兵役	高野山金剛峯寺 真言宗 国風文化 寝殿造 かな文字 ひらがな 枕草子 源氏物語 平等院鳳凰堂 大和絵 阿弥陀仏 浄土教 宋 末法思想 極楽浄土 【最澄と空海】 浄土宗 禅宗 密教 【かな文字の発達】 カタカナ
中世の日本	<b>【武士の登場と院政】</b> 豪族(再掲) 武士 国司(再掲) 源氏 平氏(平家) 棟梁 武士団 藤原氏(再掲) 荘園(再掲) 院政 摂関政治(再掲) 上皇(再掲) 保元の乱 平治の乱 宋(再掲) 日宋貿易(宋との貿易) 太政大臣 源平の争乱 <b>【武士の世の到来と鎌倉幕府】</b> 壇ノ浦の戦い 御家人 守護 地頭 年貢 蝦夷(再掲) 平泉 奥州藤原氏 征夷大將軍(再掲) 鎌倉(再掲) 鎌倉幕府(時代) 侍所 政所 六波羅探題 執権(政治) 武家政治 明治維新	<b>【幕府政治の展開と人々の暮らし】</b> 北条氏 承久の乱 御成敗式目(貞永式目) 奉公 御恩 稲作(再掲) 荘園領主 宋銭 惣領 問(問丸) 二毛作 定期市 <b>【新しい仏教と武士の文化】</b> 仏教(再掲) 浄土宗(再掲) 阿弥陀仏(再掲) 浄土真宗(一向宗) 時宗 日蓮宗(法華宗) 禅宗(再掲) 臨濟宗 曹洞宗 東大寺(再掲) 極楽浄土(再掲) 金剛力士像 平家物語 軍記物 琵琶法師 新古今和歌集 方丈記 徒然草 奈良時代(再掲) 公家 絵巻物	<b>【元寇と鎌倉幕府のおとろえ】</b> モンゴル帝国 元 高麗(再掲) 文永の役 弘安の役 元寇 徳政令 悪党 <b>【ユーラシアを一つにつないだモンゴル】</b> アラー(再掲) イスラム教(再掲) キリスト教(再掲) コーラン(再掲) 十字軍 十七条の憲法(再掲) 新羅(再掲) ローマ教皇(再掲) <b>【建武の新政と南北朝の動乱】</b> 建武の新政 朝廷(再掲) 天皇(再掲) 朱子学 南朝 北朝 南北朝時代(日本) 管領 守護大名 鎌倉公方 鎌倉府 領国	<b>【室町幕府と東アジア】</b> 足利氏 朝貢(再掲) 南北朝の合一 明 室町幕府 倭寇 勘合貿易 中継貿易 日明貿易(勘合貿易) 朝鮮 朝鮮国(李氏朝鮮) 琉球 琉球王国 尚氏 首里城 蝦夷地 アイヌ <b>【応仁の乱と戦国大名】</b> 足輕 一揆 一向一揆 一向宗 応仁の乱 下剋上 戦国大名 土一揆 百姓一揆 細川氏 山城国一揆 山名氏 石見銀山 城下町 戦国時代 分国法	<b>【産業の発達と広がる自治の動き】</b> 商品作物 土倉 酒屋 車借 港町 明銭 祇園祭 堺 自治都市 庄屋 惣 太宰府(再掲) 寄合 町衆 廃藩置県 <b>【戦国大名の富国策一信玄堀】</b> 新田 <b>【室町時代の文化】</b> 金閣 銀閣 猿楽 田楽 能(能楽) 狂言 北山文化 東山文化 書院造 茶の湯 生け花 水墨画 河原者 連歌 足利学校 お伽草子 年中行事 和歌(再掲)
近世の日本	<b>【近世の日本】</b> 朱印船 朱印状 <b>【ヨーロッパ人の世界進出】</b> オスマン帝国 香辛料 スペイン 大航海時代 ポルトガル イエズス会 イギリス インカ帝国 オランダ カトリック	<b>【豊臣秀吉の政治と外交】</b> 一揆(再掲) 刀狩(令) 検地 石高 荘園(再掲) 荘園領主(再掲) 太閤検地 大名 兵農分離 慶長の役 朝鮮出兵 パテレン追放令 文禄の役 明(再掲)	<b>【鎖国への道】</b> 禁教(キリスト教の禁止) 朱印船貿易 日本町 絵踏 鎖国 島原・天草一揆(島原の乱) 宗門改帳 清 出島 踏絵 <b>【「鎖国」の時代に開かれていた窓口】</b>	<b>【新田の開発と産業・交通の発達】</b> 京都(再掲) 蔵屋敷 三都 商品作物(再掲) 千歯こき 天下の台所 西陣織 備中ぐわ 足尾銅山 五街道 佐渡金山 樽廻船 西廻り航路	<b>【欧米諸国の接近】</b> アメリカ フレイトン号事件 フランス ロシア 異国船打払令 蛮社の獄 モリソン号事件 <b>【天保の改革と諸藩の改革】</b> 大塩平八郎の乱 天保の改革 天保のききん 長州藩 藩政改革 肥前藩

<p>宗教改革 植民地 奴隷 東インド会社 プロテスタント ローマ教皇(再掲) 【ルネサンスと宗教改革】 イタリア 応仁の乱(再掲) 勘合貿易(再掲) キリスト教(再掲) 日明貿易(勘合貿易) (再掲) ルネサンス(文芸復興) 【ヨーロッパ人の来航】 宣教師 戦国大名(再掲) 種子島 鉄砲 南蛮人 南蛮貿易 キリシタン大名 天正遣欧少年使節 長崎 南蛮船 平戸 【織田信長と豊臣秀吉の 全国統一】 安土城 石山本願寺 一向一揆(再掲) 延暦寺(再掲) 桶狭間の戦い 堺(再掲) 自治都市(再掲) 関所 戦国時代(再掲) 長篠の戦い 比叡山(再掲) 本能寺の変 室町幕府(再掲) 楽市・楽座 大阪 大阪城 関白(再掲)</p>	<p>【雄大で豪華な桃山文化】 安土桃山時代 生け花(再掲) 茶の湯(再掲) 姫路城 桃山文化 歌舞伎 かぶき踊り 三味線 浄瑠璃 南蛮文化 琉球(再掲) 【茶の湯と生け花】 臨濟宗(再掲) 【江戸幕府の成立】 江戸 江戸時代 江戸幕府 大坂夏の陣 大阪冬の陣 御家人(再掲) 征夷大將軍(再掲) 関ヶ原の戦い 徳川氏 豊臣氏 旗本 町奉行 老中 禁中並公家諸法度 参勤交代 親藩 朝廷(再掲) 外様大名 奈良(再掲) 幕藩体制 藩 武家諸法度 譜代大名</p>	<p>アイヌ(再掲) 蝦夷地(再掲) 松前藩 薩摩藩 尚氏(再掲) 宗氏 朝貢(再掲) 朝鮮(再掲) 朝鮮通信使 対馬藩 4つの口 【身分制度の確立】 城下町(再掲) 町人 百姓 百姓一揆(再掲) 武士(再掲) 武士道 身分(制度) えた 五人組 新田(再掲) 名主(庄屋) 年貢(再掲) ひにん 百姓代 本百姓 水呑百姓 村役人 【網吉の文治政治と元禄 文化】 儒教(儒学)(再掲) 生類憐みの令 文治政治 浮世絵 浮世草子 元禄文化 朱子学(再掲) 大日本史 人形浄瑠璃 俳諧 陽明学 連歌(再掲)</p>	<p>年中行事(再掲) 菱垣廻船 東廻り航路 飛脚 【江戸時代探検!】 伊勢参り 奥の細道 宿場町 門前町 忠臣蔵 列強 【藩校と寺子屋】 適塾 寺子屋 町人 藩校 蘭学 【社会の変化と享保の改革】 株仲間 享保の改革 問屋制家内工業 両替商 公事方御定書 俵約令 工場制手工業(マニュ ファクチュア) 目安箱 【田沼の政治と寛政の改革】 打ちこわし 寛政の改革 田沼時代 天明のききん 昌平坂学問所</p>	<p>【江戸の町人文化】 化政文化 狂歌 川柳 東海道中膝栗毛 南総里見八犬伝 落語 水墨画(再掲) 錦絵 【浮世絵の影響】 ジャポニズム 【新しい学問と思想の動き】 解体新書 国学 古事記(再掲) 古事記伝 心学 株仲間(再掲) 尊王攘夷運動 仏教(再掲) 水戸学 【世界文化遺産・富士山と 日本人】 縄文時代(再掲) 奈良時代(再掲) 富士山 万葉集(再掲)</p>
<p>近代 の 日本 と 世界</p>	<p>【欧米の市民革命・産業 革命】 アメリカ(再掲) イギリス(再掲) 共和制 権利の章典 三権分立 植民地(再掲) 人権宣言 絶対王政 独立宣言(アメリカ) ピューリタン革命 フランス革命 プロテスタント名誉 革命 産業革命 資本主義 市民革命 社会主義 蒸気機関 フランス(再掲) 立憲君主制 【欧米列強のアジア進出】 アヘン戦争 インド(再掲) インド大反乱 三角貿易 清(再掲) 東インド会社(再掲) 列強(再掲) 異国船打払令(再掲) 太平天国の乱 南京条約</p>	<p>【五箇条の御誓文と明治 維新】 樺太・千島交換条約 五箇条の御誓文 鳥羽・伏見の戦い 戊辰戦争 明治維新(再掲) 靖国神社 版籍奉還 江戸(再掲) 天皇(再掲) 年号(再掲) 【新しい国づくりへの道】 四民平等 中央集権(国家) 年貢(再掲) 廃藩置県(再掲) 藩(再掲) 身分(制度)(再掲) 蝦夷地(再掲) えた(再掲) 解放令 華族 士族 徴兵令 ひにん(再掲) 平民 【学制・兵制・税制の改革】 学制 義務教育 就学率 徴兵制度 寺子屋(再掲)</p>	<p>【国会開設へ向けて・自 由民権運動】 国会期成同盟 地主 政党内閣 藩閥 民撰議院設立の建白 書 立志社 五日市憲法 国会開設の勅諭 自由党 秩父事件 内閣制度 立憲改進黨 【大日本帝国憲法の制定 と帝国議会】 貴族院 衆議院 枢密院 大日本帝国憲法 帝国議会 民法 教育勅語 【不平等条約の改正への 努力】 鹿鳴館 条約改正 日清戦争 日英通商航海条約 ノルマントン号事件 【朝鮮半島と日清戦争】 甲午農民戦争</p>	<p>【ロシア革命と第一次世界大 戦の終結】 ロシア革命 共産主義 シベリア出兵 戦車 総力戦 日本共産党 【ベルサイユ条約と国際協同 の動き】 ベルサイユ条約 パリ講和会議 常任理事国(国際連盟) 民族自決 五・四運動 三・一独立運動 オスマン帝国(再掲) トルコ 【大正デモクラシーと政党政 治】 立憲政友会 天皇機関説 大戦景気 護憲運動 民本主義 政党政治 大正デモクラシー 米騒動 「憲政の常道」 憲政会 普通選挙法 社会運動 労働運動</p>

	<p>ロシア(再掲) 【黒船来航の衝撃】 浦賀 開国 黒船 日米和親条約 関税自主権 治外法権 日米修好通商条約 不平等条約 領事裁判権(治外法権) 【尊王攘夷運動の高まり】 攘夷 安政の大獄 公家(再掲) 公武合体 桜田門外の変 薩英戦争 薩摩藩(再掲) 尊王攘夷運動(再掲) 生麦事件 松下村塾 長州藩(再掲) 【倒幕と大政奉還、王政復古の号令】 王政復古の号令 薩長同盟 大政奉還 土佐藩 肥前藩(再掲) 世直し 岩倉使節団 「ええじゃないか」 朝廷(再掲) 武士(再掲)</p>	<p>兵役(再掲) 一揆(再掲) 地券 地租改正 【明治初期の外交と国境の画定】 沖繩 開拓使 台湾 千島列島 屯田兵 日清修好条規 琉球(再掲) 琉球王国(再掲) 琉球処分 江華島事件 征韓論 尖閣諸島 朝鮮(再掲) 日朝修好条規 北方領土 【岩倉使節団と西南戦争】 西南戦争 【西郷と大久保がめざしたもの】 殖産興業 富国強兵 【殖産興業と文明開化】 官営工場 富岡製糸場 錦絵(再掲) 文明開化 横浜 学問のすゝめ キリスト教(再掲) 自由民権運動 神道(再掲) 太陽暦 仏教(再掲) 【近代国民国家の形成】 万国博覧会(万博) イタリア(再掲) オーストリア 帝国主義 ドイツ 奴隷(再掲) 南北戦争</p>	<p>甲申事変 東学党の乱 シベリア鉄道 満州 下関条約 大韓帝国(韓国) 【ロシアとの激突・日露戦争】 三国干渉 義和団事件 日英同盟 日露戦争 日本海海戦 ポーツマス条約 日比谷焼き打ち事件 【国際的地位の向上と韓国併合】 黄禍論 朝鮮総督府 韓国統監府 韓国併合 モンゴル帝国(再掲) 台湾総督府 三民主義 辛亥革命 中華民国 中国国民党 【日本の産業革命と国民生活の変化】 日本銀行 八幡製鉄所 財閥 足尾銅山(再掲) 足尾銅山鉍毒事件 大逆事件 【明治を築いた二人ー伊藤博文と渋沢栄一】 論語(再掲) 【西洋文化と明治の文化】 俳句 【お雇い外国人】 国際連盟 ナウマンゾウ(再掲) 【第一次世界大戦】 三国同盟 三国協商 サラエボ事件 ヨーロッパの火薬庫 第一次世界大戦 南満州鉄道(満鉄) 二十一か条の要求 ワシントン会議</p>	<p>日本労働総同盟 日本農民組合 ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連) 全国水平社 治安維持法 【ワシントン会議と日米関係】 四カ国条約 関東大震災 武士道(再掲) 【文化の大衆化・大正の文化】 映画 プロレタリア文学 ラジオ放送 白樺派 【世界恐慌と協調外交の行きづまり】 世界恐慌 ブロック経済 ニューディール政策 小作争議 昭和恐慌 満州事変 【共産主義とファシズムの台頭】 ファシズム ファシスト党 ナチス ユダヤ人 全体主義 ロンドン軍縮会議 強制収容所 スペイン(再掲)</p>	<p>争) ハル・ノート 連合軍司令部(GHQ) 空襲 原子爆弾(原爆) ミッドウェー海戦 【日本軍の進出とアジア諸国】 大東亜会議 大東亜共同宣言 大東亜共栄圏 大西洋憲章 【戦時下の暮らし】 学徒出陣 創氏改名 沖繩戦 学童疎開 東京大空襲 勤労動員 特攻 【戦争の終結】 ヤルタ会談 ポツダム宣言 長崎(再掲) 広島 シベリア抑留 原爆ドーム 【なでしこ日本史その5】 「青鞵」</p>
現代の日本と世界	<p>【新幹線の歴史を見てみよう】 新幹線 【占領下の日本と日本国憲法】 極東国際軍事裁判(東京裁判) 小作人 財閥解体 自作農 地主(再掲) 政党政治(再掲) 大正デモクラシー(再掲) 治安維持法(再掲) 農地改革 婦人参政権 連合国(再掲) 連合国軍総司令部(GHQ)(再掲) 労働組合 労働組合法 義務教育(再掲) 基本的人権 教育基本法 国民主権 衆議院(再掲)</p>	<p>【東京裁判】 原子爆弾(原爆)(再掲) ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)(再掲) 東京大空襲(再掲) シベリア抑留(再掲) 空襲(再掲) 二・二六事件(再掲) 満州事変(再掲) 和歌(再掲)</p>	<p>【朝鮮戦争と日本の独立回復】 アメリカ(再掲) 安全保障理事会 北大西洋条約機構(NATO) 共産主義(再掲) 国際連合(国連) 常任理事国(国際連合) 大韓民国(韓国) 台湾(再掲) 中華人民共和国 朝鮮戦争 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮) 冷戦(冷たい戦争) ワルシャワ条約機構 アジア・アフリカ会議 アメリカ軍基地 小笠原諸島 沖繩(再掲) 警察予備隊 サンフランシスコ平和条約 自衛隊</p>	<p>【冷戦と日本】 キューバ危機 水爆実験 第五福竜丸 ドイツ(再掲) ベルリンの壁 安保闘争 55年体制 自由民主党(自民党) 日本社会党 ベトナム戦争 【世界の奇跡・高度経済成長】 高度経済成長 東京オリンピック(再掲) 万国博覧会(再掲) イタイイタイ病 環境庁 公害 公害対策基本法 新潟水俣病 水俣病 四日市ぜんそく 【冷戦と昭和時代の終わり】 沖繩本土復帰 政府開発援助(ODA)、石油危機(オイル・シ</p>	<p>【冷戦の終結】 天安門事件 ロシア連邦 【戦後と現代の文化】 映画(再掲) 社会主義(再掲) 【地域紛争とグローバル化】 アメリカ同時多発テロ イラン・イラク戦争 平和維持活動(PKO) 湾岸戦争 京都議定書 グローバル化 主要国首脳会議(サミット) 地球温暖化 地球温暖化防止京都会議 南北問題 ヨーロッパ共同体(EC) ヨーロッパ連合(EU) 【日本の現状とこれから】 少子高齢化 バブル経済</p>

	大日本帝国憲法(再掲) 地方自治法 帝国議会(再掲) 天皇(再掲) 日本国憲法 平和主義 民法(再掲) 労働基準法	第二次世界大戦(再掲) 太平洋戦争(大東亜戦争)(再掲) 朝鮮特需 日米安全保障条約(安保条約) 日ソ共同宣言	ヨック) 中華民国(再掲) 中東戦争 日韓基本条約 日中共同声明 日中平和友好条約 東西ドイツ統一 マルタ会談 冷戦終結	阪神・淡路大震災 東日本大震災 尖閣諸島(再掲) 北方領土(再掲) 拉致 【歴史新聞をつくらう】 エルトゥールル号遭難	
	学 び 舎				
古代までの日本	<b>【動物とともに生きる】</b> インダス川 黄河 土器 土偶 マンモス ミイラ <b>【木から下りたサル】</b> 猿人 現生人類 石器 直立二足歩行 ネアンデルタール人 火の使用 氷河期 ブロンボス洞窟 北京原人 ホモ・サピエンス ラスコー洞窟 ラミダス猿人 <b>【種が落ちないムギ】</b> アブ・フレイラ遺跡 栽培種 水田稲作 農耕 <b>【ピラミッドのなぞ】</b> エジプト 暦 象形文字 奴隸 ナイル川 パピルス ピラミッド <b>【ブッダになった王子】</b> アーリヤ人 ガンジス川 シャカ(シャーキヤ)族 先住民 ヒンドゥー教 仏教 ブッダ マウリヤ朝 モヘンジョ＝ダロ	<b>【地下から出てきた大軍団】</b> 殷 貨幣 漢 漢字 匈奴 甲骨文字 始皇帝兵馬俑 周 儒教 春秋・戦国時代 秦 長江 万里の長城 遊牧民 『論語』 <b>【円形競技場の熱狂】</b> キリスト キリスト教 剣闘士 コロッセウム 『新約聖書』 『聖書』(『新約聖書』) パレスチナ ユダヤ人 ローマ帝国 <b>【湖にゾウを追う】</b> 岩宿遺跡 旧石器時代 打製石器 ナウマンゾウ 野尻湖 ローム層 <b>【かわる気候、めぐる季節】</b> 石皿 漆 三内丸山遺跡 縄文土器 たて穴住居 鳥浜貝塚 ムラ 矢じり <b>【稲作がはじまる】</b> 板付遺跡 稲作 貝塚文化の時代 かめ棺 『漢書』地理誌 絹 青銅器 続縄文時代 銅鏡 銅剣 銅鐸 菜畑遺跡 弥生土器 吉野ヶ里遺跡 倭人 <b>【第1章をふりかえる】</b> 栽培植物	<b>【宗教の広がり】</b> アッパース朝 アラビア半島 アンコール・ワット イスラム教 ガーナ王国 唐 東大寺 東大寺大仏 渡来人 マヤ文明 <b>【倭国の女王、卑弥呼】</b> 唐古・鍵遺跡 漢委奴國王 魏 「魏志倭人伝」 金印 狗奴国 高句麗 志賀島 邪馬台国 倭国 <b>【古墳を見上げるムラ】</b> 稲荷山古墳 大王 百濟 豪族 古墳 新羅 須恵器 前方後円墳 宋 大山古墳 鉄器 鉄剣 はにわ 大和 大和政権	<b>【蘇我氏と二人の皇子】</b> 飛鳥寺 冠位十二階 金 遣隋使 公地公民 国書 十七条の憲法 隋 蘇我氏 大化の改新 法隆寺 <b>【大海人皇子の勝利】</b> 遣唐使 壬申の乱 白村江 藤原京 水城 木簡 山城 <b>【奈良の都】</b> 市 ウイグル 蝦夷 貴族 契丹 朱雀門 大宝律令 太宰府 調 長安 朝廷 隼人 平城京 庸 律令 和同開珎 <b>【家族と別れる防人の歌】</b> 運脚 衛士 口分田 郡司 国司 戸籍 防人 租 奴婢 班田收授法 万葉がな 『万葉集』 <b>【金色にかがやく大仏】</b> 天照大神 伎楽 国分寺 『古事記』 正倉院 シルクロード 神話 唐招提寺 『日本書紀』 『風土記』	<b>【インド洋へ、地中海へ】</b> アイヌ アッラー アラビア数字 香辛料 高麗 『コーラン』 バグダッド 渤海 ムスリム <b>【北で戦い、都をつくる】</b> 胆沢城 関白 源氏 皇族 荘園 真言宗 征夷大將軍 摂関政治 摂政 多賀城 津波 天台宗 武士 藤原氏 平安京 平氏 <b>【女性作家の登場】</b> 阿弥陀仏 カタカナ 『源氏物語』 『古今和歌集』 国風文化 極楽浄土 『今昔物語集』 浄土信仰 光源氏 平等院鳳凰堂 ひらがな 『枕草子』 末法思想
中世の日本	<b>【世界を結ぶ交通手段】</b> アウトリガー船 元 ダウ船 ムスリム(再掲) 農耕(再掲) バイキング 武士(再掲)	<b>【荘園絵図をえがく】</b> 栢田荘 公領 地頭 荘園領主 館 平氏(再掲) <b>【東国に幕府をつくる】</b>	<b>【おどる聖と念仏札】</b> 阿弥陀仏(再掲) 伊勢神道 一向宗 『一遍聖絵』 餓死 ききん 建長寺	<b>【一つにつながるユーラシア】</b> アイヌ(再掲) エルサレム キリスト教(再掲) 景教 江華島 高麗(再掲)	<b>【岩に刻んだ勝利】</b> 足輕 一揆 応仁の乱 加賀の一向一揆 国一揆 下克上 興福寺

	<p>【交易で栄えた博多】 大輪田泊 活字印刷 生糸 貴族（再掲） 金（再掲） 広州 杭州 禅宗 宋（再掲） 長江（再掲） 陶磁器 港町 銅銭 羅針盤 寧波 博多 仏教（再掲） 【都で、武士が戦う】 院政 蝦夷（再掲） 奥州藤原氏 国司（再掲） 極楽浄土（再掲） 荘園（再掲） 上皇 浄土信仰（再掲） 摂関政治（再掲） 中尊寺金色堂 朝廷（再掲） 『平家物語』 平氏政権 平治の乱 保元の乱</p>	<p>鎌倉幕府 御恩 御家人 御成敗式目 執権 守護 承久の乱 将軍 征夷大將軍（再掲） 壇ノ浦 東大寺（再掲） 東大寺南大門 武士団 奉公 北条氏 六波羅探題</p>	<p>源平の内乱 金剛力士像 時宗 浄土宗 浄土真宗 『徒然草』 日蓮宗 念仏 琵琶法師 『方丈記』 法華宗 【市に集まる人びと】 市（再掲） 堺 定期市 【地頭が村にやってきた】 阿テ河荘 カタカナ（再掲） 惣（惣村） 逃散 十三湊 二毛作</p>	<p>サハリン 先住民（再掲） 大都 朝貢 対馬 南宋 パイザ バグダッド（再掲） 北京 遊牧民（再掲） モンゴル モンゴル帝国 ローマ教皇 【悪党の世の中】 悪党 下人 守護大名 北朝 室町幕府 南朝 南北朝の内乱 武家 吉野 【境界に生きる人びと】 大内氏 勘合 漢字（再掲） 『訓民正音』 儒教（再掲） 南京 朝鮮王朝 明 ハンブル 山城（再掲） 倭寇 【職人歌合の世界】 座 土倉 結 寄合 馬借 肥料</p>	<p>酒屋 地侍 正長の土一揆 朝鮮通信使 土一揆 徳政 山城国一揆 【禅の文化、民衆の文化】 御伽草子 河原者 狂言 金閣 銀閣 公家 茶道 書院造 水墨画 田楽 伝染病 能 伏見荘 盆踊り 『洛中洛外図屏風』 【アジアの海をつなぐ王国】 蝦夷地 『おもろそうし』 貝塚文化の時代（再掲） グスク（再掲） 香辛料（再掲） 漆器 首里 首里城 水田稲作（再掲） 鉄器（再掲） 土器（再掲） 奴隷（再掲） 那覇 ムラ（再掲） 琉球（王国） 連歌 和人</p>
近世の日本	<p>【海でつながる世界】 アステカ王国 イスタンブール インカ帝国 オスマン帝国 生糸（再掲） キリスト教（再掲） 銀 香辛料（再掲） 黒人 宣教師 先住民（再掲） 鉄砲 伝染病（再掲） 天文学 奴隷（再掲） ムスリム（再掲） 羅針盤（再掲） 【大西洋の東と西】 イエズス会 カトリック 暦（再掲） 薩摩 宗教改革 土器（再掲） 奴隷貿易 プロテスタント 綿織物 琉球（王国）（再掲） ローマ教皇（再掲） 【インドに出現した船隊】 ダウ船（再掲） 陶磁器（再掲） ポルトガル 明（再掲） 倭寇（再掲） 【銀と戦国大名】 生野銀山</p>	<p>【倭寇がもたらした火縄銃】 石山本願寺 雑賀 堺（再掲） 漆器（再掲） 『聖書』（『新約聖書』）（再掲） 大名 種子島 唐人町 南蛮貿易 火縄銃 仏教（再掲） 綿花 木綿 【町衆と信長】 安土城 一向一揆 一向宗（再掲） 延暦寺 応仁の乱（再掲） 桶狭間の戦い 祇園祭 座（再掲） 寺内町 将軍（再掲） 富田林 長篠の戦い 町衆 楽市・楽座 『洛中洛外図屏風』（再掲） 【秀吉と黄金の夢】 大阪城 茶道（再掲） 南蛮文化 北条氏（再掲）</p>	<p>【江戸の町づくり】 江戸城 神田上水 征夷大將軍（再掲） 関ヶ原の戦い 玉川上水 町人 日本橋 【どこまでつづく大名行列】 加賀藩 ききん（再掲） 禁中並公家諸法度 公家（再掲） 御家人（再掲） 参勤交代 親藩 外様大名 旗本 武家諸法度 老中 【日本町が消える】 一揆（再掲） 絵踏み オランダ商館 豪商 薩摩藩 島原・天草一揆 朱印状 宗門改 檀家 対馬藩 出島 長崎 日本町 松前藩 港町（再掲） 四つの口</p>	<p>【武士のいない村】 入会地 えた かわた 五人組 庄屋 町人身分 名主 ひにん 百姓身分 兵農分離 本百姓 水呑百姓 名字帯刀 村請制度 寄合（再掲） 【綿花と底ぬけタンゴ】 糶 下肥 商品作物 千歯こき 備中鍬 肥料（再掲） 干鰯 養蚕 【刀より金銀の力】 浮世絵 浮世草子 歌舞伎 元禄文化 五街道 米市場 『曾根崎心中』 樽廻船 知行地 問屋 西廻り航路 『日本永大蔵』</p>	<p>【将軍吉宗のなげき】 上米の制 打ちこわし 株仲間 享保の改革 公事方御定書 蔵屋敷 生類憐れみの令 田沼の政治 藩政改革 【裏長屋に住む棒手振】 裏長屋 『熙代照覧』 その日稼ぎ 出稼ぎ 人別帳 奉公（再掲） 棒手振 【地鳴り山鳴り、のぼりを立て】 傘連判状 寛政の改革 公事宿 三閉伊一揆 長州藩 天保の改革 天保のききん 百姓一揆 【人体解剖の驚き】 『解体新書』 漢方医学 国学 『古事記』（再掲） 『古事記伝』 儒学 攘夷 尊皇攘夷運動 『ターヘル・アナトミ』</p>

	<p>岩見銀山 貨幣 (再掲) 絹 (再掲) 下克上 (再掲) 『西遊記』 『三国志演義』 儒教 (再掲) 城下町 戦国大名 戦国時代 雑兵 蘇州 分国法 北京 (再掲) 木版印刷</p>	<p>桃山文化 【村に入ってきた秀吉】 足輕 (再掲) 蝦夷地 (再掲) 刀狩 検地 検地帳 石高 島津氏 太閤検地 百姓 武士 (再掲) 【僧が見た朝鮮の民衆】 漢城 義兵 戸籍 (再掲) 朝貢 (再掲) 名護屋城 釜山</p>	<p>【世界とつながる日本列島】 清水寺 守護大名 (再掲) 琵琶 琵琶法師 (再掲) 『平家物語』 (再掲) 室町幕府 (再掲) 【世界遺産に見る世界】 イスラム文化 金 (再掲) 故宮 清 新田開発 スルタンアフメト・モスク タージ・マハル 姫路城 ヒンドゥー教 (再掲) ベルサイユ宮殿 ムガル帝国</p>	<p>人形浄瑠璃 俳諧 菱垣廻船 武家 (再掲) 俵禄 盆踊り (再掲) 三井 両替商 【北の海から来た昆布】 アイヌ (再掲) 蝦夷 (えぞ) 蝦夷 (えみし) (再掲) 北前船 サハリン (再掲) 和人 (再掲) 【江戸を行く朝鮮通信使】 国書 (再掲) 首里 (再掲) 壬辰の乱 朝鮮通信使 (再掲) 通信使 那覇 (再掲) 倭館</p>	<p>ア』 『大日本沿海輿地全図』 腑分け 蘭学 【寺子屋の子どもたち】 化政文化 『源氏物語』 (再掲) 川柳 寺子屋 『東海道中膝栗毛』 『南総里見八犬伝』 錦絵 藩校 読み書き・そろばん 論語 (再掲) 【毛皮を求めて東へ】 倭約令 千島列島 ペテルブルグ ロシア正教会 【外に危機、内にも悩み】 アヘン戦争 異国船打払令 餓死 (再掲) 救い米 土佐藩 肥前藩 『戊戌夢物語』 モリソン号 【地域の歴史を歩く】 鈴木分水</p>
近代の日本と世界	<p>【万国博覧会に見る世界】 水晶宮 パリ 万国博覧会 【アメリカの大地に生きる】 アメリカ合衆国憲法 イロコイ連合 インディアン 独立宣言 奴隷制度 南部 黒人 (再掲) 先住民 (再掲) 奴隷 (再掲) 綿花 (再掲) 【バスチーユを攻撃せよ】 国民議会 国民主権 女性の権利宣言 人権宣言 選挙権 ナポレオン法典 ハイチ革命 バスチーユ監獄 フランス革命 平民 貴族 (再掲) ベルサイユ宮殿 (再掲) 【工場で働く子どもたち】 寄宿舎 産業革命 資本家 資本主義 『資本論』 社会主義 蒸気機関 蒸気船 大量生産 紡績 ミュール紡績機 マンチェスター 労働組合 労働者 綿織物 (再掲) 【グリム兄弟の願い】 ドイツ帝国 プロイセン王国</p>	<p>【ドルと小判】 一分鉄 豪農 公武合体政策 西陣織 貨幣 (再掲) 生糸 (再掲) 金 (再掲) 攘夷 (再掲) 尊王攘夷運動 (再掲) 長州藩 (再掲) 津波 (再掲) 武士 (再掲) 【下関で、鹿児島で】 奇兵隊 薩英戦争 下関 生麦事件 一揆 (再掲) 打ちこわし (再掲) 薩摩藩 (再掲) 土佐藩 (再掲) 【打ちよせる世直しの波】 ええじゃないか 農兵隊 武州世直し一揆 養蚕 (再掲) 世直し一揆 その日稼ぎ (再掲) 【政治が売り切れた】 会津藩 王政復古の号令 御一新 五箇条の誓文 五榜の掲示 五稜郭 大政奉還 鳥羽・伏見の戦い 戊辰戦争 江戸城 (再掲) 公家 (再掲) 【岩倉使節団が見た世界】 岩倉使節団 条約改正 シンガポール スエズ運河 『米欧回覧実記』 【大名も武士もいなくなった】</p>	<p>【民衆がつくった憲法】 五日市憲法 学芸講談会 集会条例 自由党 秩父事件 東洋大日本国国憲案 立憲改進黨 【天皇主権の憲法】 貴族院 教育勅語 「御真影」 衆議院 臣民 大日本帝国憲法 帝国議会 内閣制度 【北・南を組み込み、国境を引く】 開拓使 樺太千島交換条約 台湾出兵 日清修好条規 日朝修好条規 「北海道旧土人保護法」 「北海道土人教育所」 アイヌ (再掲) 蝦夷地 (再掲) 江華島 (再掲) 千島列島 (再掲) 釜山 (再掲) 【変わる世界の女性たち】 第一次世界大戦 中華民国 電話交換手 【日本と清が、朝鮮で】 鴨緑江 下関条約 尖閣諸島 台湾 台湾民主国 東学 日清戦争 遼東半島 旅順 漢城 (再掲) 【分割される大陸】 義和団戦争</p>	<p>【すべての力を戦争へ】 軍事同盟 サラエボ ざん壕 三国協商 三国同盟 セルビア 戦車 総力戦 同盟国 毒ガス バルカン半島 連合軍 オスマン帝国 (再掲) 【21カ条は認めない】 五・四運動 ストライキ 中国同盟会 21カ条の要求 パリ講和会議 ワシントン会議 【パンを、平和を、土地を】 九カ国条約 国際連盟 シベリア出兵 ソビエト ソ連 パリ不戦条約 平和に関する布告 ペトログラード ベルサイユ条約 民族自決 ロシア革命 ロンドン海軍軍縮条約 【独立マンセー】 『アリラン』 三・一独立運動 非暴力・不服従 エジプト (再掲) 【始まりは女一揆】 木崎村農民組合 小作組合 小作争議 米騒動 日本農民組合 メーデー 労働争議 【女性は太陽だった】 関東大震災</p>	<p>【鉄道爆破から始まった】 関東軍 軍閥 満州国 満州事変 柳条湖 【問答無用、撃て】 五・一五事件 国家総動員法 東京オリンピック 日独防共協定 日中戦争 二・二六事件 【戦火は上海、南京、重慶へ】 抗日民族統一戦線 国民党 三光作戦 南京事件 八路軍 捕虜 盧溝橋 【戦火に追われる人びと】 強制連行 焼夷弾 第二次世界大戦 防空壕 パリシャワ 【東南アジアの日本軍】 アジア太平洋戦争 真珠湾 枢軸国 大東亜共栄圏 大東亜戦争 マレー半島 ロームシャ 【戦争と二人の少女】 『アンネの日記』 占領軍 レジスタンス 【赤紙が来た】 赤紙 鬼畜米英 切符制 国防婦人会 少国民 召集令状 千人針 特高</p>

<p>ベルリン 【アヘンを持ち込むな】 関税自主権 上海 南京条約 賠償金 『風説書』 不平等条約 香港 領事裁判権 アヘン戦争（再掲） 異国船打払令（再掲） 銀（再掲） 広州（再掲） 清（再掲） 朝貢（再掲） 北京（再掲） 琉球（王国）（再掲） 【インド大反乱と太平天国】 インド更紗 インド大反乱 辛亥革命 太平天国 イスラム教（再掲） キリスト教（再掲） 長江（再掲） 南京（再掲） 南蛮貿易（再掲） 火縄銃（再掲） ムガル帝国（再掲） ムスリム（再掲） 【黒船を見に行こう】 浦賀 瓦版 居留地 黒船 下田 日米修好通商条約 日米和親条約 水戸藩 横浜 国書（再掲） 将軍（再掲） 大名（再掲） 朝廷（再掲） 町人（再掲） 那覇（再掲） 百姓（再掲）</p>	<p>華族 華令 士族 士族の反乱 版籍奉還 明治維新 えた（再掲） 皇族（再掲） 肥前藩（再掲） ひにん（再掲） 俸禄（再掲） 【村に学校ができた】 学制 『学問のすゝめ』 義務教育 修身 徴兵令 廃藩置県 寺子屋（再掲） 【竹やりでちよいと突き出す】 小作農 小作料 地券 地租 地租改正 富国強兵 【632日、世界一周の旅】 征韓論 太陽暦 文明開化 【蘭から生まれる】 碓氷社 官営工場 結社 座ぐり器 女学校 殖産興業 西南戦争 鉄道 富岡製糸場 郵便制度 【昔一揆、いま演説会】 国会期成同盟 自由民権運動 民選議院設立建白書 立志社 薩摩（再掲）</p>	<p>山東半島 スーダン 帝国主義 日英同盟 ナイル川（再掲） 【戦場は中国だった】 宣戦布告 租借 竹島 中国東北部 日露戦争 奉天 ポーツマス条約 南満州鉄道（満鉄） 民族独立運動 宣教師（再掲） 【国語をつくる】 カイコ 国語 国定教科書 モンゴル（再掲） 【土地を奪われた朝鮮の農民】 韓国併合 京城 景福宮 憲兵 朝鮮総督府 東洋拓殖会社 土地調査事業 普通学校 天照大神（再掲） 義兵（再掲） ハンデル（再掲） 【生糸と鉄】 『あゝ野麦峠』 軽工業 財閥 重工業 製糸業 八幡製鉄所 絹（再掲） 三井（再掲）</p>	<p>新婦人協会 水平社宣言 全国水平社 『青鞥』 日本共産党 被差別部落 部落差別 【デモクラシーの波】 護憲運動 女性参政権 政党内閣 大正デモクラシー 台湾総督府 治安維持法 ハンセン病 普通選挙法 無産政党 【第8章をふりかえる】 14カ条の平和原則 【大戦の終わりを迎えた世界】 アウシュビッツ強制収容所 強制収容所 空襲 国民政府 重慶 集団疎開 ソウル 大政翼賛会 【チャップリンが来た】 サラリーマン ディズニー映画 「東京行進曲」 『独裁者』 ニューヨーク 『モダンタイムス』 ラジオ放送 【世界中が不景気だ】 学校給食 給食 世界恐慌 ニューディール政策 不景気 ブロック経済 【ヒトラーの独裁が強まる】 ゲルニカ 国民社会主義ドイツ労働者党 ナチ党 日独伊三国同盟 ヒトラー・ユーゲント ファシズム 無差別爆撃 ユダヤ教 ユダヤ人（再掲）</p>	<p>配給制 非国民 【餓死、玉砕、特攻隊】 ガダルカナル島 玉砕 サイパン島 戦陣訓 特攻隊 餓死（再掲） 【町は火の海】 学童疎開 勤労動員 東京大空襲 【荒れ狂う鉄の暴風】 沖繩戦 ガマ 集団自決 対馬丸 鉄血勤皇隊 鉄の暴風 ひめゆりの塔 【にんげんをかえせ】 原子爆弾 原爆ドーム 死の灰 「にんげんをかえせ」 被爆者 広島 長崎（再掲） 【本土決戦か、降伏か】 安全保障理事会 国際連合 国体護持 御前会議 御前会議 日ソ中立条約 ボツダム宣言 松代大本営 博多（再掲）</p>
<p>現代の日本と世界 【今、世界の子どもたちは】 劣化ウラン弾 ストリート・チルドレン タリバン イラク戦争 【焼け跡からの出発】 連合国軍総司令部 農地改革 食糧メーデー 極東国際軍事裁判 軍国主義 財閥解体 GHQ 学校給食（再掲） 空襲（再掲） 小作農（再掲） 衆議院（再掲） 労働組合（再掲） 女性参政権（再掲） ストライキ（再掲） 治安維持法（再掲） 【もう戦争はしない】 日本国憲法</p>	<p>【走れ、ぞう列車】 『山びこ学校』 墨塗り教科書 男女共学 『かわいそうな象』 教育基本法 教育勅語（再掲） 修身（再掲） 東京大空襲（再掲） 土器（再掲） 神話（再掲） 石器（再掲） 占領軍（再掲） 【南北に引き裂かれる】 北緯38度線 冷戦 日米安全保障条約 板門店 大韓民国 中華人民共和国 朝鮮戦争 朝鮮民主主義人民共和国 休戦協定 警察予備隊</p>	<p>【ゴジラの怒り、サダコの願い】 放射能 『はだしのゲン』 ビキニ環礁 水爆実験 第五福竜丸 鉄腕アトム 大阪万国博覧会 原子力基本法 原子力発電 原子力爆禁止世界大会 ゴジラ 原子爆弾（原爆）（再掲） 死の灰（再掲） 万国博覧会（再掲） 被爆者（再掲） 広島（再掲） 【国会を包囲する人波】 所得倍増 安保闘争 55年体制 社会党 自由民主党（自民党）</p>	<p>【基地の中の沖繩】 非核三原則 普天間基地 嘉手納基地 【パレスチナの平和】 石油危機 中東戦争 イスラエル イスラム教（再掲） エルサレム（再掲） キリスト教（再掲） スエズ運河（再掲） 独立宣言（再掲） 不景気（再掲） パレスチナ（再掲） ユダヤ教（再掲） ユダヤ人（再掲） 【問い直される戦後】 日中平和友好条約 日朝平壤宣言 河野洋平官房長官談話 強制収容所（再掲） 強制連行（再掲） 奴隷制度（再掲） 奴隷貿易（再掲）</p>	<p>【持続可能な未来を】 ラダック 非正規雇用者 プータン スマートフォン グローバル化 国民総幸福量 【3月11日午後2時46分】 東日本大震災 避難所 被ばく 福島第一原子力発電所 ヘルノブイリ 原発事故 津波（再掲） 【平和という言葉】 ウイグル 軍人恩給 居留地（再掲） サハリン（再掲） 日露戦争（再掲） 【第10章をふりかえる】 餓死（再掲）</p>

生存権	サンフランシスコ平	那覇 (再掲)	満州事変 (再掲)
戦争放棄	和条約	【豊かさとその代償】	中国残留日本人孤児(再掲)
『あたらしい憲法のはなし』	自衛隊	水俣病	中国東北部 (再掲)
小笠原諸島	国際連合 (国連) (再掲)	四日市ぜんそく	北京 (再掲)
基本的人権	国民党 (再掲)	東海道新幹線	【絶えない戦火】
憲法研究会	小作料 (再掲)	新潟水俣病	ベルリンの壁
義務教育 (再掲)	レジスタンス (再掲)	水質汚濁防止法	ヨーロッパ連合 (EU)
国民主権 (再掲)	ソウル (再掲)	スーパーマーケット	湾岸戦争
自由民権運動 (再掲)	第二次世界大戦 (再掲)	大気汚染防止法	世界貿易センタービル
メーデー (再掲)	朝鮮総督府 (再掲)	太平洋ベルト	大量破壊兵器
連合国 (再掲)	【インドも中国も来なかった】	イタイイタイ病	ASEAN
ソ連 (再掲)	北方領土問題	環境庁	EU
大日本帝国憲法 (再掲)	日韓基本条約	公害	イラク復興支援特別措置法
台湾 (再掲)	日ソ共同宣言	高度経済成長	毒ガス (再掲)
帝国議会 (再掲)	日中共同声明	集団就職	ニューヨーク (再掲)
	アジア・アフリカ会議	紡績 (再掲)	バグダッド (再掲)
	中華民国 (再掲)	出稼ぎ (再掲)	
		【第三世界と東西陣営】	
		ベトナム戦争	
		西側陣営	
		ビートルズ	
		東側陣営	
		非同盟中立	
		人種差別	
		第三世界	
		大量消費社会	
		アフリカの年	
		黒人 (再掲)	
		資本主義 (再掲)	
		社会主義 (再掲)	
		東京オリンピック (再掲)	
		無差別爆撃 (再掲)	

## 別記 3

様式 4 の調査項目④「伝統や文化に関する内容を取り上げたページ」の具体的な内容

発行者	項目名	主な内容	ページ	ページ数	
東書	日本の国宝・重要文化財	日本の国宝・重要文化財	見返し	2	
	日本の世界遺産	日本の世界遺産	見返し	1	
	歴史の流れをとらえよう	平安時代の節分（追儺）と現代の節分、江戸時代の七夕と現代の七夕 等	5	1	
	日本列島の誕生と縄文文化	縄文文化	32-33	2	
	弥生文化と邪馬台国	弥生文化の成立	34	1	
	大王の時代	古墳文化、大陸文化を伝えた渡来人	36-37	2	
	聖徳太子の政治改革	飛鳥文化	39	1	
	天平文化	天平文化、奈良時代の仏教と社会、歴史書と万葉集	46-47	2	
	摂関政治と文化の国風化	国風文化、浄土信仰	50-51	2	
	絵巻物を見てみよう	「伴大納言絵巻」を読み解こう	52-53	2	
	深めよう 現代に受けつがれる神話	「記紀神話」の成立 等	58-59	2	
	鎌倉時代の文化と宗教	鎌倉文化、鎌倉仏教の教え	74-75	2	
	室町文化とその広がり	室町文化、武士の文化の成長、民衆への文化の広がり	86-87	2	
	室町時代の生活文化と現代	衣、食、住	94	1	
	桃山文化	豪華で壮大な文化、ヨーロッパ文化の影響	110-111	2	
	農業や諸産業の発達	南部鉄器のおこり	121	1	
	幕府政治の安定と元禄文化	元禄の学問と文化	124-125	2	
	新しい学問と化政文化	国学と蘭学、化政文化、教育の広がり	130-131	2	
	浮世絵にえがかれた風景から	地域の調べ学習	134-135	2	
	江戸のエコ社会	着物や生活用品のリサイクル、リサイクル商品としての飼料	138	1	
	富国強兵と文明開化	文明開化、新しい思想	164-165	2	
	近代文化の形成	日本の美と欧米の美、新しい文章、学校教育の普及	184-185	2	
	新しい文化と生活	教育の広がり、大衆文化の発展、新しい思想や文化、都市の生活	210-211	2	
	北海道とアイヌ民族の歴史	擦文文化、蝦夷錦	234-235	2	
	マスメディアと現代の文化	戦後の文化とマスメディア、テレビと高度経済成長期の文化、インターネットの発達	256-257	2	
	各地のおもな史跡	日本のおもな史跡	見返し	2	
	絵画資料の見方	絵巻物を読み解く	12-13	2	
	教出	日本列島のあけぼの	縄文時代の始まり、竪穴住居のむら	24-25	2
		楽浪の海中に話人り	稲作の伝来、弥生時代の暮らし、女王の国	26-27	2
		東アジアのなかの大和政権	古墳の出現、渡来人の伝えた文化	28-29	2
		地域の遺跡や古墳を訪ねて	身近な地域を調べる着眼点や学び方	30-31	2
		あつく三宝を敬え	飛鳥文化	35	1
		シルクロードにつながる道	天平文化	39	1
「以呂波」から「いろは」へ		国風文化、浄土へのあこがれ	44-45	2	
神話にみる古代の人々の信仰		日本の神話、古事記に記された黄泉の国の神話 等	48-49	2	
祇園精舎の鐘の声		民衆のくらしと社会の変化、新しい仏教、鎌倉文化	62-63	2	
地域の寺社や墓碑を訪ねて		身近な地域を調べる着眼点や学び方	66-67	2	
北と南で開かれた交易		オホーツク文化と擦文文化	75	1	
今につながる文化の芽生え		とけ合う文化、禅宗と文化、民衆に広まる文化	80-81	2	
城と茶の湯		桃山文化、海外から流入する文化、民衆の文化	102-103	2	
地域の街道や港を訪ねて		身近な地域を調べる着眼点や学び方	116-117	2	
花開く町人文化		元禄文化、民衆の暮らし	118-119	2	
「読み・書き・そろばん」の習い		新しい学問と思想、化政文化、地方の文化と教育	124-125	2	
リサイクル都市・江戸の町人		江戸のにぎわい、リサイクルの知恵	126-127	2	
ザン切り頭をたたいてみれば		文明開化	162-163	2	
アイヌの文化を伝えた人たち		知里幸恵と金田一京助、同化政策と差別、「銀のしづく振る振るまわりに」	171	1	
西洋文化と伝統文化		教育の普及、新しい近代文化の誕生	188-189	2	
モボ・モガの登場		都市の生活、文化の大衆化、新しい学問と	208-209	2	

		文学・芸術			
	大正・昭和初期の面影を訪ねて	身近な地域を調べる着眼点や学び方	210-211	2	
	敗戦からの再出発	国民生活と大衆文化	237	1	
	高度経済成長の光とかげ	国民生活の変化	250	1	
	移り変わる戦後の街を訪ねて	身近な地域を調べる着眼点や学び方	252-253	2	
清水	定住して生きる人びと	日本列島の気候と縄文時代	11	1	
	遺跡から原始の時代を探ろう	原始時代の様子、縄文文化	12-13	2	
	日本列島の文化	弥生時代の暮らし、青銅器と鉄器	22-23	2	
	古墳文化と大和王権の統一	大和王権の支配、渡来人	26-27	2	
	聖徳太子の政治と飛鳥文化	飛鳥文化	33	1	
	律令国家をめざして	白鳳文化	35	1	
	平城京の建設と仏教	仏教の役割	37	1	
	資料を読み取ろう	さまざまな形態の資料、木簡、貴族の食事	38-39	2	
	大陸の影響を受けた文化	天平文化、神話と伝承	42-43	2	
	神話と伝承	「風土記」をつくる、「風土記」の神話と記紀神話、「出雲国風土記」の神話と伝承	44-45	2	
	平安京へ都を移す	平安時代の仏教	47	1	
	国風文化	国風文化の誕生、末法思想と浄土信仰	52-53	2	
	宮廷の女性と仮名文字	宮廷の女官たち、仮名文字で書かれた文学作品	54-55	2	
	絵画資料にみる人びとの生活	一遍上人絵伝、絵巻を読み取ってみよう、絵画のかたち・読み方	68-69	2	
	新しい仏教と鎌倉文化	鎌倉仏教の成立、鎌倉文化と文学、建築や美術の新しいうごき	70-71	2	
	室町時代の文化	室町文化、食生活の変化	86-87	2	
	南蛮文化と桃山文化	南蛮文化、桃山文化	104-105	2	
	江戸のにぎわい	江戸の町と文化、「瀬代勝覧」で江戸の町をみてみよう	122-123	2	
	元禄文化と学問の進歩	元禄文化、芝居と小説、俳諧と美術、学問の発達	126-127	2	
	江戸後期の文化と民衆の暮らし	庶民の生活文化、農村の暮らしと文化、文学と芝居・絵画	136-137	2	
	文明開化と教育の普及	文明開化、新聞と演説、学校教育の普及、洋風風俗のはじまり	172-173	2	
	教育と文化の発展	学校教育の普及、新たな学問と芸術の発展、信仰と国家神道	202-203	2	
	都市化と文化の大衆化	都市化の進行、大衆文化、新しい生活様式	222-223	2	
	明治・大正期の食生活～洋食の成立～	洋食の誕生、食卓の洋風化、外食のはじまり	224-225	2	
	帝国	日本各地の伝統行事と祭り	博多祇園山笠、壬生の花田植、那覇ハーリー、葵祭、相馬野馬追、神田祭 等	見返し	2
		縄文から弥生への変化	土器が生まれた縄文時代、稲作が始まった弥生時代	22-23	2
		鉄からみえるヤマト王権	渡来人	27	1
古墳からわかる当時のようす		古墳文化	28-29	2	
ヤマト王権と仏教伝来		最初の仏教文化	33	1	
大陸の影響を受けた天平文化		天皇・貴族による国際色豊かな文化、聖武天皇と仏教、文字の普及と歴史書	39-41	3	
平安京で花開く貴族文化		羅城門、平安京、寝殿造	44	1	
唐風から日本風へ変わる文化		東アジアの動きと国風文化、かな文字と新しい文学、仏教の新しい動き 等	45-47	3	
武士の気風に合った力強い文化		東大寺南大門、金剛力士像、切り通し、鎌倉のようす	58	1	
武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化		武士の台頭と新しい文化、武士と庶民の心をとらえた鎌倉仏教	59-61	3	
東アジアに開かれた窓口 博多		防衛と貿易を拠点として発達した国際都市、鴻臚館、めん文化の始まり	64-65	2	
琉球とアイヌの人々がつなぐ交易		北海道の独自の文化(擦文文化、アイヌ文化)アイヌの人々と交易	71	1	
はなやかさと素朴さが織りなす芸術		金閣、銀閣、東求堂同仁齋、寺で開かれた連歌のようす	80	1	
庶民に広がる室町文化		北山文化と東山文化、庶民の間に広がった文化、現代につながる生活様式	81-83	3	
豪華絢爛 富があふれた戦乱の世		城の工夫と技術	98	1	
戦国大名と豪商が担った安土桃山文化		戦乱の世の文化、海外から流入した文化の影響、今を楽しむ庶民	99-101	3	
琉球とアイヌの人々の暮らし		大陸との交流と独自の生活・文化	112-113	2	
昆布ロードと北前船	北と南をつなぐ新たな交通路、北前船で運	122-123	2		

		ばれた薬種と薬づくり			
	上方で栄えた町人の元禄文化	町人が育てた元禄文化、現在に続く年中行事と暮らし	124-125	2	
	江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵	「東海道中膝栗毛」、東洲斎写楽がえがいた役者絵、葛飾北斎がえがいた風景画	130	1	
	江戸の庶民が担った化政文化	庶民による化政文化、国学と蘭学、庶民の教育	131-133	3	
	世界有数の百万都市 江戸	人口集中が生み出した再生可能な都市生活	134-135	2	
	人々からみた富国強兵と文明開化	学制の発布、「文明開化」の下で	162-163	2	
	世界に開かれた港 横浜	開港とともに広がった文明開化	164-165	2	
	移住と開拓が進む北海道	近代化をめざした国家の一大プロジェクト、屯田兵村、北海道の開拓、札幌の近代化	170-171	2	
	広がる欧米文化と変化する伝統文化	鹿鳴館、西洋画、日本画	188	1	
	欧米の影響を受けた近代文化	急速に発展する学問と技術、伝統文化と欧米文化、近代化と学校教育	189-191	3	
	流行の最先端をつむぐ人気雑誌の登場	大正時代の書店、1914年に完成した東京駅、大正時代の雑誌	208	1	
	近代都市が生み出した大衆文化	都市化と大衆の登場、大衆に広がる文化、欧米化する人々の生活	209-211	3	
	発展する産業都市 大阪・神戸	近代産業の発展がもたらした都市の拡大、「東洋のマンチェスター」大阪と神戸	212-213	2	
	メディアを通して形づくられていく文化	建設中の東京タワー、設置された街頭テレビに集まる人々	252	1	
	大衆化・多様化する戦後の文化	戦後復興期の文化、高度経済成長による変化、メディアから広がる文化	253-255	3	
	国際社会におけるこれからの日本	世界に広がる日本の伝統と文化	261	1	
日文	歴史との出会い	文化財にふれる、人に学ぶ、現地を訪ねる	見返し	2	
	歴史のとらえ方	人物・できごと・文化遺産を調べるポイント	9	1	
	日本の食生活のルーツを探る	「和食」が世界の遺産になる、「縄文人」たちは何を食べていたのか 等	30-31	2	
	聖徳太子と飛鳥文化	飛鳥文化	37	1	
	奈良時代の暮らし	奈良時代の衣食住	42-43	2	
	国際色豊かな文化	天平文化、万葉集と歴史書	46-47	2	
	平安京	新しい仏教	49	1	
	撰閣政治と国風文化	東アジアの変化と国風文化	51	1	
	平城宮跡を歩く	平城宮の史跡見学	54-55	2	
	鎌倉時代の文化と仏教	鎌倉時代の文化、鎌倉仏教	70-71	2	
	東大寺の再興と重源	源平の内乱と東大寺、東大寺再興に込めた人々の願い	76	1	
	室町時代の文化とその広がり	室町時代の文化、民衆文化の高まり	86-87	2	
	室町時代の暮らし	室町時代の衣食住、文化の広がり・今に続く年中行事	88-89	2	
	秀吉の海外政策	東アジアにおける貿易	110-111	2	
	安土桃山時代の文化	桃山文化	112-113	2	
	江戸の町のように	江戸時代の衣食住	124-125	2	
	江戸時代前期の文化と学問	元禄文化、学問と教育	132-133	2	
	江戸時代後期の学問と文化	国学と蘭学、化政文化	138-139	2	
	文化財を守り伝える仕事	九州国立博物館の取り組み	142-143	2	
	文明開化の展開	国民皆学と学制、国民をつくる、さまざまな文明開化	170-171	2	
	明治時代の暮らし	明治時代の衣食住	172-173	2	
	領土の画定と隣接地域	琉球から沖縄へ、北海道とアイヌの人々	177	1	
	近代社会に日本を見つめ直す	法隆寺夢殿の救世観音の開扉、フェノロサと岡倉天心	180	1	
	社会運動の発展と近代文化の形成	新時代の文化芸術、教育の普及	199	1	
	都市化の進展と大衆文化	都市的生活、文化の大衆化	218-219	2	
	よみがえった東京駅	大正時代にできた東京駅、現在の東京駅ができるまで 等	220-221	2	
	高度経済成長期の暮らし	高度経済成長期の衣食住	262-263	2	
	歴史学習の基礎資料	仏像の種類、絵画資料の見方、文化財の種類	282-284	3	
	自由社	日本の伝統的工芸品	日本の伝統的工芸品	見返し	2
		自然の恵みと縄文文化	豊かな自然の恵み、縄文土器の時代、縄文時代の生活	30-31	2
「和の文化」縄文		三内丸山遺跡	32-33	2	
稲作の広まりと弥生文化		水田稲作の広まり、弥生文化	38-39	2	
仏教伝来		仏教伝来の背景、崇仏論争、帰化人の役割	50-51	2	
飛鳥・天平の文化		飛鳥文化、天平文化	66-67	2	

	平安文化	平安仏教の新しい動き、国風文化、浄土教の広まり	70-71	2
	仏像の見方	如来、菩薩、明王、天	72-73	2
	仮名文字と女流文学	表音文字の発明、仮名の発明と普及、世界に誇る女流文学	74-75	2
	鎌倉文化	鎌倉新仏教、鎌倉時代の文学と美術	102-103	2
	室町文化	北山文化と東山文化、地方や庶民に広がる文化	104-105	2
	宣教師の見た日本人	当時の日本人の様子	120	1
	桃山文化	大名と大商人の文化、庶民の生活と文化、南蛮文化	122-123	2
	綱吉の文治政治と元禄文化	元禄文化、学問の発達	132-133	2
	教育・文化の普及	寺子屋、藩校と私塾、新しい学問の発展	138-139	2
	化政文化	花開く町人文化、浮世絵の海外への影響	144-145	2
	町人が育てた歌舞伎	河原の小屋掛け、東の荒事、西の和事	146	1
	エコロジー都市江戸	百万都市の江戸、完備された上水道、無駄のない資源再生システム	147	1
	浮世絵とジャポニズム	浮世絵と日本ブーム、ゴッホと歌川広重	150	1
	殖産興業と文明開化	文明開化	178-179	2
	幕末・明治期の日本人の生き方	当時の日本人のマナーやモラル	180-181	2
	近代文化の形成	大学創設とおやとい外国人、口語文と近代文学、西洋の美と伝統の美	206-207	2
	文化の大衆化と都市の生活	大正時代の文化、文化の大衆化、都市の生活	222-223	2
	戦後の文化	文学と自然科学、文化の大衆化のいっそうの進展、世界に広がる日本発の文化	268-269	2
育鵬社	日本の美の形	縄文時代から現代の文化遺産	見返し	6
	貴族の生活を見てみよう	「駒篋行幸絵巻」にえがかれた貴族の屋敷	16-17	2
	豊かな自然と縄文文化	縄文時代の始まり、日本列島の豊かな自然と暮らし	20-21	2
	稲作・弥生文化と邪馬台国	弥生文化の成り立ち、弥生時代の国々	28-29	2
	古墳の広まりと大和朝廷	古墳文化の広がり	30-31	2
	大和朝廷と東アジア	帰化人が伝えたもの	35	1
	日本人の宗教観	わが国固有の宗教・神道の特色、外来文化を取り入れてゆく寛容さ	38	1
	飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使	飛鳥文化、白鳳文化	44-45	2
	天平文化	神話と歴史書の完成、奈良の都に咲く仏教文化	48-49	2
	神話に見るわが国誕生の物語	日本の神々の物語、三種の神器と神武天皇、伝説の英雄が活躍する神話	50-51	2
	新しい仏教と国風文化	仏教の新しい動き、国風文化と国文学の発達、浄土教と浄土教芸術	56-57	2
	かな文字の発達	漢字と日本人、文字をつくった日本人	59	1
	奈良・京都の文化遺産を調べてみよう	奈良の仏像、京都の名所	60-61	2
	武士の生活を見てみよう	「一遍上人絵伝」にえがかれた武士の館	68-69	2
	新しい仏教と武士の文化	鎌倉時代の仏教、武士の文化	76-77	2
	室町時代の文化	北山文化と東山文化、今日に伝わる文化	92-93	2
	新興都市・江戸の町づくり	「江戸図屏風」にえがかれた江戸のにぎわい	100-101	2
	雄大で豪華な桃山文化	桃山文化、南蛮文化、民衆の文化	112-113	2
	茶の湯と生け花	日本の精神性と美意識を代表する文化、茶室の奥深さ、茶室に咲く一輪の花	114	1
	綱吉の文治政治と元禄文化	江戸初期の文化、元禄文化、学問の発達	124-125	2
	江戸時代探検！	江戸時代の旅、俳人・松尾芭蕉、武士道、江戸のエコロジー	128-129	2
	藩校と寺子屋	武士の学校・藩校、庶民の学びの場・寺子屋	130-131	2
	江戸の町人文化	江戸の町人文化、浮世絵の黄金時代	140-141	2
	浮世絵の影響	浮世絵の発達、印象派の運動、海を渡った浮世絵	142-143	2
	新しい学問と思想の動き	新しい学問・国学と蘭学	144-145	1
	江戸の技術	平賀源内、田中久重	146	1
	世界文化遺産・富士山と日本人	富士信仰、富嶽三十六景	147	1
	文明開化のようすを見てみよう	「東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図」	154-155	2
	殖産興業と文明開化	急速な西欧化の波	179	1
	大日本帝国憲法の制定と帝国議会	教育勅語の発布	185	1
	西洋文化と明治の文化	芸術の動き、新しい文学のおこり、教育の普及	198-199	2
	「大衆の時代」のようすを見てみ	「東京名所東京停車場之図」にえがかれた	208-209	2

	よう	東京駅		
	文化の大衆化・大正の文化	都市化と文化の大衆化、大正時代の学問と文化	220-221	2
	戦後と現代の文化	戦後の文化、日本文化の国際化と多様化	268-269	2
	世界と日本の世界文化遺産	日本の世界文化遺産	見返し	1
	各地のおもな遺跡・史跡	各地のおもな遺跡・史跡	見返し	2
学び舎	歴史と出会う-6月23日、沖縄で	首里城正殿	5	1
	かわる気候、めぐる季節	縄文文化	26-27	2
	稲作がはじまる	弥生文化	28-29	2
	古墳を見上げるムラ	古墳文化	36-37	2
	蘇我氏と二人の皇子	飛鳥文化	38-39	2
	家族と別れる防人の歌	春の祭り	44	1
	金色にかがやく大仏	奈良時代の文化	46-47	2
	女性作家の登場	平安時代の文化	52-53	2
	おどる聖と念仏札	鎌倉時代の仏教、武士の生活と信仰	66-67	2
	禅の文化、民衆の文化	室町時代の文化	82-83	2
	アジアの海をつなぐ王国	アイヌの人びとがになう北方の交易	85	1
	秀吉と黄金の夢	桃山文化、南蛮文化	100-101	2
	刀より金銀の力	商業の発展、元禄文化	120-121	2
	裏長屋に住む棒手振	江戸の町の暮らし	128-129	2
	人体解剖の驚き	国学、蘭学	132-133	2
	寺子屋の子どもたち	化政文化	134-135	2
	村に学校ができた	学制	174-175	2
	632日、世界一周の旅	文明開化	178-179	2
	北・南を組み込み、国境を引く	アイヌの文化	188	1
	国語をつくる	明治の教育と文化	200-201	2
チャップリンが来た	第一次世界大戦後の文化	224-225	2	

## 別記 4

様式 4 の調査項目⑤ [我が国の領土に関する内容を取り上げているページ] の具体的な内容

者	事項	項目名	取扱い方	タイトル・主な内容	ページ	ページ数
東書	北方領土	田沼の政治と寛政の改革	図版	・北方探検 (択捉島、国後島)	129	1
		外国船の出現と天保の改革	図版	・外国船の出現 (国後島)	132	1
		国境と領土の確定	本文	・「アジアの伝統的な国際関係では、国境線はあいまいでした。(略)」	168-169	2
			解説	・樺太・千島交換条約 (部分要約)		
			図版	・国境の確定 (択捉島)		
			写真 年表	・北方四島 (歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島) ・「明治時代の外交」		
	北海道とアイヌ民族の歴史	本文	・「江戸時代まで『蝦夷地』と呼ばれていた現在の北海道は、古くからアイヌ民族が住む土地でした。(略)」	234	1	
	占領下の日本	本文	・「敗戦後の日本の領土は、ポツダム宣言に基づいて、北海道、本州、四国、九州とその周辺の島々に限られました。(略)」	242	1	
		注記	・「歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方四島の総称です。」			
	緊張緩和と日本外交	注記	・「このとき日本は、北方領土について日本固有の領土であると主張しましたが、ソ連が応じなかったため、平和条約を結ぶことができませんでした。」	250	1	
日本の領土をめぐる問題とその歴史	本文	・「日本は第二次世界大戦跡、周辺の国々と友好を深めてきましたが、その一方で、現在でも領土をめぐる問題をかかえています。(略)」	252-253	2		
	図版 写真	・日本地図 (択捉島) ・戦前の北方領土				
竹島	国境と領土の画定	年表 注記	・「明治時代の外交」(再掲) ・「東シナ海の尖閣諸島は1895年に沖縄県に、日本海の竹島は1905年に島根県に、それぞれ編入されました。」	168-169	2	
	緊張緩和と日本外交	注記	・「韓国との間には竹島の領有権をめぐる問題がありましたが、日韓基本条約でも解決されませんでした。」	251	1	
	日本の領土を巡る問題とその歴史	本文	・「日本は第二次世界大戦跡、周辺の国々と友好を深めてきましたが、その一方で、現在でも領土をめぐる問題をかかえています。(略)」(再掲)	252	1	
		図版 写真 写真 写真 写真	・日本地図 (竹島) (再掲) ・島根県の告示 ・明治時代の竹島 ・あしかの様子 ・あしか漁の許可証			
尖閣諸島	国境と領土の画定	年表 注記	・「明治時代の外交」(再掲) ・「東シナ海の尖閣諸島は1895年に沖縄県に、日本海の竹島は1905年に島根県に、それぞれ編入されました。」(再掲)	168-169	2	
	日本の領土を巡る問題とその歴史	本文	・「日本は第二次世界大戦跡、周辺の国々と友好を深めてきましたが、その一方で、現在でも領土をめぐる問題をかかえています。(略)」(再掲)	252-253	2	
		図版 写真	・日本地図 (尖閣諸島) (再掲) ・かつお節の製造			
領土	国境と領土の確定	資料	・樺太・千島交換条約	168-169	2	
		図版	・国境の確定 (再掲)			
		本文	・「アジアの伝統的な国際関係では、国境線はあいまいでした。(略)」(再掲)			
		本文	・「ロシアと国境問題をかかえていた政府は、蝦夷地の開拓を進めました。(略)」			
		本文	・「琉球王国は、薩摩藩に事実上支配されながら、清にも朝貢するなど、日清の両方に属する関係を結んでいました。(略)」			
	年表 写真 写真	・「明治時代の外交」(再掲) ・屯田兵による開拓 ・尚泰				
緊張緩和と日本外交	本文	・「サンフランシスコ平和条約の問題点の一つは、沖縄がアメリカの統治の下に残されたことでした。(略)」	251	1		

教出	北方領土	年表	年表	・沖縄が日本に復帰する。	巻末	1
		繰り返される政治改革	本文	・「田沼のあと老中になった松平定信は、農村の復興と政治の引きしめに取り組みました。(略)」	123	1
		内と外の危機	図版 図版	・幕末の北方探検(国後島、択捉島) ・日本への外国船の接近(国後島)	142-143	2
		たった四はいで夜も眠れず	注記	・「次いで、イギリス・ロシア・オランダとも和親条約が結ばれました。(略)」	144	1
		智識を世界に求めて	本文	・「琉球王国は江戸時代以来、薩摩藩の支配下にありましたが、同時に清にも朝貢していました。(略)」	165	1
		軍国主義の敗北	本文	・「1945年2月、アメリカ・イギリス・ソ連の首脳は、黒海沿岸のヤルタで会談し、ソ連が日本に参戦することや、千島列島を領有することなどを秘密に取り決めていました。(略)」	228-229	2
		独立から復興へ	本文	・「朝鮮戦争が始まると、アメリカは東アジアでの日本の役割を重んじ、日本との講話を急ぎました。(略)」	244-245	2
			注記	・「ソ連が調印を拒否したことから、千島列島の帰属については平和条約で決められませんでした。(略)」		
			写真	・北海道の東端から見た北方領土		
		隣国と向き合うために	解説	・「歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の北方四島は、1855年の日魯通好条約で確認された日本固有の領土です。(略)」	257	1
図版	・日本地図(歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島)					
写真	・択捉島					
各地の主な遺跡・史跡・できごと	図版	・日本地図(国後島、択捉島、歯舞群島、色丹島)	巻末6	1		
竹島	智識を世界に求めて	年表	・日本の外交と領土の歩み	165	1	
		図版	・日本の外交と領土の歩み(竹島)			
		注記	・「その後、1895年には尖閣諸島を沖縄県に、1905年には竹島を島根県に、それぞれ閣議決定により編入しました。」			
隣国と向き合うために	解説	・「竹島は、日本海に位置する東島や西島などからなる群島で、1905年(明治38)の閣議決定で『竹島』と命名され、島根県に編入された日本固有の領土です。(略)」	257	1		
	図版	・日本地図(竹島)(再掲)				
	写真	・竹島				
尖閣諸島	智識を世界に求めて	年表	・日本の外交と領土の歩み(再掲)	165	1	
		図版	・日本の外交と領土の歩み(尖閣諸島)(再掲)			
		注記	・「その後、1895年には尖閣諸島を沖縄県に、1905年には竹島を島根県に、それぞれ閣議決定により編入しました。」(再掲)			
隣国と向き合うために	解説	・「尖閣諸島は、南西諸島西側に位置する魚釣島、北小島、南小島から成る島々の総称で、1895年の閣議決定で沖縄県に編入された日本固有の領土です。(略)」	257	1		
	図版	・日本地図(尖閣諸島)(再掲)				
	写真	・尖閣諸島				
領土	ザン切り頭をたたいて見れば	コラム	・北海道の開拓とアイヌの人たち	163	1	
		智識を世界に求めて	本文			・「政府は、1871年に清と対等な日清修好条規を結び、国交を開きました。(略)」
	国際関係の変化	本文	・「琉球王国は江戸時代以来、薩摩藩の支配下にありましたが、同時に清にも朝貢していました。(略)」(再掲)	164-165	2	
		図版	・日本の外交と領土の歩み(再掲)			
		年表	・日本の外交と領土の歩み(再掲)			
		コラム	・琉球処分～琉球王国の終わり			
歴史年表	写真	・沖縄復帰記念式典	248-249	2		
	本文	・「サンフランシスコ平和条約の締結後も、アメリカによる統治が続いた沖縄では、1960年に祖国復帰協議会が結成されるなど、住民による復帰運動が続けられていました。(略)」				
清北	欧米諸国の接近と対応	注記	・「奄美群島は1953年、小笠原諸島は1968年に本土復帰を果たしました。」	巻末③	1	
		年表	・沖縄の本土復帰			
		図版	・日本にせまる外国(国後島、択捉島)	132-133	2	

水	方領土	領土の確定と北海道・沖縄	図版	・北方探検（国後島、択捉島）		
			本文	・「こうした時期に成立した明治政府は、国際法にしたがい、国境と自国に属する国民を明確にした。（略）」	178	1
			図版	・明治時代の日本と領土の画定（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）		
		国際社会への復帰	本文	・「朝鮮戦争がおこると、日本に駐留していたアメリカ軍が朝鮮に出動した。（略）」	255	1
			注記	・「日本は固有の領土である北方四島（国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島）の返還をソ連（解体後はロシア連邦）に求め、交渉を続けている。」		
竹島	領土の確定と北海道・沖縄	本文	・「こうした時期に成立した明治政府は、国際法にしたがい、国境と自国に属する国民を明確にした。（略）」（再掲）	178	1	
		図版 注記	・明治時代の日本と領土の画定（竹島）（再掲） ・「尖閣諸島については1885年ころから沖縄県を通して調査をおこない、どの国の支配もおよんでいない土地であることを確認して、1895年に日本の領土とした。（略）」			
尖閣諸島	領土の確定と北海道・沖縄	本文	・「こうした時期に成立した明治政府は、国際法にしたがい、国境と自国に属する国民を明確にした。（略）」（再掲）	178	1	
		図版	・明治時代の日本と領土の画定（尖閣諸島）（再掲）			
		注記	・「尖閣諸島については1885年ころから沖縄県を通して調査をおこない、どの国の支配もおよんでいない土地であることを確認して、1895年に日本の領土とした。（略）」（再掲）			
領土	隣国との関係	本文	・「政府はアジアの隣国とも新しい関係を築こうとした。（略）」	176-177	2	
		図版	・征韓をめぐる西郷隆盛と大久保利通の対立			
		図版	・台湾出兵			
		図版	・日朝修好条規の交渉			
		図版	・外交の歩み			
		図版	・東アジアと江華島			
	領土の確定と北海道・沖縄	本文	・「こうした時期に成立した明治政府は、国際法にしたがい、国境と自国に属する国民を明確にした。（略）」（再掲）	178-179	2	
		図版	・明治時代の日本と領土の確定			
		図版	・北海道で開拓に従事する屯田兵			
		本文	・「政府は、未開墾の広大な土地が残されていた北海道の開拓を重視した。（略）」 ・「琉球王国は、日本と清朝の両方に属していたが、明治政府は1872年にこれを琉球藩とし、清に対しては琉球が日本に属することを認めさせようとした。（略）」			
	写真 図版	・札幌農学校 ・琉球の使節が那覇に帰り着く				
	沖縄の復帰、中国・韓国との関係	本文	・「1951（昭和26）年にサンフランシスコ平和条約がむすばれたのちも、沖縄・奄美・小笠原の諸島はアメリカの軍政下にあったが、1953年に奄美、1968年に小笠原の諸島が日本に返還された。（略）」	264	1	
	年表	年表	・沖縄諸島返還される	巻末	1	
帝国	北方領土	日本を取りまく世界情勢の変化	図版 図版	・外国船の来航（国後島） ・蝦夷地の調査（国後島、択捉島）	147	1
		新たな外交と国境の画定	本文	・「近代の国家は、国境と領土を定め、そこに住む人々を『国民』としました。（略）」	167	1
		図版	・明治初期の日本の国境と外交（択捉島）			
	敗戦からの出発	注記	・「日本が降伏したあとの8月18日に、ソ連軍が千島列島の北東端に位置する占守島から攻めこみ、その結果、北方領土までを占領しました。」	239	1	
	日本の独立と世界の動き	本文	・「アメリカは、朝鮮戦争開始後、日本と講話する方針を示しました。（略）」	244-245	2	
		図版	・日本の戦後の国境（歯舞群島、国後島）			
	日本の領土と近隣諸国	本文	・「日本の領土は明治時代以降、国際法にのっとって画定されてきました。（略）」	246	1	
		解説 解説	・サンフランシスコ平和条約（一部抜粋） ・日ソ共同宣言（一部抜粋）			

		写真 写真 函版	・国後島にあった缶づめ工場の作業場 ・現在の択捉島のスーパー ・北方領土周辺の国境変遷		
竹島	新たな外交と国境の画定	本文 函版	・「近代の国家は、国境と領土を定め、そこに住む人々を『国民』としました。(略)」(再掲) ・明治初期の日本の国境と外交(竹島)(再掲)	167	1
	日本の独立と世界の動き	函版	・日本の戦後の国境(竹島)(再掲)	245	1
	日本の領土と近隣諸国	本文 函版 写真 写真 函版	・「日本はサンフランシスコ平和条約において、樺太の一部や千島列島の権利を放棄しました。(略)」 ・小谷伊兵衛より差出候竹嶋之絵図 ・島根県が発行したあしか狼の許可証 ・隠岐の人たちによる竹島でのあしか狼のようす ・竹島と尖閣諸島の位置	246-247	2
	新たな外交と国境の画定	函版	・明治初期の日本の国境と外交(尖閣諸島)(再掲)	167	1
尖閣諸島	沖縄・北海道と近代化の波	本文	・「江戸時代の琉球は、幕府や薩摩藩の支配を受ける一方、清から国王が任命され、欧米諸国からも独立した王国と認められていました。(略)」	168	1
	日本の独立と世界の動き	函版	・日本の戦後の国境(尖閣諸島)(再掲)	245	1
	日本の領土と近隣諸国	本文 函版 写真	・「尖閣諸島は、日本政府が1885~95年に慎重に調査し、どこの国の領土でもないを確認したうえで、日本の領土に編入しました。(略)」 ・竹島と尖閣諸島の位置(再掲) ・かつお節を干す風景	247	1
	新たな外交と国境の画定	本文 本文 資料 函版	・「新政府は、1871年、清と対等な条約である日清修好条規を結んで正式に国交を開き、領事裁判権をたがいに認めました。」 ・「近代の国家は、国境と領土を定め、そこに住む人々を『国民』としました。(略)」(再掲) ・日清修好条規、日朝修好条規 ・明治初期の日本の国境と外交(再掲)	166-167	2
領土	沖縄・北海道と近代化の波	本文 函版 コラム 写真 写真 本文 函版	・「江戸時代の琉球は、幕府や薩摩藩の支配を受ける一方、清から国王が任命され、欧米諸国からも独立した王国と認められていました。(略)」 ・石垣島の養老式典 ・沖縄をめぐるさまざまな意見 ・人頭税石 ・日本化した那覇のようす ・「蝦夷地は、1869年に北海道と改称されました。(略)」 ・屯田兵の出身地	168-169	2
	移住と開拓が進む北海道	本文 写真 写真 函版 本文 函版 写真 グラフ コラム 写真	・「1869(明治2)年、新政府は北海道の行政と開拓を担当する官庁として開拓使を設置し、本格的な開発に着手しました。(略)」 ・屯田兵の人形 ・現在の札幌市西区にあった琴似屯田兵村と復元された琴似屯田兵村の家屋 ・1887年ごろの札幌 ・「開拓は、全国からさまざまな理由で移住した人々によって行われました。(略)」 ・北海道の開拓 ・開拓使長官の黒田清隆と開拓使札幌本庁舎 ・北海道の人口の変化 ・札幌の近代化	170-171	2
	冷戦下での日本とアジア	本文 注記	・「サンフランシスコ平和条約でアメリカ統治下におかれた沖縄では、長い間、復帰運動が行われていました。(略)」 ・「奄美群島は1953年に、小笠原諸島は1968年に日本に返還されました。」	248-249	2
	歴史年表3	年表	・沖縄の日本復帰	VI	1
	日本の歴史	年表	・沖縄の日本復帰	後見返し	1
	日 文 北 方 領 土	ゆらぐ幕府の支配	函版 函版	・主な外国船の接近(国後島) ・幕府の北方調査(色丹島、国後島、択捉島)	158
領土の画定と隣接地域		本文	・「1871(明治4)年、政府は不平等条約を改正するために岩倉具視を中心とする使節団を欧米に送りました。(略)」	176	1
日本の朝鮮支配と中国の近		函版	・日本の領土拡大	194	1

	代化				
	国際社会への復帰	本文	・「朝鮮戦争でアジアの緊張が高まると、アメリカは、日本との講話を急ぐようになりました。(略)」	259	1
		注記	・「日本は北方領土(国後島・択捉島・歯舞群島・色丹島)は日本固有の領土であると主張しましたが、ソ連は応じませんでした。(略)」		
	日本を取り巻く国際関係	図版	・占領地の日本復帰と近隣諸国との関係(択捉島、色丹島、国後島、歯舞群島)	265	1
竹島	領土の画定と隣接地域	図版 注記	・明治初期の外交と国境の画定(竹島) ・「政府は、国際的な決まりに従って、尖閣諸島を1895年に沖縄県、竹島を1905年に島根県に編入して日本の領土としました。」	176	1
	日本を取り巻く国際関係	コラム 図版	・韓国・中国との国交正常化と現在の課題 ・占領地の日本復帰と近隣諸国との関係(竹島)(再掲)	265	1
尖閣諸島	領土の画定と隣接地域	図版 注記	・明治初期の外交と国境の画定(尖閣諸島)(再掲) ・「政府は、国際的な決まりに従って、尖閣諸島を1895年に沖縄県、竹島を1905年に島根県に編入して日本の領土としました。」(再掲)	176	1
	日本を取り巻く国際関係	コラム 図版	・韓国・中国との国交正常化と現在の課題(再掲) ・占領地の日本復帰と近隣諸国との関係(尖閣諸島)(再掲)	265	1
領土	領土の画定と隣接地域	本文 図版 本文 本文 図版 図版	・「1871(明治4)年、政府は不平等条約を改正するために岩倉具視を中心とする使節団を欧米に送りました。(略)」(再掲) ・明治初期の外交と国境の画定(再掲) ・「琉球王国は、江戸時代には薩摩藩の支配を受けながら、清にも朝貢して国王に任命されるという関係が続けていました。(略)」 ・「政府は、1869年に開拓使という役所をおき、蝦夷地を北海道と改めて多様な開拓事業を進めました。(略)」 ・屯田兵による北海道の開拓 ・尚泰	176-177	2
	近代的な国際秩序への参加	本文 図版	・「近代という時代は、このように欧米の『文明国』が、アジアなどの『半未開国』、自国の植民地である『未開』の地を支配し、従属させるという関係をつくり出しながら、世界の資本主義化をおしすすめていった時代でもあったのです。(略)」 ・琉球処分との関係地図	178-179	2
	日本をとりまく国際関係	本文 図版	・「サンフランシスコ平和条約のもとで、アメリカの占領下にあった奄美群島が1953年に、次いで小笠原諸島が1968年に、日本に返還されました。(略)」 ・占領地の日本復帰と近隣諸国との関係(再掲)	265	1
	歴史年表	年表	・沖縄が日本にかえる	巻末8	1
	幕府政治の動揺	図版	・欧米諸国の船が目撃された数(国後島、択捉島)	148	1
	近隣諸国との国境画定	本文 図版	・「明治維新をなした日本は、近代国民国家の建設をめざした。(略)」 ・樺太・千島交換条約(択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島)	172	1
第一次世界大戦と日本の参戦	図版	・第一次世界大戦での日本の参戦とその結果	213	1	
大東亜戦争(太平洋戦争)	図版	・大東亜戦争(太平洋戦争)の展開	239	1	
戦時国際法と戦争犯罪	本文	・「8月9日、ソ連は日本との中立条約を破って、満州・樺太に侵攻し、日本の民間人に対して略奪、暴行、殺害をくり返しました。(略)」	248	1	
占領下の日本	本文	・「日本の領土は、ポツダム宣言によって、北海道、本州、四国、九州およびその周辺の島々に限られることになった。(略)」	252	1	
独立の回復と米ソ冷戦	本文 注記	・「朝鮮戦争をきっかけに、アメリカは、基地の存続などを条件に、日本の独立を早めようと考えた。(略)」 ・「北方領土は第二次世界大戦後日本で使われるようになった言葉で、択捉島、国後島、歯	258	1	

竹島	21世紀の日本の進路	本文	舞群島、色丹島の北方4島の範囲を指す。」 ・「朝鮮半島は近代日本の国防の焦点だったが、北朝鮮では今でも朝鮮労働党と金一族の専制支配のもと、核とミサイルの開発を進め、東アジアの不安定要因となっている。(略)」	272-273	2
		注記	・「竹島は江戸時代には鳥取藩の人が幕府の許可を得て漁業を行っていた。(略)」		
尖閣諸島	21世紀の日本の進路	本文	・「米ソ冷戦の終結によって、世界規模の核戦争の危険は遠のいたが、民族や宗教の対立、社会体制の違いに基づく紛争やテロの脅威は、その後もなくなっていない。(略)」	272	1
		注釈	・「尖閣諸島は1885年からの調査に基づき、1895年日本政府がどの国にも属していないことを確認し、閣議決定して日本領土に編入した。(略)」		
領土	近隣諸国との国境画定	図版	・近隣諸国との国境画定	172-173	2
		図版	・樺太・千島交換条約(1875年)(再掲)		
		本文	・「明治維新をなしとげた日本は、近代国民国家の建設をめざした。(略)」(再掲)		
		本文	・「日本は、清との国交樹立のため、1871(明治4)年、国際法の原理に基づく、両国対等の関係を定めた日清修好条規を結んだ。(略)」		
		図版	・琉球国王を「琉球藩主」に任命する文書をもって那覇港に入った使節団一行		
		コラム	・華夷秩序と国際法秩序		
	図版	・台湾の原住民			
	資料	・日清修好条規			
	琉球処分とは何か	本文	・「奄美や沖縄を中心にした南島地域の人々の主な祖先は、縄文時代に九州からわたっていった人々です。(略)」	174	1
	日本の近代化とアイヌ	本文	・「蝦夷地(北海道)では、日本全土が農耕社会に変わってからも、狩猟採集の社会を維持しました。(略)」	175	1
朝鮮との外交と征韓論	本文	・「朝鮮との外交では、明治政府は、維新直後の1868(明治元)年、新たに国交を結ぶため、使節団を派遣した。(略)」	176	1	
	注記	・「日本の国書の中にあつた『皇』『勅』『朝廷』などの文字は、中国の皇帝のみが属国に対して使うことのできるもので、日本が朝鮮を属国にする野望を示すものであると朝鮮側は主張した。(略)」			
世界の奇跡・高度経済成長	本文	・「東南アジア諸国との戦後賠償は順次解決がはかられてきた。(略)」	261	1	
	写真	・沖縄本土復帰記念式典に出席された昭和天皇と皇后			
100字用語解説	解説	・沖縄本土復帰	278	1	
歴史年表③	年表	・アメリカの施政下にあつた沖縄が本土復帰	巻末	1	
育鵬社 北方領土	欧米諸国の接近	本文	・「18世紀末になると、わが国の周辺にも外国船が姿をあらわすようになりました。(略)」	136-137	2
		注記	・「1811年、幕府は国後島に上陸したロシア軍艦隊長ゴローウニンを捕らえ、ロシアは海運商人高田屋嘉兵衛を捕らえた。(略)」		
		図版	・北方探検地図(国後島、択捉島)		
	図版	・おもな外国船の接近(国後島)			
	明治初期の外交と国境の画定	本文	・「新政府にとって最初の外交課題は、近隣の国々と国境を取り決め、正式な国交を結ぶことでした。(略)」	172-173	2
		図版	・樺太・千島をめぐる国境の画定(歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島)		
		コラム	・わが国固有の領土である国境の島々		
	学習のまとめ④	図版	・日本地図(北方四島)	203	1
	戦争の終結	注記	・「ソ連軍は終戦後に択捉島以南に侵攻し、ソ連がロシアになった今日にいたるまで不法占拠している(北方領土問題)」	241	1
	日本の現状とこれから	本文	・「憲法や外交、防衛、教育など戦後の国のあり方をめぐる問題は常に議論になり、しくみの見直しが徐々に進んでいます。(略)」	273	1
各地のおもな遺跡・史跡	図版	・日本地図(国後島、択捉島)	後見返し④	1	
竹島	明治初期の外交と国境の画定	図版	・近隣諸国との国境画定(竹島)	173	1
		コラム	・わが国固有の領土である国境の島々(再掲)		
日本の現状とこれから	本文	・「憲法や外交、防衛、教育など戦後の国のあ	273	1	

			り方をめぐる問題は常に議論になり、しくみの見直しが徐々に進んでいます。(略)」(再掲)		
尖閣諸島	明治初期の外交と国境の画定	図版 コラム	・近隣諸国との国境画定(尖閣諸島)。(再掲) ・わが国固有の領土である国境の島々(再掲)	173	1
	日本の現状とこれから	本文	・「憲法や外交、防衛、教育など戦後の国のあり方をめぐる問題は常に議論になり、しくみの見直しが徐々に進んでいます。(略)」(再掲)	273	1
領土	明治初期の外交と国境の画定	本文	・「新政府にとって最初の外交課題は、近隣の国々と国境を取り決め、正式な国交を結ぶことでした。(略)」(再掲)	172-173	2
		本文	・「1871(明治4)年、日清修好条規が結ばれ、清との正式な国交が始まりました。」		
		本文	・「江戸時代、わが国と朝鮮は通信使などを通して良好な関係にありました。(略)」		
		注記	・「北海道の行政や開発を担当した行政機関。(略)」		
		図版	・屯田兵による北海道開拓		
		図版	・樺太・千島をめぐる国境の画定(再掲)		
		写真	・当時の屯田兵屋		
		図版	・近隣諸国との国境画定(再掲)		
		図版	・征韓論をめぐる対立		
		図版	・台湾出兵の図		
		資料	・日朝修好条規		
	冷戦と昭和時代の終わり	本文	・「わが国は1965(昭和40)年、韓国と日韓基本条約を結び、韓国政府を朝鮮半島にあるただ一つの合法的な政府として認めました。(略)」	264	1
		写真	・沖縄本土復帰記念式典		
	年表	年表	・沖縄復帰	巻末	1
学び舎	北の海から来た昆布	図版	・蝦夷錦と昆布の交易ルート(クナシリ)	123	1
	外に危機、内にも悩み	図版	・日本に接近する外国船(国後島)	138	1
	北・南を組み込み、国境を引く	本文	・「明治維新まで、現在の北海道は蝦夷地とよばれていました。(略)」	188-189	2
		図版	・日本の領土画定と外交		
	インドも中国も来なかった	本文	・「アメリカは日本との講話を急ぎました。(略)」	267	1
		解説	・「日本政府は、北方四島は日本固有の領土であり、その帰属の問題を解決してロシアとの平和条約を結ぶとの基本方針にもとづいて交渉を行っている。」		
	歴史地図	図版	・日本地図(色丹島、歯舞群島、国後島、択捉島)	見返し	1
竹島	戦場は中国だった	解説	・「日本政府は、1905年1月、竹島を日本の領土(島根県)として編入することを、閣議で決定した。」	199	1
尖閣諸島	日本と清が、朝鮮で	解説	・「日本政府は、1895年1月、尖閣諸島を日本の領土(沖縄県)として編入することを、閣議で決定した。」	195	1
領土	北・南を組み込み、国境を引く	本文	・「明治維新まで、現在の北海道は蝦夷地とよばれていました。(略)」(再掲)	188-189	2
		図版	・日本の領土画定と外交(再掲)		
		本文	・「江戸時代まで、現在の沖縄県には琉球王国がありました。(略)」		
		本文	・「江戸時代、日本と清とは、長崎で交易していましたが、正式の外交はありませんでした。(略)」		
		写真	・首里城の正面に立つ日本軍(1879年)		
		注記	・台湾出兵		
		写真	・清に亡命した琉球の人びと		
		図版	・江華島付近の砲台を攻撃する日本軍		
	基地の中の沖縄	本文	・「1960年代後半、ベトナム戦争が激しさを増すなか、沖縄では、祖国復帰を求める運動が高まりました。(略)」	276-277	2
	年表	年表	・沖縄が日本に復帰する	312	1

※事項欄の「北方領土」は北方領土に関する記述、「竹島」は竹島に関する記述、「尖閣諸島」は尖閣諸島に関する記述、「領土」は明治初期における領土の確定で取り扱う内容(ロシアとの領土の確定、琉球の問題、北海道の開拓、中国や朝鮮との外交)、沖縄返還を対象とした。(北方領土、竹島、尖閣諸島に関する記述と同じ箇所を取り上げた場合は再掲と示した。)

## 別記 5

様式 4 の調査項目⑥「自然災害及び防災に関する内容を取り上げた特集やコラム」の具体的な内容

発行者	項目名	主な内容	ページ	ページ数
東書	幕府政治の安定と元禄文化	・江戸の火消し	125	1
	新しい文化と生活	・関東大震災	211	1
	町の歴史から将来を考える	・福島県いわき市を題材とした身近な地域の将来を提案する学習の着眼点や学び方	264-267	4
	歴史の中の大震災	・古代から近世までの震災 ・三陸沖地震 ・関東大震災と復興都市計画 ・阪神・淡路大震災とボランティア ・東日本大震災と子どもたち	270-271	2
教出	連判状にまとまる人々	・野國總管と青木昆陽～飢饉から人々を救った甘藷（さつまいも）	121	1
	モボ・モガの登場	・関東大震災	209	1
	後藤新平と杉原千畝	・関東大震災と後藤新平 ・現在につながる復興事業	230	1
	私たちの生きる時代へ	・東日本大震災	259	1
清水	私たちの住む日本列島	・おもな災害 ・減災のための伝承	⑥⑦	2
	戦国大名の登場	・武田信玄の領国支配～信玄堤（山梨県）～	97	1
帝国	全国に広がる下剋上	・自然を生かした信玄堤	79	1
	安定する社会と諸産業の発達	・森林伐採と植林	119	1
	変わる都市と農村	・公害の登場 足尾鉍毒事件	187	1
	近代都市が生み出した大衆文化	・大都市を襲った関東大震災	211	1
	国際社会におけるこれからの日本	・環境問題や災害に生かす知恵と技術	260	1
日文	信玄堤	・戦国大名と治水事業 ・武田信玄の治水事業	91	1
	江戸の町のようす	・江戸の町火消し	125	1
	都市化の進展と大衆文化	・関東大震災	219	1
	災害の歴史に学び、私たちの未来に活かす	・災害への備えを過去から考える ・津波被害を伝える石碑 ・私たちにできること～東日本大震災の教訓を伝える～	274-275	2
自由社	幕府政治の展開	・青木昆陽	143	1
	東日本大震災と日本人	・世界から絶賛された日本人の行動 ・自己犠牲の精神と天皇陛下のお言葉 ・歴史に育まれた日本文化の特質	276	1
育鵬社	戦国大名の富国策～信玄堤	・洪水から領国と領民を守るために ・信玄堤のすぐれた土木技術 ・治水事業がもたらした領国の安定	90	1
学び舎	地頭が村にやってきた	・気候の変動と大ききん	71	1
	ドルと小判	・安政の大地震	161	1
	女性は太陽だった	・関東大震災	217	1
	3月11日午後2時46分	・原発事故は警告されていた	287	1

発行者	項目名	社会的事象	主な内容	ページ	ページ数
東書	民主化と日本国憲法	人権問題	部落解放運動、北海道アイヌ協会	245	1
	冷戦の開始と植民地の解放	国際紛争 国際協力 食糧問題	国際連合、朝鮮戦争、アフリカの年、飢餓、南北問題	246-247	2
	独立の回復と55年体制	国際協力	原水爆禁止運動	249	1
	緊張緩和と日本外交	国際紛争 国際協力	ベトナム戦争、アジア・アフリカ会議	250	1
	日本の高度経済成長	環境問題 資源・エネルギー問題 人口減少問題	公害問題、公害対策基本法、環境庁、石油危機、過疎化	255	1
	冷戦後の国際社会	国際紛争 国際協力	旧ユーゴスラビアの内戦、湾岸戦争、同時多発テロ、アフガニスタン攻撃、イラク戦争、パレスチナ問題、主要国首脳会議、ヨーロッパ連合、アジア太平洋経済協力会議、国連の平和維持活動、NGO	258-259	2
	変化の中の日本	国際協力 拉致問題	国連平和維持活動に参加する自衛隊、拉致問題	260	1
	持続可能な社会に向けて	人権問題 人口減少問題 環境問題	部落差別、アイヌの人々・在日韓国・朝鮮人、外国人労働者に対する差別、少子高齢社会、女子差別撤廃条約、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、地球温暖化	262-263	2
	現代の環境問題とその克服	環境問題	四大公害病	268-269	2
	人類の歴史とエネルギー	資源・エネルギー問題 環境問題	エネルギーの使用量の変化、原子力の登場と環境	272-273	2
教出	敗戦からの再出発	人権問題	部落解放運動、北海道アイヌ協会	237	1
	冷たい戦争のはじまり	国際紛争 国際協力 食糧問題	中東戦争、アジア・アフリカ会議、飢餓	241	1
	38度線の緊張	国際紛争 人権問題	朝鮮戦争、在日韓国・朝鮮人	242-243	2
	独立から復興へ	国際協力	原水爆禁止運動	245	1
	自主・独立・平和を求めて	国際紛争 国際協力	ベトナム戦争、ブラハの春、キューバ危機、中東の紛争、ヨーロッパ共同体	246-247	2
	高度経済成長の光とかけ	人口減少問題 環境問題 資源・エネルギー問題	過密と過疎、公害の発生、公害対策基本法、環境庁、石油危機	251	1
	移り変わる戦後の街を訪ねて	環境問題 資源・エネルギー問題	大気汚染、臨海部に位置するメガソーラー	252-253	2
	変動する国際社会	国際協力 国際紛争	ヨーロッパ連合、湾岸戦争、同時多発テロ、アフガニスタン攻撃、イラク戦争、国連平和維持活動、イスラエルとパレスチナの紛争、アラブの春	254-255	2
	隣国と向き合うために	拉致問題	拉致被害者の帰国	256	1
	私たちの生きる時代へ	資源・エネルギー問題	福島第一原子力発電所の事故	259	1
	未来をひらくために	人口減少問題 環境問題 人権問題 国際協力	少子高齢化、地球環境問題、青年海外協力隊、部落差別撤廃、アイヌの人たちや在日外国人、外国人労働者への差別や偏見、女性や子ども、障がいのある人々や高齢者などの人権	260-261	2
	平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」	国際協力	国連軍縮特別総会、オリンピック	262-263	2

発行者	項目名	社会的事象	主な内容	ページ	ページ数
清水	民主化をめざして	人権問題	部落解放運動	249	1
	第二次世界大戦後の世界	国際紛争 国際協力	国際連合、インドシナ戦争	252-253	2
	国際社会への復帰	国際紛争	朝鮮戦争	254	1
	戦後の平和運動	国際協力	原水爆禁止世界大会	257	1
	冷戦下の世界	国際紛争 国際協力	キューバ危機、ベトナム戦争、アジア・アフリカ会議、中東戦争	258-259	2
	高度経済成長とその後の日本	資源・エネルギー問題 環境問題 国際協力 人口減少問題	公害病、公害対策基本法、環境庁、石油危機、主要先進国首脳会議、過疎化と過密化	260-261	2
	沖縄の復帰、中国・韓国との関係	拉致問題	日本人の拉致事件	265	1
	冷戦後の世界	国際協力 国際紛争	ヨーロッパ共同体、ヨーロッパ連合、APEC、テロ、地域紛争、湾岸戦争、パレスチナ問題、六カ国協議、イラク戦争	268-269	2
現代の日本	資源・エネルギー問題 国際協力 人権問題 人口減少問題	原子力発電所の損壊、国連平和維持活動等協力法、少子高齢化、性別を理由とした差別を禁じた法律の制定	270-271	2	
今後の課題	人権問題 環境問題 国際協力	移民などに対する人権侵害、地球環境問題、放射性物質に汚染された地域の除染、男女平等、部落問題、障がい者の社会参加、アイヌに対する偏見、国際協調の維持	272-273	2	
帝国	冷たい戦争とその影響	国際紛争 国際協力	国際連合、朝鮮戦争、原水爆禁止世界大会	242-243	2
	日本の独立と世界の動き	人権問題 国際協力	在日韓国・朝鮮人、アジア・アフリカ会議、アフリカの年	245	1
	冷戦下での日本とアジア	国際紛争	ベトナム戦争、キューバ危機	248	1
	経済成長による日本の変化	環境問題 資源・エネルギー問題 国際協力 国際紛争 人口減少問題	公害対策基本法、環境庁、石油危機、石炭から石油への大転換、中東戦争、先進国首脳会議、過密と過疎	250-251	2
	大衆化・多様化する戦後の文化	人権問題	女子差別撤廃条約、男女雇用機会均等法	254	1
	グローバル化が進む世界	国際協力 国際紛争 人権問題	アイヌ文化振興法、ヨーロッパ連合、湾岸戦争、国連平和維持活動、同時多発テロ、イラク戦争	256-257	2
	激変する日本とアジア	国際協力 拉致問題	エルトゥールル号のきずな、拉致被害者の帰国	259	1
	国際社会におけるこれからの日本	環境問題 国際協力 資源・エネルギー問題	電気自動車、福島原発の事故、地球温暖化、政府開発援助、非政府組織	260-261	2
日文	第二次世界大戦後の世界と日本	国際協力 人権問題	国際連合、部落解放全国委員会、北海道アイヌ協会	248-249	2
	占領下の日本と国民の生活	人権問題	シベリア抑留、中国残留孤児	253	1
	冷たい戦争と世界の動き	国際紛争 国際協力	朝鮮戦争、アジア・アフリカ会議、アフリカの年、原水爆禁止運動	256-257	2
	高度経済成長	環境問題 資源・エネルギー問題 人口減少問題	エネルギー転換、公害問題、公害対策基本法、環境庁、過疎・過密	260-261	2
	日本をとりまく国際関係	拉致問題		264	1
	多極化する世界と日本	国際紛争 国際協力	ベトナム戦争、アフガニスタン侵攻、ヨーロッパ共同体、同時多発テロ、アフガニスタン攻撃、イラク軍事介入、ヨーロッパ連合、主要先進国首脳会議	266-267	2
	先進国日本の課題	資源・エネルギー問題	石油危機、福島第一原子力発電所のメルトダウン	268-269	2
	21世紀と日本の役割	国際協力 環境問題 人権問題 拉致問題	国連平和維持活動、オゾン層の破壊や地球温暖化、地球の砂漠化、大気汚染の拡大、公害防止や環境保全、部落差別、障がい者、在日韓国・朝鮮人、外国人労働者、アイヌの人びとへの差別や偏見、男女差別、男女格差、北朝鮮から帰国した拉致被害者	270-271	2
	アイヌの人々の20世紀とこれから	人権問題	アイヌ文化振興法、先住民族の権利に関する国際連合宣言、アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議	272	1
公害克服の歴史を調べる	環境問題	北九州市環境ミュージアム、国内の環境問題の取組	276-277	2	

発行者	項目名	社会的事象	主な内容	ページ	ページ数
自由社	占領政策の転換と朝鮮戦争	国際紛争 国際協力	国際連合、朝鮮戦争	256-257	2
	世界の奇跡・高度経済成長	環境問題	公害問題、環境庁	261	1
	冷戦の推移と日本の経済発展	国際紛争 資源・エネルギー問題	ベトナム戦争、石油危機、省エネルギー技術	264-265	2
	冷戦の終結と共産主義の崩壊	国際紛争	アフガニスタン軍事侵攻、湾岸戦争、同時多発テロ、イラク戦争	270-271	2
	21世紀の日本の進路	国際紛争 環境問題 拉致問題	中国による民族弾圧と周辺地域との紛争、中国の大気汚染、拉致問題	272-273	2
	勇気と友情の物語	国際協力	エルトゥールル号事件、八田ダム	274-275	2
	歴史豆辞典	資源・エネルギー問題 国際紛争	朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争、石油危機、湾岸戦争	278	1
育鵬社	朝鮮戦争と日本の独立回復	国際紛争 国際協力	国際連合、朝鮮戦争、アジア・アフリカ会議	258-259	2
	冷戦と日本	国際紛争	ハンガリー動乱、キューバ危機、ベトナム戦争	260-261	2
	世界の奇跡・高度経済成長	環境問題 人口減少問題	公害対策基本法、環境庁、過疎化	263	1
	冷戦と昭和時代の終わり	国際紛争 資源・エネルギー問題	石油危機、チェルノブイリ原発事故、ODA、アフガニスタン侵攻	264-265	2
	冷戦の終結	国際紛争	世界各地の紛争	267	1
	地域紛争とグローバル化	国際紛争 国際協力 環境問題	湾岸戦争、国連の平和維持活動、アメリカ同時多発テロ、地球温暖化、主要国首脳会議、ヨーロッパ連合	270-271	2
	日本の現状とこれから	資源・エネルギー問題 人口減少問題 国際協力 拉致問題	福島原発の事故、エネルギー政策、少子高齢化、青年海外協力隊、拉致事件	272-273	2
	歴史のロールプレイをしてみよう	国際協力	エルトゥールル号事件の恩返し	278	1
学び舎	もう戦争はしない	人権問題	基本的人権の尊重	260	1
	南北に引き裂かれる	国際紛争	朝鮮戦争	264-265	2
	国会を包囲する人波	人権問題	生存権保障	271	1
	豊かさとその代償	環境問題	公害	273	1
	ゴジラの怒り、サダコの願い	国際協力 資源・エネルギー問題	原水爆禁止世界大会、原子力平和利用博覧会、原子力発電	268-269	2
	第三世界と東西陣営	国際紛争 人権問題	アフリカの年、ベトナム戦争、人種差別撤廃	274-275	2
	パレスチナの平和	国際紛争 資源・エネルギー問題	パレスチナ地域の動き 石油危機	278-279	2
	問い直される戦後	人権問題	戦時下や植民地支配下での人権侵害の問い直し	280-281	2
	絶えない戦火	国際紛争 国際協力	湾岸戦争、アフガニスタン攻撃、イラク戦争、EU、ASEAN、APEC	282-283	2
	持続可能な未来を	国際協力	JICA、NGO、パシフィック会	285	1
	3月11日午後2時46分	資源・エネルギー問題	福島原発、チェルノブイリ原発事故	286-287	2
	平和という言葉	人権問題	ウィルタ民族	288-289	2

## 別記 7

様式 4 の調査項目⑨「北海道に関する歴史的事象」の具体的な内容

著者	題	項目名(該当ページ)	取扱い方	タイトル・主な内容
東書	アイヌの人たちの歴史と文化等	現代に受けつがれる神話(58)	本文 写真 写真	・「日本の神話は、朝廷によってまとめられ、今に伝えられている点に特徴があります。(略)」 ・カムイユカラを記したノート ・知里幸恵
		東アジアとの交易(81)	本文 図版 写真	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が13世紀から狩りや漁、交易を行っていました。(略)」 ・道南十二館(大館、花沢館、茂別館、志苔館、箱館) ・発掘された銭(函館校外の志苔館遺跡近くで発掘)
		鎖国下の対外政策(119)	本文 図版	・「蝦夷地(北海道)には、アイヌ民族が住んでいました。(略)」 ・蝦夷錦を着たアイヌの首長
		国境と領土の策定(168-169)	本文 図版	・「ロシアとの国境問題をかかえていた政府は、蝦夷地の開拓を進めました。(略)」 ・明治時代初期のアイヌ民族
		広がる社会運動と普通選挙の実現(209)	本文	・「部落差別に苦しむ被差別部落の人々も、政府にたよらず、自力で人間としての平等を勝ち取り、差別からの解放を目指す運動(部落解放運動)を進めました。(略)」
		北海道とアイヌ民族の歴史(234-235)	本文 写真 写真 図版 解説	・「江戸時代まで『蝦夷地』と呼ばれていた現在の北海道は、古くからアイヌ民族が住む土地でした。(略)」 ・擦文土器 ・蝦夷錦 ・にしん漁でにぎわう江差の港 ・北海道旧土人保護法(部分要約)
		民主化と日本国憲法(245)	本文	・「国民の間からも、民主化に向けた動きが高まりました。(略)」
		持続可能な社会に向けて(262)	本文	・「深刻な被害をもたらした1995(平成7)年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災は、私たちに防災やエネルギー面での課題に気づかせる一方で、地域の絆とボランティア活動の重要性を明らかにしました。(略)」
		用語解説(280)	解説	・同化政策
		年表	年表 年表	・日本の主な出来事(アイヌ文化振興法成立) ・日本の主な出来事(アイヌ民族を先住民とすることを求める国会決議)
		道内の市町村等		日本の世界遺産(見返し)
日本列島の誕生と縄文文化(32)	図版			・旧石器時代の交易(赤井川、白滝、置戸、十勝)
東アジアとの交流(81)	図版 写真			・道南十二館(大館、花沢館、茂別館、志苔館、箱館)(再掲) ・発掘された銭(函館校外の志苔館遺跡近くで発掘)(再掲)
鎖国下の対外政策(118-119)	図版 本文 図版			・鎖国下の窓口(松前藩) ・「蝦夷地(北海道)には、アイヌ民族が住んでいました」(再掲) ・蝦夷錦を着たアイヌの首長(函館市中央図書館蔵)(再掲)
田沼の政治と寛政の改革(129)	本文 図版			・「1787年には、江戸や大坂で大規模な打ちこわしが起こりました。(略)」 ・北方探検(宗谷、石狩、松前、函館、厚岸、根室)
外国船の出現と天保の改革(132)	図版			・外国船の接近(厚岸、根室)
開国と不平等条約(154-155)	本文 解説 図版 解説			・「イギリスから独立したアメリカは、アヘン戦争後に中国への進出を強め、太平洋をこえてアジアとの貿易を望むようになりました。(略)」 ・日米和親条約(部分要約)(函館) ・開港地(函館) ・日米修好通商条約(部分要約)(函館)
江戸幕府の滅亡(159)	本文 図版 写真			・「このような情勢の中で、第15代将軍となった徳川慶喜は、1867年、土佐藩のすすめで政権を朝廷に返し(大政奉還)、260年余り続いた幕府はほろびました。(略)」 ・戊辰戦争(函館) ・五稜郭(函館市)

	国境と領土の確定(168-169)	図版 写真	・国境の確定(宗谷海峡) ・屯田兵による開拓(旭川兵村記念館蔵)	
	産業革命の進展(182)	図版	・交通と産業の発達(札幌麦酒醸成所、幌内炭鉱、札幌、富良野、網走、厚岸、夕張、室蘭、函館)	
	北海道とアイヌ民族の歴史(234-235)	本文	・「江戸時代まで『蝦夷地』と呼ばれていた現在の北海道は、古くからアイヌ民族が住む土地でした。(略)」(再掲)	
		図版	・にしん漁でにぎわう江差の港(松前檜山屏風 函館市中央図書館蔵)(再掲)	
		写真	・蝦夷錦(函館市立函館博物館蔵)(再掲)	
	全ての子どもに教育を(236)	本文	・「岡山県出身の留岡幸助は、家庭環境にめぐまれない少年少女が非行に走らないよう、1899年、東京に『家庭学校』を設け、家庭的な環境の中で教育しました。(略)」	
		写真	・北海道家庭学校での収穫作業の様子	
	日本の領土をめぐる問題とその歴史(253-254)	本文	・「日本は第二次世界大戦後、周辺の国々と友好を深めていきましたが、その一方で、現在でも領土をめぐる問題をかかえています。(略)」	
		写真	・戦前の北方領土(北海道 千島歯舞諸島居住者連盟蔵)	
	各地の主な史跡(見返し)	図版	・各地の主な史跡(札幌、函館、松前藩戸切地陣屋跡、松前氏城跡福山城跡、白老仙台藩陣屋跡、東蝦夷地南部藩陣屋跡、北海道庁旧本庁舎、琴似屯田兵村兵屋跡、フゴッペ洞窟、白滝遺跡群、常呂遺跡、最寄貝塚、モシリヤ砦跡、東釧路貝塚、根室)	
		写真	・北海道庁旧本庁舎(札幌市)	
教出	アイヌの人たちの歴史と文化等	本文	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が先住民として住み、古くから狩猟や漁、交易を行っていました。(略)」	
		図版	・15世紀ごろの琉球王国やアイヌ民族の交易ルート	
		コラム	・オホーツク文化と擦文文化	
		注記	・「津軽半島や下北半島をはじめ、東北地方の北部に居住するアイヌ民族もいました。」	
		写真	・志苔館跡	
			写真	・出土した銅銭
			写真	・クジラの牙でつくられたクマの像
		開かれた窓(111)	本文	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が、千島列島や樺太、中国にわたる広い地域で、豊かな海産物や毛皮などの交易をしながら暮らしていました。(略)」
			注記	・「松前藩は、和人とアイヌ民族の住む地域を分けたうえ、家臣たちには、米の代わりにアイヌの人たちとの交易の権利を与えました。」
			写真	・シャクシャインの像
		繰り返される政治改革(123)	本文	・「田沼のあと老中になった松平定信は、農村の復興と政治の引きしめに取り組みました。(略)」
		学習のまとめと表現(128)	図版	・日本地図(松前藩…アイヌの人たちを支配した。)
		ザン切り頭をたたいてみれば(163) アイヌの文化を伝えた人たち(171)	コラム 本文	・北海道の開拓とアイヌの人たち ・「1869(明治2)年、蝦夷地は北海道と改められ、移住と開拓が進められました。(略)」
		写真	・知里幸恵	
		写真	・金田一京助	
		写真	・幸恵が金田一のもとに送ったノート	
	デモクラシーのうねり(206)	本文	・「第一次世界大戦が終わると、日本の貿易は再び輸入が輸出を上回り、景気が悪化しました。(略)」	
	敗戦からの再出発(237)	本文	・「アメリカ軍のマッカーサーを最高司令官とする連合軍総司令部(GHQ)は、日本政府に指令を出して、軍国主義を取り除き、民主主義を推し進める政策を実行しました。(略)」	
	未来をひらくために(261)	本文	・「人類は、長い歴史を通して、差別をなくし、人権と民主主義の確立を求めてきました。(略)」	
		注記	・「2007年に、国連総会で『先住民の権利に関する国連宣言』が採択されたことを受けて、2008年には国会で、政府に対して『アイヌ民族を先住民とすることを求める決議』が採択されました。」	
	歴史年表	年表 年表 年表	・日本の歩み(シャクシャインの戦いが起こる) ・日本の歩み(アイヌ文化振興法成立) ・日本の歩み(アイヌ民族を先住民とすることを求め	

	見返し	図版	る決議) ・各地の主な遺跡・史跡・できごと(シヤクシャインの戦い)
道 内 の 市 町 村 等	北と南で開かれた交易 (75)	本文	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が先住民として住み、古くから狩猟や漁、交易を行っていました。(略)」(再掲)
		写真	・志苔館跡(函館市)(再掲)
		写真	・出土した銅銭(函館市)(再掲)
		写真	・クジラの牙でつくられたクマの像(網走市立郷土博物館蔵)(再掲)
		コラム	・「オホーツク文化と擦文文化」(再掲)
	泰平の世の土台づくり(105)	図版	・主な大名の配置(1664年)(松前)
	開かれた窓(110-111)	図版	・鎖国下の日本の窓口(松前)
		本文	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が、千島列島や樺太、中国にわたる広い地域で、豊かな海産物や毛皮などの交易をしながら暮らしていました。(略)」(再掲)
		注記	・「松前藩は、和人とアイヌ民族の住む地域を分けたい、家臣たちには、米の代わりにアイヌの人たちとの交易の権利を与えました。」(再掲)
		写真	・シヤクシャインの像(新ひだか町)(再掲)
	将軍のおひざもと、天下の台所 (114)	図版	・蝦夷地のにしん漁(『松前檜山屏風』函館市立函館図書館蔵)
	学習のまとめと表現(128)	図版	・日本地図(松前藩)(再掲)
	内と外の危機(142-143)	本文	・「1792年、東方への進出を目ざすロシアから、使節ラクスマンが根室に来航し、日本との貿易を求めました。(略)」
		図版	・幕末の北方探検(松前、函館、石狩、宗谷、厚岸、根室)
	図版	・日本への外国船の接近(室蘭、根室)	
たった四はいで夜も眠れず (144-145)	本文	・「態度を決めかねた幕府は、朝廷に報告し、初めて大名に意見を求めました。(略)」	
	図版	・ペリー艦隊の航路(函館)	
	コラム	・「ペリーの那覇・函館寄港」	
	写真	・ペリー提督来航記念碑(函館市)	
学習のまとめと表現 (152)	年表	・日本の動き(ロシアの使節が根室に来航)	
	年表	・日本の動き(下田・函館の開港)	
	図版	・日本地図(根室と函館の位置)	
万機公論に決すべし (156)	本文	・「新政府への徳川慶喜の参加が拒否された不満から、旧幕府軍は、1868(慶応4)年1月、鳥羽・伏見(京都府)で新政府軍と戦いを起こしました。(略)」	
	写真	・五稜郭(函館市)	
	図版	・戊辰戦争(函館)	
ザン切り頭をたたいてみれば (162)	注記	・「お雇い外国人は、政府・工場・学校などで指導にあたりました。(略)」	
	写真	・クラークの像(札幌市)	
アイヌ文化を伝えた人たち (171)	本文	・「1869(明治2)年、蝦夷地は北海道と改められ、移住と開拓が進められました。(略)」(再掲)	
近代産業を支えた糸と鉄 (185)	図版	・明治時代の主な工場や鉱山、鉄道の広がり(札幌、幌内炭鉱、釧路、開拓使麦酒醸造所)	
学習のまとめと表現(190)	図版	・日本地図(五稜郭…戊辰戦争の最後の戦いの地)	
大正・昭和初期の面影を訪ねて (211)	図版	・路面電車が走っている都市(札幌、函館)	
独立から復興へ(245)	写真	・北海道の東端から見た北方領土(根室市)	
歴史年表	年表	・日本の歩み(ラクスマンが根室に来る)	
折り込み	図版	・江戸時代の産業と交通(函館、松前)	
見返し	図版	・各地の主な遺跡・史跡・できごと(函館、松前藩戸切地陣屋跡、志苔館跡、大船遺跡、五稜郭跡、福山城、上之国勝山、花沢館跡、モロラン南部藩陣屋跡、善光寺跡、手宮洞窟、札幌、白老仙台藩陣屋跡、フゴッペ洞窟、琴似屯田兵屋、開拓使札幌本庁舎跡、音江環状列石、常呂遺跡、モヨロ貝塚、北斗遺跡、東釧路貝塚、モシリヤ砦跡、国泰寺跡、西月ヶ岡遺跡、根室、シベチャリ砦跡)(再掲)	
清 水	東アジア世界とのかかわり (77)	本文	・「沖縄本島では、15世紀はじめに尚氏が島を統一して琉球王国をつくった。(略)」
		注記	・「アイヌは人間という意味で、アイヌの人びとは自分

の人たちの歴史と文化等			たちが住み活動する土地をアイヌモシリ（「人間の大地」）とよんだ。」	
	外国や周辺地域との関係 (114-115)	図版 本文	・四つの口 ・「家康は、蝦夷地の松前氏にアイヌとの貿易の権利を保証した。(略)」	
		写真 図版	・ジャクシャイン ・年始のあいさつに来たアイヌの代表者	
	領土の確定と北海道・沖縄 (179)	本文 注記	・「政府は、未開墾の広大な土地が残されていた北海道の開拓を重視した。(略)」 ・「旧土人保護法は、アイヌに土地をあたえて農業をさせることなどを定めていたが、アイヌには農業に適さない土地があたらえれ、開墾できなかつたとして没収されることもあった。(略)」	
	社会運動とその取り締まり (218)	本文	・「女性にも新たなうごきがみられ、家の制度や良妻賢母主義に対する批判や、選挙権をはじめとする政治的な権利の獲得を求める運動が進められた。(略)」	
	今後の課題 (273)	本文	・「日本は、中国や朝鮮などの文の影響を受けながら、文明を発展させ、国家の組織をととのえてきた。(略)」	
	折り込み	年表 年表	・日本の歩み（ジャクシャインの戦い） ・日本の歩み（アイヌ文化振興法成立）	
	見返し	図版	・日本の歴史的遺産（ジャクシャインの戦い）	
	道内の市町村等	遺跡から原始の時代を探ろう (13)	図版	・縄文時代のおもな遺跡（柏木B）
		江戸幕府の成立と大名統制 (108)	図版	・おもな大名の配置図（松前）
外国や周辺地域との関係 (114-115)		図版 本文	・「四つの口」（松前藩）（再掲） ・「家康は、蝦夷地の松前氏にアイヌとの貿易の権利を保証した。(略)」（再掲）	
		写真 図版	・ジャクシャイン（日高）（再掲） ・年始のあいさつに来たアイヌの代表者（函館市中央図書館蔵）（再掲）	
諸産業の発達 (117-118)		図版 図版 図版	・江戸時代の産業（函館、松前、江差） ・蝦夷地のにしん漁（江差浜）（函館市中央図書館蔵） ・江戸時代の交通（松前）	
欧米諸国の接近と対応 (132)		本文 図版 図版	・「1792年にロシアの使節としてラクスマンが日本人の漂流民をともなって蝦夷地（北海道）の根室に来航した。(略)」 ・日本にせまる外国（函館、室蘭、根室） ・北方探検（松前、函館、根室、宗谷）	
ペリーの来航と開国 (160-161)		本文 図版	・「1853年、アメリカ合衆国の使節ペリーが4隻の軍艦を率いて、江戸湾の入口の浦賀（神奈川県）にあらわれた。(略)」 ・開港地（函館）	
江戸時代の終わり (165)		本文 図版	・「1867年、薩長両藩は、王政復古をめざす公家の岩倉具視とむすんで、武力による倒幕を計画した。(略)」 ・戊辰の内乱（函館、五稜郭の戦い）	
領土の確定と北海道・沖縄 (179)		本文 写真	・「政府は、未開墾の広大な土地が残されていた北海道の開拓を重視した。(略)」（再掲） ・札幌農学校（札幌市）	
折り込み		年表	・日本の歩み（ロシア船が根室に来航）	
折り込み		年表	・日本の歩み（冬季オリンピック札幌大会）	
見返し		図表	・日本の歴史的遺産（北海道開拓使、札幌農学校）	
帝国		アイヌの人たちの歴史と文化等	コラム	・北と南をおそったもう二つの蒙古襲来
	海をこえてせまる元軍 (63)	本文	・「日本列島の北端では、狩りや漁を中心とした生活が長く続いていましたが、13世紀までにはアイヌ文化が成立しました。(略)」	
	琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 (71)	図版 図版 図版 解説	・日本の北と南の交易（アイヌの人々の交易路） ・勝山館の生活 ・「蝦夷は古代に日本の東北部に住んでいた先住民をさして、和人がつくった言葉です。」	
		写真 コラム	・くま像 ・北海道の独自の文化	
	琉球王国とアイヌの人々への支配 (111)	本文 写真	・「蝦夷地（北海道）の南西部を領地とした松前藩は、耕地がとぼしく冷涼な気候で米がとれなかったことから、年貢米による収入のかわりにアイヌの人々と交易し、その利益を得る権利を幕府から認められました。(略)」 ・松前藩とアイヌの人々の取引	

	写真 図版 図版 図版	・シャクシャイン像 ・江差の港のにしん漁のようす ・アイヌオムシヤのようす ・1699年ごろの蝦夷地
琉球とアイヌの人々の暮らし (112-113)	本文  写真 写真 図版 図版 図版 図版 解説	・「アイヌの人々は、自然・動物・植物など生活に関係するすべてのものに神が存在すると考え、それらに感謝して、必要な量だけを狩猟・漁労・採集でとって生活していました。(略)」 ・木の皮でつくられたアイヌの衣服 ・蝦夷錦 ・イオマンテ ・蝦夷地のようす ・蝦夷錦が伝わった道 ・ふくろうの神みずから歌った謡～銀の滴降る降るまわり～
沖縄・北海道と近代化の波 (169)	本文  写真 図版	・「開拓が進むにつれて、アイヌの人々は狩りや漁の場をうばわれました。(略)」 ・アイヌ学校 ・北海道に残るさまざまな地名
社会運動の高まりと普通選挙の実現 (207)	本文	・「『解放令』が出されたのちも、働く条件や結婚などの差別はなくならなかったため、みずからの手による部落差別問題の解決をめざして、1922年に全国水平社が結成されました。(略)」
近代都市が生み出した大衆文化 (211)	本文  解説 写真 注釈	・「都市の発達とともに生活習慣の欧米化が進みました。(略)」 ・「アイヌ神謡集」序文 ・知里幸恵 ・「アイヌの少女、知里幸恵は、神々のユカラにローマ字での発音と日本語訳をつけ『アイヌ神謡集』にまとめました。」
グローバル化が進む世界(256)	コラム	・日本における先住民族
歴史年表2(Ⅲ)	年表	・日本の歩み(蝦夷地でシャクシャインの戦いが起こる)
歴史の舞台を訪ねよう(Ⅶ)	図版	・教科書に出てくる歴史の舞台(勝山館)
見返し	年表	・日本の歴史(札幌冬季オリンピック)
ムラがまとまりクニへ (25)	写真  図版	・黒曜石(千歳市キウス9遺跡出土 北海道埋蔵文化財センター蔵) ・日本各地に広がる縄文・弥生時代の交易(キウス9遺跡)
琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 (71)	図版 図版 コラム 写真	・日本の北と南の交易(勝山館)(再掲) ・勝山館の生活(北海道上ノ国町)(再掲) ・北海道の独自の文化(根室半島)(再掲) ・くま像(北海道網走市立博物館蔵)(再掲)
幕藩体制の始まり(103)	図版	・おもな大名の配置(松前)
四つにしばられた貿易の窓口 (108-109)	本文  図版	・「幕府が貿易を統制し、日本人の出入国を禁止した政策は、江戸時代後半『鎖国』とよばれるようになりました。(略)」 ・四つの窓口と朝鮮通信使のたどった道(松前)
琉球王国とアイヌの人々への支配 (111)	本文  写真 図版  図版 図版 図版	・「蝦夷地(北海道)の南西部を領地とした松前藩は、耕地がとぼしく冷涼な気候で米がとれなかったことから、年貢米による収入のかわりにアイヌの人々と交易し、その利益を得る権利を幕府から認められました。(略)」(再掲) ・シャクシャイン像(新ひだか町)(再掲) ・江差の港のにしん漁のようす(函館市中央図書館蔵)(再掲) ・アイヌオムシヤのようす(函館市中央図書館蔵)(再掲) ・1699年ごろの蝦夷地(染退、白老、小樽、余市、長万部、熊石、函館、松前)(再掲) ・松前藩とアイヌの人々の取り引き(北海道博物館蔵)(再掲)
琉球とアイヌの人々の暮らし (113)	本文  写真 写真 図版	・「琉球やアイヌの人々は、中国とも交流がありました。(略)」 ・木の皮でつくられたアイヌの衣服(北海道 アイヌ民族博物館蔵)(再掲) ・蝦夷錦(北海道市立函館博物館蔵)(再掲) ・蝦夷錦が伝わった道(松前)(再掲)



文化等		図版	・オムシャ
		図版	・アイヌと松前藩の取り引き基準の変化
		図版	・シヤクシャインの戦いの関係図
		注記	・「戦いは約2か月間におよびました。(略)」
	領土の画定と隣接地域(177)	本文	・「政府は、1869年に開拓使という役所をおき、蝦夷地を北海道と改めて多様な開拓事業を進めました。(略)」
		写真	・アイヌの伝統的な衣服
		注記	・「のちに、税金のすえおきや農地の供与、アイヌ学校の設置などの保護政策をとりましたが、先住民族としての地位や生活は向上しませんでした。」
	社会運動の広がり(217)	本文	・「第一次世界大戦跡には、さまざまな差別からの解放を求める運動(解放運動)も広がりを見せました。(略)」
	第二次世界大戦後の世界と日本(249)	本文	・「総司令部による改革とともに、民主化をめざす国民の運動が進められました。(略)」
	21世紀の日本の役割(271)	本文	・「国内にも解決しなければならない問題があります。(略)」
アイヌと沖縄の近代と現代(272)	本文	・「明治時代に蝦夷地は「北海道」と改められ、アイヌの人々は、1871(明治4)年に、戸籍のうえで「平民」となりました。(略)」	
	写真	・二風谷ダム	
	写真	・アイヌ文化の体験学習のようす	
	写真	・「象徴空間」の整備が進むポロト湖畔の伝統家屋群	
見返し	図版	・教科書に出てくる主なできごと・史跡・関係地(シヤクシャインの戦い、コシヤマインの戦い)	
歴史年表(折り込み)	年表	・日本のあゆみ(アイヌ民族のまとめ)	
道内の市町村等	東アジアとの交流(81)	図版	・館のあったところ(箱館)(再掲)
		写真	・志苔館跡(函館市)(再掲)
	隣接地域との関係(121)	本文	・「蝦夷地(北海道)の大部分には、漁業や狩猟で生活するアイヌの人たちが住んでいました。(略)」(再掲)
		注記	・「戦いは約2か月間におよびました。(略)」(再掲)
		図版	・鎖国下の窓口(松前藩)
		図版	・オムシャ(日高アイヌ・オムシャ之図 函館市中央図書館蔵)(再掲)
		図版	・アイヌと松前藩の取り引き基準の変化(松前藩)(再掲)
		図版	・シヤクシャインの戦いの関係図(松前・函館)(再掲)
	19世紀後半の日本と世界(149)	図版	・世界地図(函館)
	ゆらぐ幕府の支配(158)	図版	・主な外国船の接近(根室)
		図版	・幕府の北方調査(根室、宗谷、松前)
	開国(160-161)	本文	・「1853年、アメリカの東インド艦隊司令長官ペリーが、4隻の軍艦を率いて浦賀(神奈川県)に現れました。(略)」
		図版	・アメリカと結んだ条約との関係地(函館)
	江戸幕府の滅亡(163)	図版	・幕末の世直しと倒幕の動き(函館、五稜郭)
	明治の暮らし(173)	図版	・鉄道の発達(函館、札幌、旭川、釧路)
	領土の画定と隣接地域(177)	本文	・「政府は、1869年に開拓使という役所をおき、蝦夷地を北海道と改めて多様な開拓事業を進めました。(略)」(再掲)
		写真	・アイヌの伝統的な衣服(旭川市博物館蔵)(再掲)
	日本の参戦と大戦景気(211)	図版	・米騒動の広がり(函館)
	第6編 歴史を掘り下げる「アイヌと沖縄の近代と現代」(272)	本文	・「明治時代に蝦夷地は「北海道」と改められ、アイヌの人々は、1871(明治4)年に、戸籍のうえで「平民」となりました。(略)」(再掲)
		写真	・二風谷ダム(再掲)
	写真	・アイヌ文化の体験学習のようす(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)(再掲)	
	写真	・「象徴空間」の整備が進むポロト湖畔の伝統家屋群(白老町)(再掲)	
見返し	図版	・教科書に出てくる主なできごと・史跡・関係地(松前、函館、シブチャリ、札幌農学校、五稜郭)(再掲)	
歴史年表(折り込み)	年表	・日本のあゆみ(冬季オリンピック札幌大会)	
	年表	・日本のあゆみ(北海道洞爺湖サミット)	
自	見返し	写真	・二風谷アットウシ
	日明貿易と朝鮮・琉球	本文	・「蝦夷地(北海道)では、アイヌと呼ばれる人々が、

由社	史との文化化等	(97)		狩猟や漁業を行っていたが、14世紀ごろに、津軽（青森県）の十三湊を拠点にした交易が始まり、鮭・昆布・毛皮などもたらした。(略)」
		鎖国日本の4つの窓口(128-129)	本文	・「徳川家康は対馬領主の宗氏を介して、秀吉の出兵で断絶していた朝鮮との国交を回復した。(略)」
		日本の近代化とアイヌ(175)	本文	・「蝦夷地（北海道）では、日本本土が農耕社会に変わってからも、狩猟採集の社会を維持しました。(略)」
		歴史年表②	年表	・日本のおもなできごと（アイヌの族長シャクシャインが蜂起し、松前藩と戦う）
道内の市町村等	見返し 自然の恵みと縄文文化(31)		写真 注記	・二風谷アットウシ（紗流川流域）(再掲) ・「北海道函館市から出土した約9000年前の漆塗りの副葬品（死者といっしょに埋葬した品々）は、世界最古の漆製品である。」
		中世の都市と農村の変化(101)	図版	・室町時代の各地の特産品(松前)
		鎖国日本の4つの窓口(128-129)	本文	・「徳川家康は対馬領主の宗氏を介して、秀吉の出兵で断絶していた朝鮮との国交を回復した。(略)」(再掲)
			写真	・松前藩とアイヌの人々との交易の儀式(復元模型・北海道開拓記念館蔵)(再掲)
			図版	・鎖国下の4つの窓口(松前藩)
		農業・産業・交通の発達(137)	図版	・江戸時代の交通路と都市および各地の特産品(松前、函館)
		正確な日本地図をつくった伊能忠敬(140)	本文	・「伊能忠敬は1745年(延享2)年、上総国小関村(現在の九十九里町)の網元の家に生まれました。(略)」
		幕府政治の動揺(148)	図版	・欧米諸国の船が目撃された数(松前、函館、根室、利尻島、宗谷海峡)
		ペリーの来航と開国(158-159)	図版 本文	・ペリーの2回の来航(箱館) ・「1854(安政元)年1月、ペリーは再び神奈川県沖にやってきた。(略)」
		尊皇攘夷運動の展開(160)	本文	・「幕府は、朝廷の許可を得られないまま、1858(安政5)年、日米修好通商条約を結び、箱館(函館)、神奈川、新潟、兵庫(神戸)、長崎の5港を開いた。(略)」
		明治新政府(164)	本文	・「天皇のもとにつくられた明治新政府の指導者に任命されたのは、倒幕派の公家と武士たちであった。(略)」
		近隣諸国との国境画定(172)	図版	・樺太・千島交換条約(札幌)
		近代産業の発展とその背景(202-203)	図版	・民間に払い下げられた代表的な官営模範工場(札幌麦酒醸造所)
			図版	・鉄道網の発達(函館、室蘭、札幌)
		100字用語解説(210)	解説	・日米和親条約(函館)
歴史年表②	年表	・日本のおもなできごと（アイヌの族長シャクシャインが蜂起し、松前藩と戦う）(再掲)		
	年表	・日本のおもなできごと（ロシアのラクスマンが根室に来て通商を要求）		
育鵬社	の歴史との文化化等	室町幕府と東アジア(85)	本文	・「14世紀後半の琉球(沖縄県)は、3つの小国に分立していましたが、15世紀初め、尚氏が統一し、琉球王国が成立しました。(略)」
			注記	・「蝦夷地にもともと住んでいた人々のことで、アイヌとは『人』を意味する。」
		学習のまとめ②(94)	図版	・日本地図(アイヌが独自の社会と文化を築く。)
		「鎖国」の時代に開かれていた窓口(120-121)	本文	・「江戸時代の北海道や樺太(現在のサハリン)は蝦夷地とよばれていました。(略)」
			図版	・オムシヤ
			写真	・蝦夷錦
		学習のまとめ③(149)	図版	・日本地図「アイヌとの交易とその支配が行われる。」
		調べ学習に～インターネットに役立てよう(290)	注記	・歴史に関する展示のあるその他の博物館(アイヌ民族博物館)
		縄文時代探検!(25)	図版	・黒曜石、ヒスイの原産地とヒスイの発見されたおもな遺跡(礼文島、白滝、十勝)
		産業の発達と広がる自治の動き(89)	図版	・室町時代のおもな交通路と各地の特産品(松前)
道内の市町村等	「鎖国」の時代に開かれていた窓口(120-121)	本文	・「江戸時代の北海道や樺太(現在のサハリン)は蝦夷地とよばれていました。(略)」(再掲)	
		写真	・蝦夷錦(函館市立函館博物館蔵)(再掲)	
		図版	・オムシヤ(函館市中央図書館蔵)(再掲)	
		図版	・鎖国下の4つの口(松前藩)	
		新田の開発と産業・交通の発達	図版	・江戸時代の交通と都市と産物(函館・松前)

	(127)		
	欧米諸国の接近 (136-137)	本文	・「18世紀になると、わが国の周辺にも外国船が姿をあらわすようになりました。(略)」
		図版	・おもな外国船の接近(根室)
		図版	・北方探検地図(松前、函館、厚岸、根室、宗谷)
	黒船来港の衝撃 (160)	本文	・「1853(嘉永6)年6月、江戸に近い浦賀沖(神奈川県)にアメリカ海軍提督ペリーの率いる4隻の艦隊(黒船)があらわれました。(略)」
		解説	・日米和親条約(一部要約)(函館)
	五箇条の御誓文と明治維新 (166)	本文	・「王政復古の号令によって成立した新政府は、徳川慶喜に官職と領地を返すよう命じました。(略)」
		写真	・五稜郭
	明治初期の外交と国境の画定 (172)	注記	・「北海道の行政や開発を担当した行政機関。(略)」
		写真	・当時の屯田兵屋(北海道大学附属図書館蔵)
		図版	・樺太・千島をめぐる国境の画定(札幌)
	殖産興業と文明開化(179)	図版	・全国に広がった鉄道網(札幌・室蘭・函館)
	お雇い外国人 (200)	本文	・「1876(明治9年)札幌農学校の教頭としてまねかれたのが、アメリカ人のウィリアム・スミス・クラーク(1826~86)でした。(略)」
		写真	・さっぽろ羊ヶ丘展望台に立つクラーク像
	ワシントン会議と日米関係(219)	コラム	・世界の平和に力をつくした新渡戸稲造(札幌農学校)
	調べ学習に~インターネットに役立てよう(290)	注記	・歴史に関する展示のあるその他の博物館(アイヌ民族博物館)(再掲)
	折り込み	年表	・日本の主なできごと(札幌オリンピック)
	見返し	図版	・各地のおもな遺跡・史跡(函館、松前、室蘭、白老、琴似、札幌、シベチャリ、東釧路、常呂)
		写真	・五稜郭跡(函館)
学び舎	インド洋へ、地中海へ (49)	本文	・「10世紀に入ると、東アジアでも大きな変動がおきました。(略)」
		図版	・アイヌの交易船
	一つにつながるユーラシア(73)	コラム	・元を攻撃したカラフト(サハリン)のアイヌ
	アジアの海をつなぐ王国 (85)	本文	・「津軽半島(青森県)の日本海側に十三湖があり、その海への出口に十三湊という港町がありました。(略)」
		写真	・ラッコ
		コラム	・アイヌの人びとがになう北方の交易
		図版	・15世紀アジアの海上交易路
	日本町が消える (111)	本文	・「幕府は、島原・天草一揆ののち、1639年にポルトガル人の来航を禁止しました。(略)」
		図版	・1630年ごろの東アジア・東南アジア
	北の海から来た昆布 (122-123)	本文	・「18世紀中ごろになると、京都などの芝居小屋では、饅頭などとともに昆布の煮物が観客に売られました。(略)」
		解説	・エミシとエゾ
		図版	・昆布などを交易の場所(運上屋)に持ち込むアイヌの人びと
		図版	・昆布をとるアイヌの人びと
		図版	・アイヌの首長・ツキノエ
北・南を組み込み、国境を引く (188-189)	コラム	・東京に出て日本語を学んだアイヌの人たち	
	本文	・「明治維新まで、現在の北海道は蝦夷地とよばれていました。(略)」	
	解説	・北海道の地名	
	解説	・アイヌの文化	
	写真	・東京で学ぶアイヌの女性たち(1872年)	
年表(302)	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(十三湊でアイヌが交易を行う)	
年表(304)	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(コシヤミンが戦いを起こす)	
年表(306)	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(蝦夷地でシャクシャインが戦いを起こす)	
	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(蝦夷地のクナシリでアイヌが戦いを起こす)	
年表(308)	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(北海道旧土人保護法を定める)	
年表(312)	年表	・日本の社会・政治・経済の動き(アイヌ文化振興法が成立する)	

道 内 の 市 町 村 等	見返し	図版	・歴史地図・日本（ジャクシャインの戦い）
	インド洋へ、地中海へ(49)	図版	・アイヌの交易船（函館市中央図書館蔵）（再掲）
	どこまでつづく大名行列(109)	図版	・大名の配置と石高（松前）
	日本町が消える (111)	本文	・「幕府は、島原・天草一揆ののち、1639年にポルトガル人の来航を禁止しました。(略)」(再掲)
		図版	・1630年ごろの東アジア・東南アジア（松前）（再掲）
	刀より金銀の力(121)	図版	・江戸時代の航路と街道（江差、松前）
	北の海から来た昆布 (122-123)	本文	・「18世紀中ごろになると、京都などの芝居小屋では、饅頭などととも昆布の煮物が観客に売られました。(略)」(再掲)
		図版	・蝦夷錦と昆布の交易ルート（松前）
	毛皮を求めて東へ (136-137)	コラム	・ロシア皇帝に目会した光太夫（根室、松前）
		図版	・大黒屋光太夫の行路（松前、根室）
		図版	・大黒屋光太夫と磯吉（北海道大学附属図書館蔵）
		本文	・「幕府は、蝦夷地での交易と警備を、松前藩（北海道）にまかせていました。(略)」
	外に危機、内にも悩み(138)	図版	・日本に接近する外国船（室蘭、根室）
	黒船を見に行こう (159)	本文	・「アメリカは、1848年には、領土を太平洋のカリフォルニアまで広げていました。(略)」
		解説	・開港する5港（函館）
	政治が売り切れた(167)	図版	・戊辰戦争での新政府軍の進路（函館）
	本文	・「これに反発した旧幕府軍1万5000人が、薩摩藩や長州藩などの新政府軍4500人と、1868年1月、鳥羽・伏見（京都府）で戦いをはじめました（戊辰戦争）。(略)」	
北・南を組み込み、国境を引く (188-189)	コラム	・東京に出て日本語を学んだアイヌの人たち（札幌市）（再掲）	
	解説	・北海道の地名（札幌）（再掲）	
	写真	・東京で学ぶアイヌの女性たち（1872年）（北海道大学附属図書館蔵）（再掲）	
インドも中国も来なかった(267)	図版	・日本にあった主なアメリカ軍基地（千歳）	
年表(299)	写真	・日本の文化・宗教（オホーツク文化　クマをかたどったものが多い）（網走市立郷土博物館蔵）	
	写真	・日本の文化・宗教（擦文文化　土器の表面にはげて擦ったもようがある。）（北海道立開拓記念館蔵）	
年表(312)	年表	・日本の文化・宗教（札幌オリンピック）	
	年表	・日本の文化・宗教（青函トンネル）	
見返し	図版	・歴史地図・日本（琴似屯田兵村兵屋跡、五稜郭跡、シベチャリ砦跡、札幌、松前、函館、根室、千島列島、国後島、択捉島、歯舞群島、色丹島）（再掲）	